重症肺結核患者ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ增殖ニ就テ

大阪帝國大學醫學部今村內科(主任今村敎授)
醫學士　澁　川　隆　曹

目　次

第一章　緒　言
第二章　實驗方法
第三章　健康人ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌增殖
第四章　總括竝ニ考案
第五章　結　論
文　獻
附圖及ビ附圖說明

第一章　緒　言

Foder[1]ハ 1887 年ニ家兎ノ全血液ヲ以テ脾脫疽菌ヲ培養シタル事ガ全血液培養法ノ最初ニシテ氏ハ試驗管內ニテ動物ノ心臟ヨリ得タル血液ニ一定量ノ脾脫疽菌ヲ混入シ、之レヲ 37 度ノ血溫中ニテ 1—3 時間放置シ、再ビ該混合液ヲ「ゲラチン」平面板ニ薄ク塗布シ、更ニ血溫中ニテ培養スル事ニヨリ脾脫疽菌ノ增殖狀態ヲ觀察セリ。

夫レヨリ後 Nuttal[2]ハ此ノ方法ヲ追試シ、家兎ノ外鼠、山羊、鳩ノ血液ヲ以テ脾脫疽菌ヲ培養シ、血液ノ抗菌性ヲ研究セリ。尙ホ又家兎ノ血液ニテハ脾脫疽菌以外 Bacillus Subtilis und Megatherium ニ於テモ該血液培養法ニヨリ菌增殖阻止作用ガ認メラレタリ。

Buchner[3][4][5]及ビ彼ノ門下生ハ血液ノ抗菌素ハ熱ニ對シ不安定ニシテ 55 度ノ溫度ニテ 1 時間加熱スル事ニヨリ、血液中ノ抗毒力ノ消失スル事ヲ明カニセリ。Pfeiffer[6]ハ免疫學ヲ研究シ、現今ノ免疫學上ノ根本原理ヲ作リタリ。Schottmüller und Barfurth[7][8] ハ人血液ノ抗毒素ヲ定量スル爲連鎖狀球菌等ヲ血液內ニテ培養シ、其ノ毒力ヲ測定セリ。Ruge[9] Philipp[10] ハ又連鎖狀球菌ノ人血液內培養ヲ研究セリ。其後 Lehmann[11] ハ Ruge, Philipp ノ方法ヲ追試シ、連鎖狀球菌ヲ、纖維ヲ取レル健康人及ビ重症敗血症患者ノ血液ニテ培養セシニ、重症患者ノ血液ニテハ菌ハ盛ニ增殖スルモ、健康成人ノ血液內ニテハ前者程旺盛ナル增殖ヲ見ザリキ。其ノ後數年ニシテ Heist, S. Solis-cohen u. M.Solis-cohen[12]ハ種々ノ苦心ノ結果毛細管法ヲ改良シタル次ノ方法ヲ考案セリ、卽チ患者ノ全血液ト患者ヨリ分離セシ菌トヲ混合シ、之レヲ毛細管內ニ封入シテ培養セリ。

Wright[13][14][15] ハ以前ヨリ全血液培養法ヲ研究シ、全血液ノ殺菌作用ニ關シテハ、初メハ毛細管內培養法ヲ用ヒシモ後ニハ、彼ハ毛細管法ト同ジ目的ヲ達シ得ル方法ニシテ、而モ簡便ナル「スライドセル、カルチュア」ヲ考案セリ。氏ハ毛細管ヲ用ヒテ肺炎患者ノ全血液內ニ肺炎菌ヲ培養シタルニ菌增殖ノ阻止セル事ヲ證明シ、其ノ後 Eastwood[16] 及ビ Solis-cohen[17] ハ Wright ノ毛細管法ヲ改良シタル方法ニヨリ肺炎球菌ニ對スル自然免疫及ビ實驗免疫動物ノ全血液殺菌作用ニ就キ研究セシヨリ、世人ノ注目ヲ引キ起スニ至レリ。Kolmer & Matsunami[18][19] ハ同方法ヲ多少改良シ、腦膜炎菌ニツキ研究セリ、然レドモ是等ノ方法ニ關シテハ種々ナル非難アリテ Bull & Bartual[20]ハ難シトナシ、Smiley[21] ハ其ノ成績ノ不安定ナルヲ非難セリ。Smiley 氏法ハ毛細管法ノ如ク最後ノ判斷ヲ塗抹標本ノ所見ニヨラズシテ、之レヲ好適培養地ニ移植播種シ、其ノ培養試驗ノ成績ヲ以テ判斷セリ。之レニヨリテ增殖阻止作用ト殺菌作用トノ區別ハ略ボ明ニセラルヽ事トナレリ、然シ Smiley ハ血塊中ノ菌ニハ觸レズ血淸部ノミヲ採リテ培養試驗ニ供シタリ。

Wright[14][15] ノ Implanting Methode トシテハ「スライドセル、カルチュア」法アリ。本法ハ細菌及ビ全血液ノ混合ヲ2枚ノ載物硝子ノ間ニ封鎖シ、之レヲ血温中ニ培養シ、一定時間後其内ニ生ズル細菌ノ聚落ヲ観察スルモノニシテ最近佐藤(理)次デ高橋ハ今村敎授ノ指導ノ下ニ Wright 原法ニ改良ヲ加ヘ後述ノ如キ方法ヲ得タリ。以下結核菌ヲ用ヒテ血液内菌増殖ヲナシタル主要文獻ヲ述ベン。

A. E. Wright ハ 1924 年ニ "Neu Methode for the Study of the Pathology and treatment of tuberculous disease" ナル表題ニ於テ Slide cell culture 及ビ、毛細管培養法ヲ以テ結核菌ノ全血液内培養ヲ試ミタリ。

該論文中ニハ實驗例ヲ記載セザルモ大體次ノ如シ。

Slide cell culture ニ於テ培養後 24 時間ヲ經過スレバ既ニ 2—5 個ノ菌ヨリ成ヲ聚落ヲ形成シ、48 時間ヲ經レバ聚落ハ顯微鏡ノ弱廓大ニテ充分ニ見得ル迄ニ聚落増大ス、而シテ結核菌ノ周圍ニハ多核白血球集合シ、喰菌セル像ヲ示ス、尙ホ喰菌セル多核白血球ハ迅速ニ破壞セラレ大小ノ單核白血球ト共ニ結核菌ヲ中心ニ大ナル集塊ヲ形成ス、次デ凝血膜ハ非薄トナリ、白血球塊ノ周圍溶解シ、空洞ヲ形成ス。此ノ作用ハ 24 時間後ニ觀察シ得ルモノニシテ、48 時間後ニハ空洞完成ス。此爲ニ Slide cell culture ノ所々ニ空洞ヲ生ズト稱シ、空洞形成ハ葡萄狀球菌培養ノ際ニハ之レヲ見ザル故ニ結核菌ガ白血球ニ作用シテ起リタル一種ノ特異ナル化學反應ニシテ恐ラクハ崩壞セル白血球ヨリ生ジタル「トリプシン」ガ纖維素ニ作用スルモノナラント說明セリ。

1926 年佐藤[50]ハ前述ノ如ク今村敎授ノ指導ノモトニ Wright 氏法ヲ改良シ、動物實驗ニ於テ研究シ「結核免疫ノ成因ニ關スル知見補遺」ヲ發表セリ。卽チ健康海猿血液中ニハ人型結核菌ノ發育増殖著明ナルモ、人型結核菌ヲ注射罹患セシメタル海猿ノ全血液中ニハ健康海猿ノ場合ノ如キ、結核菌ノ發育増殖ヲ見ズ。海猿ガ結核ニ罹患セバ「ツベルクリン」皮内反應ノ陽性ヲ示スト共ニ、血液中ニ結核菌ノ發育ヲ阻止スル作用ヲ發現ス。此ノ阻止作用ハ結核罹患ト特異的關係アリテ、他ノ諸種病原體ヲ以テ免疫處置ヲ施シタルモノニ於テハ本作用ハ現レズ。増殖セザリシ結核菌ト雖モ、之ヲ感受性アル動物ニ移植スレバ、病原性ヲ有シ、未ダ死滅セルニアラズ。結核菌阻止作用ハ本作用ヲ有スル血液ノ大量ヲ健常動物ニ注射スルモ此ノ作用ヲ移シ得ザル事ヲ證明セリ。

1927 年 Fry[22] ハ毛細管培養法ヲ用ヒテ、結核菌ニ對スル「サノクリジン」ノ作用ヲ檢セリ。卽チ人血或ハ血漿中ニテ、一定ノ濃度迄ハ結核菌ノ増殖ニ影響ナク、夫レ以上ノ濃度ニ於テハ作用一定セズ。人體ニ1瓦ヲ注射シ、注射ノ前後ニ其ノ血液ニ就テ檢シタルニ何等變動ナシ。

1927 年 Bannermann 氏[23] ハ血液培養ノ際ニハ炭粉末ヲ菌ト共ニ混ジテ培養シ、檢鏡ノ際炭粉末ヲ指示トシテ菌ヲ數量的ニ比較觀察スル方法ヲ案出シ、之ヲ以テ人血漿ニ就キテ鳥型結核菌ノ増殖ヲ檢シタルニ結核患者ノ血漿中ニハ菌ノ増殖ハ健康人血漿中ニ於ケルヨリモ不良ナルコトヲ實驗セリ。

1628 年 Hess u. G. Meissner[24] ハ Wright 氏方法ヲ以テ色素及ビ有機物質竝ニ無機物質ニ就テ、其ノ結核菌ヲニ對スル増殖阻止作用ヲ檢セリ。

1928 年 G. Meissner[25] ハ毛細管ニ吸込ミタル血液ト結核菌ノ混合液ガ凝固セル後ニ載物「ガラス」上ニ吹キ出シ、之ヲ濕潤ニ保テル「ペトリー氏シアーレ」内ニ移シ 37 度ニテ一定時間培養スル方法ヲ考案セリ。此ノ方法ハ菌ノ増殖ガ標本一面ニ同程度ニ行ハレ、菌ヲ數量的ニ觀察スルニ便ナリト言ヘリ。彼ハ此ノ方法ヲ用ヒテ實驗シ、次ノ如ク報告セリ。結核菌ノ血液内増殖ハ、實驗ニ供シタル健常海猿竝ニ家兎ニ於テハ、比較的ニ個性的差異ヲ示スコト僅少ナレドモ、健康人血液ハ甚ダシク個人的差異ヲ示ス。而シテ結核罹患海猿及ビ家兎全血液内ノ結核菌増殖ハ健康海猿及ビ家兎全血液ノ増殖ヨリ著シク不良ナリ。

1929 年 Sonak[26] ハ全血液内ノ結核菌増殖阻止作用ト「ツベルクリン、アレルギー」トノ關係ヲ兒童ニツキテ實驗シ、ピルケー反應陽性兒童ノ血液内ニテハ結核菌ノ増殖著シク阻止セラレ、之ニ反シ麻疹兒童ノピルケー反應陰性期及ビ其他ノピルケー反應陰性兒童ノ全血液内ニハ結核菌ノ増殖佳良ナリト記述セリ。

1930 年伊藤[52] ハ我敎室ニ於テ異リタル免疫方法ニヨル、結核免疫動物ノ全血液内結核菌増殖阻止作用ヲ比較研究シ、生菌及ビBCG菌ヲ以テ免疫スル時ハ阻止作用發現スルモ死菌免疫ニテハ阻止作用ノ發現ナキ事ヲ證セリ。

1931 年伊藤、飯田、野尻、澁川[53] ハBCGヲ接種セ

ル猿ニ就テノ實驗ニ際シ、接種後2週間乃至3週間ヲ經過スレバ其ノ血液內ニ結核菌增殖阻止作用ヲ現ハスコトヲ知リタリ。

同年高橋、芦村[58]ハ破喰結核菌ヲ培養スレバ結核菌ハ尙ホ增殖シ、決シテ死滅セザル事ヲ證明セリ。

1932年緒方[60]ハ今村敎授ノ命ニヨリ全血液內ニ於ケル結核菌增殖ニ關スル知見補遺ト題シ結核竝ニ健康海猽ニ各種ノ條件ヲ與ヘ、此全血液中ニ人型結核菌ヲ培養セル成績ニヨレバ海猽ヲ饑餓、過血糖狀態トナス時ハ血液中ノ結核菌增殖ハ著シク促進セラルヽモ一時的ニシテ、ヤガテ再ビ元ノ狀態ニ復歸ス。妊娠、「グリセリン」注射、瀉血、血液毒ニヨル貧血動物ハ菌增殖ニ變化ナク「ピロヂン」注射ニヨル貧血ハ全血液內結核菌增殖ヲ阻止ス、レントゲン照射ハ全血液內ノ結核菌增殖ヲ阻止シ、後ニ至リ促進スルト稱セリ。

同年緒方、澁川[62]ハ健康成人ノ全血液內ニ於ケル結核菌ノ增殖ニ就テ研究セシ所ニヨレバ一般ニ健康成人ノ全血液內菌增殖ハ旺盛ナル事ヲ證明セリ。

以上ノ文獻ヲ案ズルニ結核菌ヲ以テスル Slide cell culture ニ於テ健康人竝ニ結核患者ニ施行セルモノハ大體 Wright ノ1924年ニ發表セル所ト合致ス、卽チ結核患者ノ血液中ニテハ、結核菌增殖ガ健康人血液中ニ於ケルヨリモ著シク阻止セラル、且ツ結核患者血液ヲ以テセル培養ニ於テハ健康者ノ場合ニ比シ、菌ノ周圍ニ集合スル白血球ノ多キコトヲ認メ、其ノ爲ニ結核菌ハ强キ破壞作用ヲ受ケ、增殖阻止セラルルモノナリト記述ス。然レドモ、結核患者ガ次第ニ重症ノ經過ヲトリ遂ニ「ツベルクリン」反應ニ無反應トナル、卽チ、Hayek[36]ノ「チガテーブエ、アチルギー」ノ狀態トナレバ Slide cell culture トノ關係ハ如何ナル結果ヲ得ルヤヲ研究スルハ興味アリト言フベシ。余ハ今村敎授ノ命ニヨリ此問題ヲ精細ニ研究シタリ、茲ニ其結果ヲ報告セントス。

本報告ハ昭和5年、6年ノ日本結核病學會ニ於テ發表セルモノナリ。

第二章　實驗方法

(1)　培養方法。

結核菌ノ浮游液ヲ全血液ニ混ジ、二載物硝子間隙ニ約0.06粍ノ厚サノ圓板ヲ作成ス、之レヲ37度ニ置キ、7日ノ後ニ標本ニ製作シテ觀察スルモノナリ。結核菌聚落ハチール、チールセン染色法ニヨリ肉眼的ニモ見ル事ヲ得ル場合アルモ培養成績ノ批判ハ檢鏡ニヨルモノナリ。「スライドセル、カルチュア」ノ方法ニ就テハ緒方報告、結核第10卷、第3號記載ト同ジ、故ニ茲ニハ省略ス。

(2)「スライドセル、カルチュア」ノ肉眼的所見。

結核菌浮游液ト混合シタル血液ヲ「スライドセル」中ニ置キタル當時ハ圓板狀膜樣ノ血液凝固層ハ一樣ニ血液固有ノ赤色ヲ呈シ居ルモ攝氏37度ノ孵卵器ニ納メ時々ノ經過スルニ從ヒ、次第ニ其ノ色調ヲ變ジ、1日後ニハ圓形周邊ノ一帶ハ赤色乃至黃赤色トナリ、中心部ニ近キ一帶ハ暗褐色又ハ暗褐紫色ニ變ズ、其後、全般ニ亙リ特ニ周邊ノ一帶黃赤色部分ニ於テ暗赤色ノ色調ヲ增ス、之レト同時ニ周邊部ニハ肉眼的ニ極メテ少ナル三角形(正四面體)ノ黑色結晶現ハル、是レ酸化「ヘモグロビン」ノ結晶ナリ。2日半乃至3日ヲ過グレバ一般ニ殆ンド平等ニ褐色ノ色調トナリ、酸化「ヘモグロビン」ノ結晶ハ次第ニ其ノ大サヲ增シ新タニ又ソノ數ヲ加ヘ、大小不同多數ノ結晶ヲ見ル。3日以上ニナレバ一般ニ著シク透明度ヲ加ヘ酸化「ヘモグロビン」ノ結晶ハ更ニ其ノ大サヲ增ス、而シテ尙日數ヲ重ヌルモ大體最後ノ狀態ニ止リ、是レ以上ノ變化ヲ呈スルコト少シ。

以上ハ培養ニヨリ結核菌增殖ノ陽性ナルト否トニ拘ラズ。全血液ヲ以テセル「スライドセル、カルチュア」ノ呈スル外觀上ノ所見ナリ。

(3)「スライドセル、カルチュア」標本ノ顯微鏡的所見。

發育增殖ノ顯著ナルモノハ弱擴大ニテ多數ノ紅染色不規則ナル小聚落トシテ容易ニ之レヲ見ルベク中等度發育ノモノモ亦漸ヤク判ズベシト雖モ發育微弱ナルモノハ弱擴大ニテハ之レヲ見ル能ハズ。結核菌ノ發育增殖ハ周邊部(第2日以

後黃色ヲ呈スル部分）卽チ酸化「ヘモグロビン」ノ結晶ヲ生ズル部分ニ多ク、中心ニ近キ部分ニハ少シ。之レモ主トシテ結核菌ノ好氣性ニシテ酸素トノ接觸ノ充分ナル部分ニ良ク發育スルニ因ルナルベシ。表面張力其他ノ物理學的關係ニヨリ接種菌ノ周邊ニ多ク來ルコト無キニ非ザルベシ雖モ對照標本ニ就テ吟味スルニ其ノ關係ノ著シキモノヲ見ズ。若シ凝血ノ一部分ハ早ク乾燥固結シ、中心近クマデ空隙ヲ生ジ、空隙ヲ容レタル場合ハ之レニ接スル部分ニ增殖ヲ見ルコトアリ、强擴大（ツアイス接眼鏡4．對物鏡油浸$\frac{1}{12}$）トナシテ見ルニ個々ノ菌塊ノ增殖微弱ナルモノハ數個相集リテ松葉狀ヲナシ又束狀ヲナス。旺盛ナル增殖ヲナスモノハ無數ノ菌ヨリ成ル類圓形又ハ稍〻不規則ナル曲玉狀ノ特有ナル菌聚落ヲ形成ス。菌體各個ノ形態ハ概シテ比較的纖細ニシテ菌體ノ一方ニ暗赤點ヲ有シ、又良ク觀察スル時ハ連點狀ニ見ユルモノアリ。對照トシテ培養操作後室溫中ニ放置セルモノ又ハ孵卵器內ニ納メテ2—3時間以內ニ取出セルモノ及ビ增殖陰性ナルモノノ顯微鏡的所見ハ何レノ視野ニ於テモ菌體ノ多クハ個立シ、2—3個以上ノ集團ヲナセルノミニシテ增殖ト認ムベキモノナシ、又菌體ニ增殖時見ル如キ暗赤點ヲモ見ズ、從テ增殖陽性標本ニ見ルガ如ク酸素ニ接スル周邊部ト接セザル中心部トノ間ニ殆ンド差異ヲ認ムルコト能ハズ。

(4) 培養成績測定法。

本實驗ニ於テ最モ大切ナルハ標本ヲ檢鏡スル場合何レヲ（＋）トスルカ、又ハ（±）トスルカヲ決定スル事ニシテ、全ク增殖セザル場合又ハ多數增殖セル時ニハ論爭ノ餘地ナキモ增殖少數ナル時ニハ一定ノ規約ヲ必要トス。Wright ハ全ク之レ等ノ事ニハ論及セズ、最近 Meissner[25] ガ僅ニ之レニ對シ論及シテ曰ク、全標本中ノ結核菌聚落ヲ各個ニ分類シ、之レヲ數的ニ計算セリ。此ノ方法ハ合理的ノ樣ナルモ全標本ノ菌群ヲ全部カクノ如ク檢鏡スルハ不可能ナリ。余ハ今村敎授ノ考案ニ從ヒ菌群ヲ次ノ五群ニ分テリ。

弱陽性（±）……菌2—4
輕度陽性（＋）……菌5—10
中等度陽性（＋＋）……菌11—30
强陽性（＋＋＋）……31—50
最强陽性（＋＋＋）……51—以上
個々ニ菌ノアルヲ陰性（－）トセリ。

一標本ヲ油浸裝置ニテ觀察シ、各場所ヲ變ヘ周邊部個所8個所、中心部2個所總計10個所檢鏡シ、各視野ニ於ケル聚落ノ數ヲ記入シ、最後ニ各個所ノ菌群總計ヲ作リ菌群數ノ多キ項ヲ總評トシテ記號ヲ附セリ。

第三章　健康人ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ增殖

重症肺結核患者ノ全血液培養ヲ施行スルニ當リ、先ヅ健康者竝ニ重症ナラザル肺結核患者ノ全血液培養ニ就テ述ベン。

1924年 Wright ハ「スライドセル、カルチュア」法ヲ以テ結核菌ノ全血液內培養ヲ行ヒ、健康人ノ全血液內ニテハ增殖ヲナスモ、結核患者ノ全血液中ニハ增殖セズト發表セルモ、其ノ記載ハ極メテ簡單ニシテ全然例症ヲ缺ケリ，緖方、澁川ハ今村敎授ノ命ニヨリ健康人330名ノ全血液培養トピルケー反應トノ關係ヲ研究セリ（第一表參照）又西川ハ乳兒ノ全血液培養トピルケー反應トノ關係ヲ檢查シタルニ前者ヨリ旺盛ナル

第一表　若年健康人血液內結核菌ノ增殖

增殖程度	－	±	＋	＋＋	＋＋＋	合計
實數	6	30	218	59	19	333
百分率	1.8	9.1	65.6	17.8	5.7	100.0

第二表

增殖程度	±	＋	＋＋	＋＋＋	合計
實數	11	159	31	14	207
百分率	5.3	76.8	14.9	6.8	100.0

增殖ヲ示シタリ。今村敎授、澁川ハ當科ニテ診察セシ者ノ內諸種ノ檢查ノ結果健康人ト認メ得ル者207名ニ就キ前者ト同樣ナル關係ヲ研究セ

シニ菌增殖ハ旺盛ナリ(第二表參照)、尙肺臟內ニ輕度或ハ中等度ノ結核病竈ヲ有セル者ハ總テニ於テ全血液中菌增殖ハ陰性ナリ。

前二表ニ示スガ如ク、健康者ノ菌增殖ハ總テ陽性ニシテ菌增殖(+)ガ最モ多數ヲ占メ、次ニ(++)トナリ、而シテ第一表ニ於ケル菌增殖陰性者ノ6名ハ體格檢査ノ結果病的變化ヲ肺臟內ニ發見セシ者ナリ。

次ニ培養時間的ニ菌增殖狀態ヲ見ルニ Wright ニヨレバ健康人ノ血液ニテ結核菌ノ全血液內培養ヲ施行スルニ、培養後24時間ニシテ2—5個ノ菌相寄リテ、一ツノ聚落ヲ形成シ、48時間ニシテ弱廓大ニテモ充分見得ル程度ノ聚落ヲ形成スルト稱セリ。

余モ亦健康人、10名ノ全血液ヲモツテ、結核菌ヲ培養シ、其ノ時間的關係ニヨル菌增殖狀態ヲ觀察セシニ次ノ如キ結果ヲ得タリ。

第三表ニ示ス(±)ハ結核菌ノ2—4個ノ集合セル菌群ニシテ表中僅少ト記號セシハ結核菌ノ2個前後ノ菌群ヲ意味ス。卽チ第三表ヲ總括セバ24時間ニハ未ダ菌增殖ノ徵ヲ認メザルモ、48時間ニハ大多數ハ對照ニ比シ多少ナリトモ增殖セル狀態ヲ認メ得、而シテ5日後ニハ夫々3—10ノ菌相集リ、7日後ニハ菌增殖尙多シ(第三表參照)。

第三表　增殖ノ時間的差異

培養時間	24時間	48時間	5日	7日
1　例	—	±	+	++
2　例	—	僅少	±	+
3　例	—	±	±	+
4　例	—	±	+	++
5　例	—	±	+	++
6　例	—	僅少	±	++
7　例	—	±	+	+
8　例	—	±	+	++
9　例	—	僅少	+	+
10　例	—	±	+	++

余ハ前述ノ如キ研究ニ從事セル傍ラ重症肺結核患者ノ全血液ヲ以テスル研究ヲナセリ、之レ本報告ノ主眼ナリ。

第四章　實驗成績

余ハ重症肺結核患者105名ニ就キ、全血液中ニ人型結核菌ヲ培養シ、同時ニピルケー反應、ツベルクリン皮內反應、赤血球沈降速度、血色素量竝ニ血球檢査、尿檢査、患者ノ一般狀態等ヲ檢索シ、兩者ヲ比較研究セリ。而シテ患者ノ最終培養ハ死亡數日前ニ施行セルモノ多ク、從テカヽル場合ニハ血液檢査ノ施行出來ザル場合アリ、又重症ナルモ家事ノ都合上又ハ本人ノ希望ニヨリ經過ノ中途ニテ退院セシ爲、其ノ後ノ培養操作ノ缺ケタルモノアルモ、此ノ場合ニハ時時家庭ニツキ、其後ノ經過ヲ問合ハセタリ。

本實驗ハ總テ臨牀上ノ實驗ニシテ、各例ニ就キ實驗成績竝ニ病歷ヲ明細ニ記述スベキモノナルモ、複雜ヲ避ケンガ爲代表トシテ10例ヲ選ビ、其他ハ第四表トシテ表記セリ。

第1例。22歲。女。(第四表、44例)

家族歷。父ハ胃癌ニテ患者ノ幼少ノ頃死亡シ、母竝ニ妹ハ健康ニシテ從來特記スベキ疾患ニ罹リシ事ナシ。其他親類、知人ニ結核疾患ニ罹レルモノナシ。

既往症。患者ハ幼少ノ頃ヨリ健康ニシテ10歲前後ニ腎臟炎ヲ患ヒ、12歲頃ニ兩側ノ滲出性肋膜炎竝ニ腹膜炎ニ罹リ、1ケ年間休養セル爲臨牀的ニ治癒シ、以後何等ノ疾患ニ罹リシ事ナシ。

現病歷。昭和5年7月頃ヨリ、深呼吸時ニ胸部ヲ針デ刺スガ如キ疼痛ヲ覺ヘ、咳嗽、喀痰烈シク、時々呼吸困難ヲ感ズ。某醫ニヨリ、右側滲出性肋膜炎ト診斷サレ、治療ヲ受ケ、10月中旬ニハ大體良好トナリ。一般症狀モ回復セリ。然ルニ又左側ニ同樣ナル症狀現ハレ同時ニ腹部ニモ鈍痛ヲ起シ、食慾不振、身心倦怠ヲ訴ヘ、血便ヲ排泄スルニ至ル。昭和6年1月19日當院ヲ訪レ、直ニ學用患者トシテ入院ヲ許可サル。

入院當時ノ主訴。發熱。腹痛。

入院當時ノ所見。身長、體格中等度、顏貌蒼白ニシテ全身ニ浮腫ヲ生ジ、體溫39度5分ノ弛張

熱型ヲ示ス。脈搏120、呼吸數30ヲ數ヘ、咳嗽烈シク、喀痰多量ニシテ痰中ニ結核菌「ガフキー」ノⅢヲ證明ス。大便ハ軟便ナルモ血液ヲ混ゼズ、尿ハ蛋白痕跡アリ。ピルケー反應、竝ニ1000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ナリ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	65
赤血球數	423萬
血色素量(Sahli)	58
白血球數	4800
「エオジン」嗜好細胞	0.8%
鹽基性嗜好細胞	0.4%
中性嗜好多核白血球	69.6%
淋巴球	20.6%
大單核細胞	8.4%

胸部理學的所見。右側ハ肺尖部ヨリ最下部迄濁音ヲ呈シ、笛聲、咿軋音竝ニ大小ノ水泡音ヲ聽取ス。左側ハ肺尖部ヨリ第三肋間ニ至ル迄濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音竝ニ呼吸音粗裂、呼氣延長ス、特ニ第一肋間外側部ハ、鼓音ヲ呈シ、聽診ニテ、金屬性ニ響鳴セル水泡音ヲ聽取ス。

第三肋間以下ハ抵抗强ク、呼吸音稍〻弱ク、所々ニ水泡音ヲ聽取ス。背部ニテハ右側ハ第二肩胛骨間ノ上半分迄左側ハ第二肩胛骨迄、各々濁音ヲ有シ、呼吸音粗裂シ、呼氣延長シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス。

腹部ハ一般ニ壓痛アリ、殊ニ囘盲腸部ニ抵抗ヲ有ス。

X線所見。兩肺門部淋巴腺ハ大ナル腫脹ノ陰影ヲ認ム。右側ハ肺尖部ト第一肋間ノ內外側部竝ニ第二肋間外側部ニ細葉性小葉性滲出性陰影散在シ、第一肋間ノ外側部ニハ小葉性增殖性陰影アリ。第二肋間內側部ト第三、第四肋間內外側竝ニ肺底ニハ細葉性、滲出性、陰影散在ス。

左側ハ肺尖部竝ニ第一肋間外側部ニ大葉性滲出性陰影アリ。第一肋間外側部ニ母指頭大ノ空洞2個アリ。第二、第三肋間ノ內外側竝ニ第四肋間外側部ニハ小葉性滲出性陰影散在ス。第四肋間內側竝ニ肺底ニハ細葉性、滲出性、陰影散在ス。

經過。2月2日熱ハ頑固ニシテ下降セズ、脈搏及ビ呼吸數以前ト同ジ。ピルケー反應竝ニ1000倍ノ皮內反應共ニ陰性ニシテ左右共ニ全肺葉ニハ大小ノ水泡音ヲ聽取セリ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	73.4
赤血球數	412萬
血色素(Sahli)	57
白血球數	9500
「エオジン」嗜好細胞	0.3%
鹽基性嗜好細胞	0.4%
中性嗜好多核白血球	74.8%
淋巴球	15%
大單核細胞	9.5%

此ノ時全血液中結核菌增殖ハ輕度陽性ヲ示セリ。

患者ハ次第ニ身體羸瘦頓ニ加ハリ、1月20日尿中ニ「インヂカン」竝ニ「ヂアツオ」兩反應陽性ヲ示シ、2月1日コスター氏反應「ウロクロモーゲン」反應共ニ陽性ヲ現ハス。2月5日竝ニ9日ノ2回ニ1000分ノ1ナル舊「ツベルクリン」液ヲモツテ全身反應ヲ施行セルニ2月5日ニハ0.5瓦ヲ皮下ニ注射シ、2月9日ニハ同一濃度ヲ1.0瓦皮下ニ注射セルニ增熱、嘔吐、其他諸種ナル症狀認メズ。2月14日ニハ100倍ノ皮內反應陰性ヲ示シ、體溫38度、脈搏不整弱ク、患者ハ次第ニ昏睡狀態トナル。尙血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	84
赤血球數	436萬
血色素量(Sahli)	49
白血球數	15000
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	79.5%
淋巴球	11.0%
大單核細胞	9.5%

此ノ時全血液中結核菌ノ增殖ハ、最强陽性ヲ示セリ。患者ハ食慾不振ノ爲ニ頓ニ衰弱加ハリ、

全身羸瘦高度トナリ、肺臟全葉ニ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取シ、腹部ハ壓痛烈シク、2月19日遂ニ鬼籍ニ入ル。

小括。第1回檢査ニハ「ツベルクリン」ノ1000倍皮內反應ハ弱陽性ニシテ既ニ全血液培養ニハ菌增殖弱陽性ヲ示ス。第2回檢査ニ於テ1000倍ノ皮內反應ハ陰性トナリ、患者ノ一般狀態ハ漸次惡化シ、全血液中結核菌ノ增殖モ其ノ數ヲ增シ、菌增殖ハ前回ヨリ其ノ數多シ。第3回檢査ニ於テ100倍「ツベルクリン」皮內反應ハ全ク陰性トナリ、白血球數及ビ赤血球沈降速度ニ增加ヲ示シ、血像的ニハ「エオジン」嗜好細胞ハ全ク消失シ、淋巴球モ減少ヲ示セリ。本患者ノ末期ニハ1000分ノ1銳ノ「ツベルクリン」皮下注射ニヨリテ起ル全身反應陰性ニシテ、陰性「アナルギー」ノ狀態ヲ示シ、其時全血液內菌增殖ハ强陽性ナリ。

第2例。31歲。女。(第四表1例)

家族歷。父ハ數年前腸「チフス」ニ罹リ死亡ス。母ハ頑健ニシテ現存セリ。兄弟2人アルモ共ニ健康ナリ、其他近親、知人ニハ結核ニ罹レルモノナシ。

既往症。本患者ハ子供ノ時ヨリ虛弱ニシテ20歲ノ頃脊柱「カリエス」ニ罹リ「ギブスベット」ニ數ケ月間臥床シ、大體治癒シ得タルモ、27歲ノ頃腰骨部ニ「カリエス」ヲ生ジ、其後該部ノ化膿ヲ起シ、瘻管ヲ形成シ、常ニ小量ノ膿ヲ排泄ス。22歲ノ頃兩側ノ肋膜炎ニ罹リ、2ケ月餘ニテ治癒セリ。

現病歷。3ケ月程以前ヨリ風邪ニ罹リ、夫レ以外夕方頃ニ38度前後ノ發熱ヲナシ永ク醫療ヲウクルモ治癒セズ。最近咳嗽烈シク、血痰ヲ數回喀出ス。昭和5年6月30日當科ヲ訪レ、直ニ入院セリ。

入院當時ノ主訴。發熱。血痰。

入院當時ノ所見。身長、中等度、體格不良、皮下脂肪層著シク減退シ、顏面蒼白ナリ、體溫38度5分弛張型ナリ、咳嗽ハ中等度ニシテ喀痰多量喀出シ、痰中ニ結核菌ヲ「ガフキー」V認ム。胸部理學的所見。前面、右側全體ハ强度ノ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス。左側ハ肺尖部ヨリ第三肋間ニ至ル間、抵抗ヲ有シ、呼吸音粗裂シ、呼氣延長シ。所々ニ小水泡音ヲ聽取セリ。背部ハ右側全葉ニ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取シ、左側モ亦上半分ニ抵抗アリテ所々ニ水泡音ヲ聽取ス。

X線所見。兩肺門部淋巴腺ハ中等度ニ擴大セリ、右側ハ肺尖部、第一肋間內外側竝ニ第二肋間外側部ハ細葉性滲出性陰影ヲ有シ、第一肋間內側部ニハ增殖性陰影ヲ認ム、第一、第二肋間ニハ肺門部ヨリ束狀ニ走レル數條ノ陰影ヲ認ム、第三肋間以下肺底ニ至ル間所々ニ細葉性ノ增殖性竝ニ滲出性陰影ノ多數散在セルヲ認ム。左側モ肺尖部竝ニ第一肋間ノ內外側部ニ小葉性ノ滲出性陰影ヲ見ル外肺門部ヨリ走レル束狀ノ氣管枝周圍炎ノ陰影アリ。

腹部ハ一般ニ膨隆シ、廻盲腸部ニハ壓痛アリ、且脊柱ノ第二腰柱部ニモ僅少ナル鈍痛ヲ訴フ、腰部ノ右側腸骨前上棘部ノ皮膚腫脹充血シ、其先端部ニ瘻孔ヲ形成シ、之レヨリ稀薄ナル膿汁ヲ排泄ス。

此時ピルケー反應竝ニ2000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ニシテ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	53
赤血球數	450萬
血色素量(Sahli)	52
白血球數	9300
「エオジン」嗜好細胞	0.2%
鹽基性嗜好細胞	0.1%
中性嗜好多核白血球	64.3%
淋巴球	20.%
大單核細胞	9.4%

全血液中結核菌培養ニテ菌ハ僅少ナル增殖ヲ呈セリ。

經過。病勢次第ニ惡化シ、8月20日頃ニハ39度ノ弛張型ヲ示シ、脈搏100、呼吸25ヲ數フ。ピルケー反應ハ陰性ニシテ1000倍ノ皮內反應弱陽性ヲ示シ、血液檢査ノ結果ハ次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	65.3
赤血球數	438萬
血色素量(Sahli)	50
白血球數	9800

「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	73.5%
淋巴球	16.3%
大單核細胞	10.2%

全血液中結核菌培養ニテ菌増殖弱陽性ヲ示ス。

患者ハ漸次羸痩シ、腹部廻盲腸部ニ鈍痛ヲ感ジ、次第ニ其度ヲ増ス。9月12日頃ヨリ足趾ニ浮腫ヲ生ジ、體溫38度5分、脈搏110、緊張弱ク、不整、呼吸30ヲ數フ。胸部ノ理學的所見トシテハ左右共ニ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス。尿ハ「ヂアツオ」反應弱陽性ヲ示シ、「ツベルクリン」100倍ノ皮内反應ハ陰性ニシテ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelweit)	84.7
赤血球數	310萬
血色素量 (Sahli)	40
白血球數	13500
「エオジン」嗜好細胞	0%
塩基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	83.5%
淋巴球	5.2%
大單核細胞	11.3%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌ハ中等度陽性ヲ示セリ。本患者ハ次第ニ呼吸困難烈シク、咳嗽、喀痰中等度、食慾不振、皮膚蒼白、兩足背ニ浮腫ヲ認メ、10月7日遂ニ死亡セリ。

小括。第1回檢査ニ於テピルケー反應竝ニ2000倍ノ「ツベルクリン」皮内反應共ニ弱陽性ニシテ、白血球數及ビ赤血球沈降速度ハ稍〻増加ノ徴ヲ見ル時ニ當リ、既ニ菌増殖ハ弱陽性ヲ示ス。第2回檢査ハ前回ヨリ50日ヲ經過シピルケー反應ハ陰性トナリ、1000倍ノ皮内反應ハ弱陽性トナリ、此時全血液中菌増殖ハ輕度陽性ナリ。第3回檢査ハ前回ヨリ22日間ヲ經過セルモノニシテ、100倍ノ皮内反應ハ完全ニ陰性ニシテ白血球數、中性嗜好多核白血球ノ著明ナル増加ヲ示シ、尿中ニハ「ヂアツオ」反應ハ既ニ陽性ヲ示セリ。此時菌増殖ハ中等度ノ陽性ヲ示セリ。即チ、血液ノ結核菌増殖阻止作用ハ漸次減少セリ。

第3例、25歳。男。(第四表56例)

家族歷。特記スベキ事ナシ。

既往症。本患者ハ幼少ノ時ヨリ發育普通ナルモ小學校時代輕症ノ「インフルエンザ」ニ罹レリ。小學校卒業後身體發育良好ナラズ、常ニ輕度痩削セリ。

現病歷。本疾患ノ起リハ昭和5年5月頃風邪ニ罹リシ氣味アリ、直ニ治療ヲ受ケタルモ數日ヲ經テ咳嗽烈シク、發熱シ、最高38度近クニシテ弛張ス、尚ホ數日經過後喀痰喀出多量トナリ、同時ニ右側胸部ヲ針ニテ刺スガ如キ疼痛ヲ覺ヘ、5年6月17日當敎室ヲ訪レ、直ニ入院セリ。

入院當時ノ主訴。發熱。咳嗽。喀痰。胸痛。

入院當時ノ所見。身長、骨格中等度、皮下脂肪組織減退シ顔面蒼白ナリ。

胸部理學的所見。右側肺尖部ヨリ第四肋間ニ至ル間輕度ノ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス呼吸音ハ粗裂シ、呼吸延長セリ。左側モ肺尖部ヨリ第五肋間ニ至ル間濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス。背部ハ兩側共ニ第二肩胛骨間以上濁音ヲ呈シ、所々ニ大小ノ水泡音ヲ聽取シ、呼吸音一般ニ弱シ。

腹部ニハ著變ナキモ、下痢便1日3回ヲ數フ。

X線所見。左側ハ肺尖部ヨリ第五肋間内外側ニ小葉性滲出性陰影散在シ、特ニ第一、第二ノ外側部竝ニ第三、第四肋間内外側部ハ互ニ癒合シ、大葉性滲出性陰影ヲ認ム。第五肋間竝肺底ハ主トシテ外側部ニ細葉性滲出性陰影ヲ認メ、肺底内側部ニハ細葉小葉性滲出性陰影アリテ心臟陰影トノ境界明瞭ナラズ。右側ハ肺尖部ヨリ第一肋間ニ至ル内外側ニ細葉性浸出性陰影ヲ認メ、第一肋間外側部ニ直徑2cm圓形ノ腔洞ヲ見ルモ其ノ境界判然タラズ、第一肋間内側竝ニ第二肋間ノ内側竝ニ外側ノ内半分ニハ小葉性増殖性陰影アリ。

6月23日體溫38度5分ノ弛張型ニシテ咳嗽烈シク、喀痰中結核菌「ガフキー」Ⅲ證明セリ。ピルケー反應竝ニ2000倍ノ皮内反應共ニ弱陽性ニシテ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	56.2
赤血球數	420萬
血色素量 (Sahli)	60
白血球數	8400
「エオジン」嗜好細胞	1.2%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	67.2%
淋巴球	25.1%
大單核細胞	6.5%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖ハ陰性ナリ。

經過。7月、8月下熱セズ、9月10日頃ヨリ腹痛ヲ訴ヘ、9月20日頃ヨリ下痢數回アリ。回盲腸部ニ壓痛ヲ感ジ、尙腹部所々ニ手壓ニヨル鈍痛アリ。

9月12日ピルケー反應陰性、1000倍ノ皮內反應モ亦陰性ナルモ、100倍ノ皮內反應ハ弱陽性ナリ、血液檢査ノ結果ハ次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	75
赤血球數	364萬
血色素量 (Sahli)	60
白血球數	8800
「エオジン」嗜好細胞	1.%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	74.9%
淋巴球	15%
大單核細胞	9.1%

全血液中結核菌ノ培養ニ於テ菌增殖ハ弱陽性ヲ示セリ。

10月初旬ニ一時病勢輕快セル狀態ナルモ、喀痰中結核菌ハ「ガフキー」ノ IV ニシテ100倍ノ皮內反應弱陽性ヲ示セリ。此時血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	90
赤血球數	336 萬
血色素量 (Sahli)	58
白血球數	11400
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	78.4%
淋巴球	11.9%
大單核細胞	9.7%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖弱陽性ナリ。

胸部理學的所見。左右兩側ハ全體ニ亙リ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取シ、所々ニ乾音ヲ聽ク。

X線所見。左側全葉ニ亙リ小葉性滲出性陰影ヲ認メ、肺尖部ヨリ第五肋間ノ內外側ハ互ニ癒合シ、大葉性滲出性陰影ヲナス。右側モ全葉ニ亙リ小葉性滲出性陰影ヲ認メ、肺尖部ヨリ第三肋間ノ內外側ハ互ニ癒合シテ大葉性滲出性陰影ヲナス。而シテ心臟陰影ハ是等肺臟陰影ノ爲其境界明カナラズ。

12月7日頃ヨリ下痢再ビ烈シク1日15回ヲ數ヘ、腹部ハ壓痛烈シク、爲ニ體重頓ニ減少シ、皮下脂肪組織ハ高度ニ減退シ、身心痩削疲勞シ、39度前後ノ發熱アリ。同月30日ニハ患者ノ一般狀態惡化シピルケー反應竝ニ100倍ノ皮內反應共ニ陰性ナリ、尙血液檢査ノ成績次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	90
赤血球數	319萬
血色素量 (Sahli)	45
白血球數	12000
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	78.6%
淋巴球	12.1%
大單核細胞	9.3%

尿中「ヂアツオ」反應陽性ヲ示シ、全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖輕度陽性ヲ示セリ。

昭和6年2月13日頃ヨリ四肢ノ末端ニ浮腫ヲ認メ、體溫39度、脈搏115、不整ニシテ軟、呼吸30ヲ數フ、當時下痢ハ1日3回ニシテ腹部ハ疼痛烈シ、胸部理學的所見ハ左右全葉ニ大小ノ水泡音混在シ、特ニ兩側上半分ニハ響鳴セル水泡音ヲ聽取ス、全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖ハ中等度陽性ヲ示セリ。

昭和6年3月17日脈搏不整、昏睡狀態トナリ、翌18日遂ニ死亡セリ。

小括。第1回ニピルケー反應竝ニ2000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ヲ示シ、其時一般狀態ヲ見ルニ未ダ重症ノ症狀ヲ見ズ、第1回ヨリ80日ヲ經過セシ第2回檢査時ニハピルケー反應竝ニ1000倍ノ皮內反應共ニ陰性トナルモ100倍ノ皮內反應ハ弱陽性ヲ示セリ、而シテ一般狀態ハ重症ノ症狀現ハレ、菌增殖ハ弱陽性ヲ示セリ。而シテ病勢ノ一時進行ヲ止メ、體溫、呼吸其他ノ症狀多小良好トナル、第3回檢査ニハ100倍ノ皮內反應ハ前回通リ弱陽性ニシテ菌增殖モ亦弱陽性ナリ。第4回目ニ於テ「ツベルクリン」反應ハ全ク陰性ニシテ一般狀態ハ不良、菌增殖ハ陽性ヲ示ス。第5回ニハ100倍「ツベルクリン」皮內反應陰性、一般狀態ハ增惡シ、旣ニ「ヂアツオ」反應陽性トナリ、此時菌增殖ハ中等度ノ陽性ヲ示セリ。卽チ病勢ノ進ムニ從ヒ血液內菌增殖旺盛ニナレリ。

第4例。29歲。男。(第四表45例)

家族歷。父母共ニ健在ナリシガ、母ハ最近咳嗽、喀痰中等度、X線ニヨリ右側鎖骨下ニ早期浸潤竈ヲ發見ス。

旣往症。本患者ハ幼年ノ頃ヨリ虛弱ニシテ20歲ノ時肺尖加答兒ヲ患ヒ、常ニ胃腸障碍アリ、25歲ノ時神經衰弱症ニナリ、脚氣ハ度々患フモ其外病臥スル程度ノ疾患ニ罹リシ事ナシ。

現病歷。昭和5年4月頃ヨリ咳嗽、喀痰多ク、時々血痰ヲ喀出シ、身體ハ次第ニ羸痩シ、發熱、持續スル爲昭和5年11月25日當科ヲ訪レ直ニ入院セリ。

入院當時ノ主訴。發熱。咳嗽。喀痰。

入院當時ノ所見。體溫38度5分、脈搏120、緊張度中等度、呼吸數25ヲ算ス、咳嗽烈シクシテ喀痰多量喀出シ、痰中結核菌ヲ「ガフキー」Vヲ檢出ス。

胸部理學的所見。右側肺尖部ハ濁音ヲ有シ、呼吸音粗裂シ呼氣延長ス、第三肋間以下ハ輕度ノ濁音ヲ呈シ、呼吸音粗裂シ、呼吸延長シ、小水泡音ヲ聽取セリ、左側肺尖部ハ抵抗ヲ有シ、呼吸音粗裂シ、呼氣延長シ、小水泡音ヲ聽取ス。第二肋間以下ハ濁音ヲ有シ、大小混合ノ水泡音ヲ聽取シ、殊ニ第二肋間ニハ響鳴セル水泡音ヲ聽キ、笛聲モ聽取ス。背部ノ右側上部ハ抵抗ヲ有シ、呼吸音粗裂シ、呼氣延長セリ、第二肩胛骨間以下ハ輕度ノ濁音ヲ有シ、小水泡音ヲ聽取ス。左側ハ全體ニ濁音ヲ有シ、大小ノ水泡音竝ニ笛聲ヲ聽取シ、第一肩胛骨間ニハ響鳴セル水泡音ヲ聽取セリ。

X線所見。兩側肺門部淋巴腺ハ中等度ニ腫脹セル陰影ヲ認ム。右側肺尖部ハ細葉性增殖性陰影ヲ示シ、第一、第二肋間內外側共ニ細葉性滲出性陰影、第三肋間外側部ニハ小葉性ノ滲出性陰影アリ、第四肋間以下ハ細葉性滲出性陰影散在セリ。左側肺尖部ハ細葉性滲出性陰影、第一肋間以下肺底ニ至ル間細葉性滲出性陰影散在シ、第二肋間中央部ニ母指頭大ノ空洞アリ、第二、第三肋間外側部ニハ小葉性ノ滲出性陰影アリ。心臟陰影ノ境界ハ肺臟陰影ノ爲不分明ナリ。

ピルケー反應竝ニ2000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ニシテ血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	60.2
赤血球數	417萬
血色素量(Sahli)	60
白血球數	7200
「エオジン」嗜好細胞	1.0%
鹽基性嗜好細胞	0.4%
中性嗜好多核白血球	72.8%
淋巴球	17.5%
大單核細胞	8.3%

此時全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖ハ陰性ナリ。

經過。本患者ハ入院後一般狀態ガ一時比較的良好ドナリタルモ、昭和6年1月20日體溫38度前後脈搏110、呼吸數25ヲ數ヘピルケー反應陰性ニシテ、1000倍ノ皮內反應弱陽性ヲ示シ、發赤僅小ナリ。血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	82
赤血球數	345萬
血色素量(Sahli)	56
白血球數	9600
「エオジン」嗜好細胞	0.4%

鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	75.4%
淋巴球	13.5%
大單核細胞	11.7%

全血液中結核菌ノ培養ニ於テ菌增殖ハ弱陽性ナリ。

1月30日頃發熱强ク、39度ノ弛張型ヲ示シ，夫レニ伴ヒ脈搏120、肛門周圍部ニ疼痛ヲ感ジ、次第ニ强クナリ、外見上肛門部ヨリ右側二横指離レタル所ニ發赤腫脹ヲ生ジ、切開ニヨリ膿ヲ多量排泄ス、夫レ以來、次第ニ體溫下降スルモ2月23日、1000倍ノ「ツベルクリン」皮內反應陰性ヲ示セリ、而シテ血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	83.2
赤血球數	340萬
血色素量 (Sahli)	50
白血球數	10300
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	78.6%
淋巴球	9.4%
大單核細胞	12.0%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖弱陽性ヲ示セリ。

3月16日ニハ「ヂアツオ」反應陽性トナリ、下痢烈シク、且腹痛ヲ伴フ、3月20日ニハ體溫38度5分脈搏110、呼吸30ヲ數フ。1000倍ノ皮內反應陰性ニシテ、食鹽水ノ皮膚吸收時間ハ0.1耗ニテ40分ヲ要シ、一般態狀非常ニ惡化セリ。全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖輕度陽性ヲ示セリ。患者ハ呼吸困難著シク、3月25日死亡セリ。

小括、第1回檢査ノ時ニハ兩「ツベルクリン」反應ハ弱陽性ニシテ、其他ノ檢査ニ於テモ增惡ノ症狀著明ナラズ、此時全血液中結核菌ノ增殖ハ陰性ナリ。夫レヨリ50日ヲ經過セシ第2回檢査ニハ、1000倍ノ皮內反應弱陽性トナリ、白血球數竝ニ赤血球沈降速度ニ多少ノ增加ヲ示シ、且臨牀的ニ一般症狀次第ニ重症ニ傾キ．此時菌增殖ハ弱陽性ヲ示セリ。夫レヨリ33日經過セシ、第3回檢査ニ於テ、白血球數、赤血球沈降速度竝ニ血像的ニモ判然ト重症ノ症狀ヲ示シ、全血液中菌增殖ハ前回ヨリ增殖多シ。第4回檢査ニハ既ニ「ヂアツオ」反應陽性トナリ、病勢ハ惡化シ危險ナル症狀トナリ、全血液中菌增殖ハ輕度ノ陽性ヲ示セリ。

本患者ノ經過ハ永クシテピルケー反應ノ陰性トナリテヨリ死亡スル迄3ケ月間ヲ要シ、1000倍ノ皮內反應ノ陰性トナリテヨリ、死亡スル迄1ケ月ヲ數フ、而シテ菌增殖ノ弱陽性ハピルケー反應ト相前後シテ現ハレタルモ、約1ケ月間ハ菌增殖ニハ僅少ナル增加アリタルノミ、然レドモ「ヂアツオ」反應ノ陽性竝ニ1000倍ノ皮內反應ノ全ク陰性トナルニ及ビ菌增殖ハ輕度ノ陽性ヲ示スニ至レリ。

第5例。25歲。男。(第四表64例)

家族歷。父母ハ健在、4人ノ兄弟中1人ハ肺結核ニテ死亡シ、其他ハ總テ健在ス。近親友人ニ結核ニ罹レル者ナシ。

既往症。本患者ハ幼少ノ頃ヨリ虛弱ナルモ、20歲頃迄特記スベキ疾患ニ罹リシ事ナシ、然レドモ昭和5年8月右側滲出性肋膜炎ニ罹リ、3ケ月間加療シ全治セリ。

現病歷。本病ノ始メハ昭和5年11月頃風邪ニ罹リシ如キ感アリ、以後數日ヲ經ズシテ咳嗽中等度、喀痰多量、夜中ニ突然大量ノ喀血ヲナシ、直ニ某醫ニ治療ヲ受ケタルモ約1ケ月間血痰續出ス、尙ホ夕方ニ體溫上昇シ、咳嗽、喀痰止ラズ。爲ニ昭和6年5月6日當科ヲ訪レ直ニ學用患者トシテ入院ス。

入院當時ノ主訴。發熱。血痰。咳嗽。

入院當時ノ所見。體格中等度、榮養不良顏貌削衰シ、咳嗽烈シク、時々血痰ヲ喀出シ、痰中結核菌「ガフキー」IV、體溫38度、脈搏110、呼吸25ヲ數フ。

胸部理學的所見。右側肺尖部ヨリ第四肋間迄輕度ノ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音竝ニ乾音ヲ聽取シ、第四肋間以下ハ抵抗强ク、呼吸音弱シ。左側ハ全體ニ亙リ濁音ヲ呈シ、殊ニ第二肋間中央

部ニハ多少鼓音ヲ呈ス、聽診ニテハ大小ノ水泡音ヲ聽取シ、第二肋間ニハ響鳴セル水泡音ヲ聽取ス、背部ニ於テハ、右側ハ肩胛骨下部、左側ハ全般ニ大小ノ水泡音ヲ聽取シ、右側下部ハ抵抗ヲ有シ、呼吸音一般ニ弱シ。

X線所見。右側ハ全葉細葉性滲出性陰影散在シ、第二、第三. 第四ノ外側部ニハ小葉性ノ滲出性陰影アリ。左側モ亦全葉ニ細葉性滲出性陰影散在シ、第一、第二、第三ノ內外側ニハ大葉性ノ滲出性陰影アリ、第一肋間內側ニハ一錢銅貨大ノ空洞アリ。心臟陰影ハ是等肺臟陰影ノ爲其境界不分明ナリ。

5月6日ピルケー反應及ビ2000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ニシテ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	48
赤血球數	359萬
血色素量(Sahli)	63
白血球數	9300
「エオジン」嗜好細胞	3.0%
鹽基性嗜好細胞	0.8%
中性嗜好多核白血球	65.7%
淋巴球	20.5%
大單核細胞	10.0%

全血液中結核菌增殖ハ陰性ナリ。

經過。入院後安靜加療スルモ體溫下降セズ、同月23日ニハ再ビ喀血シ、夫レ以來約1週間持續ス。5月26日ニハ體溫38度5分、脈搏120、呼吸38ヲ數ヘ、ピルケー反應竝ニ1000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ナリ、其他血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	72.5
赤血球數	327萬
血色素量	50
白血球數	14000
「エオジン」嗜好細胞	2.6%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	72.2%
淋巴球	14.4%
大單核細胞	10.8%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖輕度ノ陽性ヲ示ス。

病勢ハ日々惡化シ身心削衰甚シク，食慾不振ヲ起シ、6月26日胸部ハ全葉ニ亙リ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音及ビ笛聲ヲ聽取ス。X線檢査ニテハ左右兩肺葉ハ細葉性滲出性陰影散在シ、右側第一、第二肋間內外側ニ亙リ大葉性ノ滲出性陰影アル外所々ニ小葉性ノ陰影混在ス。左側ハ第一第二第三肋間兩側ニ大葉性陰影ヲ見ル外、其他ノ部ニモ小葉性陰影ヲ細葉性滲出性陰影中ニ混在ス、第一肋間中央部ニハ一錢銅貨大ノ空洞アリ。

尙6月初旬ヨリ音聲嗄聲ヲ來シ、時々嚥下ニ疼痛アリ。6月26日ニハピルケー反應陰性ニシテ100倍ノ皮內反應弱陽性ヲ示ス。血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	76.3
赤血球數	306萬
血色素量(Sahli)	46
白血球數	14500
「エオジン」嗜好細胞	0.4%
鹽基性嗜好細胞	1.2%
中性嗜好多核白血球	72.8%
淋巴球	13.6%
大單核細胞	11.0%

全血液培養ニ於テ菌增殖ハ中等度陽性ヲ示セリ。

7月2日ニハ100倍ノ皮內反應陰性ニシテ菌增殖ハ前回ヨリ僅少ナル增加ヲ示セリ。

本患者ハ急速ナル病勢ノ進行ト極度ノ痩削ニヨリ7月6日遂ニ死亡セリ。

小括。第一回檢査ニハピルケー反應竝ニ2000倍ノ「ツベルクリン」皮內反應共ニ弱陽性ニシテ一般狀態ヨリ見テモ餘リ重症トハ見エズシテ、全血液中菌增殖モ亦陰性ナリ。20日間經過セル第2回檢査ニハピルケー反應及ビ1000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ニシテ、白血球數竝ニ赤血球沈降速度ノ急速ナル增加ヲ示シ、菌增殖ハ一躍輕度陽性ヲ示セリ。第二回檢査後1ケ月ヲ經過

セル第3回檢査ニ於テ初メテピルケー反應陽性トナリ100倍ノ皮內反應弱陽性ヲ示シ、赤血球沈降速度ハ前回ヨリ僅少ナル增加ヲ來シ、白血球數竝ニ中性嗜好多核白血球モ前回ニ比シ稍ゝ增加ヲ示シ、菌增殖ハ一段ト其ニ數ヲ增シ、中等度陽性ヲ示セリ。

第6例。39歲。男。(第四表39例)

家族歷。父母ハ頑健ニシテ兄弟5人總テ健在ス、又近親知人ニ結核ニ罹レル者ナシ。

既往症。患者ハ幼少ノ頃ヨリ虛弱ニシテ度々風邪ニ罹リ易ク、10歲ノ頃氣管枝炎ヲ患ヒ次第ニ治癒セリ。20歲ノ時肺尖加答兒ニ罹リ、數年間治療ヲ受ケタルモ良好ナル成績ヲ得ズ、身體ハ以前ニ增シテ虛弱トナリ。昭和2年8月頃ヨリ咳嗽漸次ニ烈シクナリ、夫レニ伴ヒ喀痰多量トナレリ。昭和2年頃胸部竝ニ腹部ニ烈シキ疼痛ヲ覺ヘタル事アリ、是等ノ症狀ハ數ケ月ノ經過ニテ全治セリ。

現病歷。昭和4年1月中旬ヨリ劇烈ナル下痢ヲ起シ、夫レト同時ニ音聲ニ多少嘶嗄ヲ生ジ、咳嗽及ビ喀痰多量ニシテ、胸部竝ニ腹部ニ疼痛ヲ感ズ、病勢ハ日ニ險惡トナルニ及ビ、昭和4年6月5日當科ニ入院セリ。

入院當時ノ主訴。胸部、腹部ノ疼痛、下痢、咳嗽、喀痰。

入院當時ノ所見。身長中等度、骨格强健、皮下脂肪組織多少減退シ、顏面蒼白ナリ。體溫39度弛張型、脈搏100、緊張度中等度整、呼吸25ヲ數フ、咳嗽烈シク喀痰ヲ多量喀出シ、痰中菌多數ヲ證明ス。

胸部理學的所見。右側ハ肺尖部ヨリ第三肋間ニ至ル迄濁音ヲ呈シ、呼吸音弱ク、所々ニ小水泡音ヲ聽取ス、特ニ肺尖部ニハ大ナル水泡音ヲ聽取セリ、第三肋間以下モ同樣濁音ヲ呈シ、呼吸音粗裂シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス。左側肺尖部ヨリ第五肋間ニ至ル間全體ニ濁音ヲ呈シ、第一肋間竝第二肋間ハ鼓音ヲ呈シ、聽診上呼吸音粗裂シ、呼氣延長シ、大小ノ水泡音ヲ聽取シ、第一、第二肋間部ノ中央部ハ響鳴セル水泡音ヲ聽取セリ、背部ニ於テハ右側ハ上部ヨリ第一肩胛骨間迄濁音ニシテ呼吸音弱ク、小水泡音ヲ聽取シ、第二肩胛骨間以下モ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス、左側ハ全般ニ亙リ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス。

X線所見。兩側肺門部淋巴腺ハ中等度ニ腫脹セル陰影ヲ認ム。右側肺尖部ニハ小葉性滲出性陰影アリ、第一、第二肋間ニハ小葉性增殖性陰影ト其ノ間ニ細葉性滲出陰影ヲ介在ス。第四肋間竝ニ肺底ノ外側部ニハ小葉性細葉性滲出性陰影アリ、內側部ニハ小葉性ノ增殖性陰影アリ。左側肺尖部ハ小葉性ノ滲出性陰影アリ、第一肋間外側部竝ニ第二肋間內側部及ビ外側ニヨレル部ニ各々1ケ宛1錢銅貨大ノ空洞アリテ、其ノ間ニハ細葉性增殖性陰影アリ、第三肋間以下ハ細葉小葉性ノ滲出性陰影アリ。

腹部ハ廻盲腸部ニ疼痛ヲ有シ、下腹部全體ニ壓痛アリ。下痢ハ1日數回ニシテ軟便ヲ排泄ス。喉頭部ハ全面充血シ、會厭部ハ潰瘍狀ニ腫脹セルヲモツテ聲帶部ヲ精密ニ觀察スル事ヲ得ズ、食物ノ嚥下困難ヲ感ジ疼痛ヲ伴フ。ピルケー反應ハ點狀ノ輕度ナル發赤ヲ示シ、2000倍ノ皮內反應ハ弱陽性ナリ。血液檢查ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	52
赤血球數	405萬
血色素量(Sahli)	63
白血球數	8900
「エオジン」嗜好細胞	1.0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	69.4%
淋巴球	21.5%
大單核細胞	8.1%

此時全血液中結核菌增殖ハ弱陽性ヲ示セリ。

經過　同年8月5日ニハ熱38度ニテ弛張シ、脈搏100、呼吸23ヲ數フ。胸部ノ所見ハ次第ニ增惡シ、左右兩肺葉全體ニ亙リ、打診上濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス。腹部ハ尙壓痛烈シ。ピルケー反應竝ニ1000倍ノ皮內反應共ニ陰性ニシテ、血液檢查ノ成績次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	80.3%
赤血球數	346萬

血色素量 (Sahli)	60
白血球數	9500
「エオジン」嗜好細胞	0.4%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	72%
淋巴球	17.6%
大單核細胞	10%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌増殖中等度陽性ヲ示セリ。

10月22日胸部所見前回同様ニシテ腹部ノ疼痛モ烈シク、下痢1日數回ヲ數ヘ、時々血便ヲ排泄シ、顔面蒼白ニシテ羸瘦増ス。100倍ノ皮内反應陰性ヲ示シ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	82.5
赤血球數	312萬
血色素量 (Sahli)	53
白血球數	10500
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	80.3%
淋巴球	9.4%
大單核細胞	10.3%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌増殖ハ最強陽性ナリ。患者ハ食慾不振ノ爲次第ニ瘦削シ、病勢險惡トナリ、11月6日遂ニ死亡セリ。

小括。第1回ニピルケー反應陰性ニシテ皮内反應ハ2000倍ニテ弱陽性ヲ示シ、菌増殖ハ弱陽性ヲ示セリ。第2回目檢査ニハピルケー反應竝ニ1000倍皮内反應共ニ陰性ナル時全血液中菌増殖ハ中等度陽性ナリ、第1回檢査ヨリ第2回檢査迄ノ經過日數ハ1ケ月半ナリ。第3回檢査ニ際シテハ赤血球沈降速度竝ニ白血球數モ増加シ、血像的ニモ亦重症末期ヲ示セリ、此時菌増殖ハ旺盛ナル増殖ヲ示シ、此ノ増殖狀態ハ健康者ニ於ケル増殖ヨリ一層旺盛ナリ。

第7例。17歳。女。(第四表15例)

家族歷。父ハ既ニ死亡シ、母ハ健在ナリ、近親、知人ニハ結核ニ罹ルモノナシ。

既往症。本患者ハ幼少ノ頃ヨリ虚弱ナルモ特記スベキ疾患ニ罹リシ事ナシ、唯14歳ノ頃ヨリ咳嗽アリ、身體次第ニ衰弱シ瘦削ス。14歳ノ頃右側肺尖加答兒ト診斷サレタル事アリ。

現病歷。昭和4年8月風邪ニ罹リ盜汗ヲ發シ、其數日後下痢ヲ起シ、咳嗽烈シク、喀痰多量ニシテ9月頃ニ食慾不振トナリ、所々ノ醫家ヲ訪レタルモ治療ノ效ナク、昭和5年7月28日發熱烈シキ爲メ當科ヲ訪レ直ニ學用患者トシテ入院ス。

入院當時ノ主訴。發熱。咳嗽。喀痰。

入院當時ノ所見。體格、榮養不良ニシテ兎脣ナリ，顔貌蒼白ニシテ咳嗽烈シク喀痰多量、痰中ニ結核菌「ガフキー」Vヲ證明ス。體溫38度、脈搏90、緊張度中等度整、呼吸24ヲ數フ。

胸部理學的所見。左側ハ肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音ヲ呈シ、特ニ第一肋間外側部ニハ鼓音ヲ呈スル部アリ、聽診ニ於テ大小ノ水泡音ヲ聽取シ、第一肋間部ハ響鳴セル水泡音ヲ聽取ス、第四肋間以下ハ抵抗ヲ有シ小水泡音ヲ聽取ス。右側肺尖部ヨリ第二肋間迄輕度ノ濁音ヲ呈シ、呼吸音强ク粗裂シ、呼氣延長シ、小水泡音ヲ聽取ス。第三肋間以下ハ濁音ヲ有シ第三、第四肋間中央部ニハ稍ヽ鼓音ヲ呈スル部アリ。聽診ニテ呼吸音弱ク、水泡音ヲ聽取ス。背部ニ於テハ左右兩葉濁音ヲ呈シ、呼吸音粗裂シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス。

X線所見。兩側肺門部淋巴腺ハ中等度ニ腫脹シ、左側、肺尖部ヨリ第三肋間内外側ニ至ル間、細葉性滲出性陰影散在シ、第一肋間内側部ニハ小葉性増殖性陰影アリ、第一肋間外側部ニハ1錢銅貨大ノ空洞アリ、第三肋間以下肺底ノ内外側共ニ細葉性滲出性陰影散在ス。右側肺尖部ヨリ第三肋間迄内外側共ニ小葉性滲出性陰影アリ、夫レ以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ、第四肋間外側部ニハ第三肋間外側ニ少シ亙リテ三ツノ小指頭大ノ空洞アリ。心臟陰影ハ肺臟陰ノ爲メ其ノ境界不分明ナリ。

經過。7月30日頃ニハピルケー反應竝ニ1000倍ノ皮内反應共ニ弱陽性ニシテ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	37.5

赤血球數	370萬
血色素量 (Sahli)	56
白血球數	8500
「エオジン」嗜好細胞	1.0%
鹽基性嗜好細胞	0.6%
中性嗜好多核白血球	68.7%
淋巴球	20.1%
大單核細胞	9.6%

全血液中結核菌培養ハ菌增殖弱陽性ヲ示セリ。

本患者ハ入院後一時一般狀態良好ナリシモ8月11日ニ肛門周圍炎ヲ起シ、發熱39度ニ及ビ疼痛烈シク、直ニ切開シ、膿ヲ多量排泄スル事ニヨリ、體溫37度8分迄下降セリ、而シテ9月25日頃ヨリ下痢ヲ始メ廻盲腸部ニ壓痛ヲ起シ、體溫39度ノ弛張型ヲ示シ、夫レ以來患者ハ次第ニ衰弱シ、一般狀態モ一段ト惡化ス。

10月20日體溫39度前後ニシテ脈搏110、呼吸27、下痢烈シク1日6回ヲ數フ。ピルケー反應陰性ニシテ100倍ノ皮內反應モ亦陰性ナリ。血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	50
赤血球數	357萬
血色素量 (Sahli)	54
白血球數	9500
「エオジン」嗜好細胞	0.3%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	77%
淋巴球	14.%
大單核細胞	8.7%

全血液中結核菌ノ培養ニ於テ菌增殖ハ輕度陽性ナリ。

次第ニ病勢進行シ、10月末ニハ喉頭部ニ疼痛ヲ感ジ嚥下困難ヲ訴ヘ、咽頭部ハ充血シ、特ニ會厭谿部ハ腫脹シ、食慾下振ノ爲衰弱次第ニ加ハル。11月12日ニハ體溫38度脈搏100、呼吸25ヲ數ヘ、皮內反應陰性ニシテ、胸部ハ左右兩葉共ニ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取セリ。血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	67.5%
赤血球數	351萬
血色素量 (Sahli)	53
白血球數	13400
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	81.%
淋巴球	8.4%
大單核細胞	10.6%

全血液中結核菌ノ增殖ハ中等度陽性ヲ示セリ。

11月14日舊「ツベルクリン」100倍稀釋ヲ0.5竡皮下ニ注射シ、全身反應ヲ檢査セシニ何等ノ症狀ヲモ起サザル爲、其後1週間經過セシ11月21日同一濃度ノ液1.0竡ヲ皮下ニ注射セルニ只前回ヨリ僅少ナル發熱ヲ起スノミニシテ特記スベキ現象ヲ發見シ得ズ。

12月13日ニハ尿ハ多少溷濁スルモ結核菌ヲ證明シ得ズ、蛋白少量アリ、「ヂアツオ」反應ハ陽性ヲ示シ、患者ハ昏睡狀態トナリ、12月29日100倍ノ皮內反應前回同樣陰性ニシテ全血液中結核菌ノ增殖强陽性ヲ示シ、1月4日遂ニ死亡セリ。

解剖所見。左肋膜腔內ニハ赤褐色ノ液100竡アリ、肋膜兩葉ハ第一、第二肋骨部ニテ密著シ、右肋膜腔內ハ完ク癒著セリ。左肺ハ全葉ニ亙リ滲出性浸潤病竈アリ、第二肋間部ニ相等スル肺臟內ニハ1錢銅化大ノ空洞アリ。右肺葉モ同樣全面ニ滲出性浸潤病竈アリ、第三肋間ノ外側部ニ對スル肺臟內ニ小指頭大ノ空洞3ケト小空洞アリ、其內側ニハ增殖性浸潤病竈アリ。肺門部淋巴腺ハ高度ニ腫脹スルモ內ニ石灰結節ヲ認メズ、氣管枝粘膜ハ充血セリ。喉頭部ノ粘膜ハ充血シ、會厭谿部及ビ喉頭前庭部ハ腫脹シ、潰瘍竝ニ結節ヲ見ル。腸ハ全體ニ亙リ結核性變化ヲ呈シ、潰瘍結節多數ヲ發見ス、殊ニ廻盲腸部ニハ高度ノ變化ヲ呈セリ。腎臟部モ結核變化ヲ呈セリ。

小括。第1回檢査ニハピルケー反應竝ニ1000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ニシテ、菌增殖ハ旣ニ弱陽性ヲ示セリ。夫レヨリ約90日經過セシ第2

回檢査ニハ100倍ノ皮內反應ハ陰性ニシテ、白血球數ハ多少ノ增加ヲ示シ、赤血球沈降速度ハ比較的ニ速ク此時全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖ハ輕度陽性ヲ示セリ。其後22日ヲ經過セシ第3回檢査ニ於テ、血液上又ハ血像的ニモ旣ニ重症ノ症狀ヲ現ハシ、此時菌增殖ハ中等度陽性ナリ。前回檢査後47日經過セル第4回檢査ニ於テハ旣ニ「ヂアツオ」反應陽性ヲ示シ、末期ヲ思ハシムル一般症狀ヲ呈シ、衰弱ハ烈シク、各臟器ニ合併症ヲ發生ス、此時ニ於ケル全血液中菌增殖ハ高度ノ陽性ヲ呈セリ、且本患者ハ11月14日ニ施行セシ100倍ノ「ツベルクリン」全身反應ニハ全ク無反應ナリキ。

第8例。35例。男。(第四表35例)

家族歷。患者ノ父ハ本人ノ幼少ノ頃死亡シ、母ハ本人ノ20歲ノ頃死亡シ、共ニ何病ナルヤヲ知ラズ、本患者ハ獨身ニシテ兄弟、近親ナク、從來結核患者ト接セシ事ナシ。

旣往症。患者ハ幼少ノ頃ヨリ身體健全ニシテ25歲ノ頃迄ハ全ク無病ニシテ特記スベキ疾患ニ罹リシ事ナシ。

現病歷。本病ノ始メハ昭和元年8月頃ヨリ風邪ノ氣味度々アルモ、其ノ都度賣藥ニテ姑息的治療ヲ施シタリ。昭和元年11月頃ニ再ビ風邪ニ罹リ咳嗽常ヨリ烈シク、喀痰又多シ。12月頃ニハ高度ノ發熱ヲナシ、昭和2年1月15日當科ヲ訪レ直ニ學用患者トシテ入院ス。入院中ノ經過良好ニシテ體溫下降シ、咳嗽及ビ喀痰全ク消失シ、同年3月3日退院セリ。退院後2—3ケ月間通院シ、其後全ク當科ヲ訪レザリシガ昭和3年2月28日突然前記同樣發熱、咳嗽、喀痰ヲ主訴トシ當科ヲ訪レ、同日再ビ學用患者トシテ入院ヲ許可サル。入院中經過比較的良好ニシテ治療ノ目的ヲ達シ、5月24日退院シ、以後入院時ト同一ナル安靜ヲ守レリ。11月頃風邪ニ罹リ、11月中旬ニハ胸部ニ壓痛ヲ覺ヘ、呼吸困難、心悸亢進ス、日數ヲ經過スルニ從ヒ頭痛ヲ覺ヘ、1月下旬ヨリ、輕度ノ發熱アリ、3月ニハ體溫39度前後、身心羸瘦シ、疲勞甚シ。3月11日當科ヲ訪レ、3度目ノ入院ヲナス。

入院當時ノ主訴。胸痛。發熱。呼吸困難。

入院當時ノ所見。身長大、體格中等度、脈搏90呼吸數28ヲ數フ、咳嗽烈シク、多量ノ喀痰ヲ喀出シ、痰中結核菌「ガフキー」Vアリ。當時ピルケー反應竝ニ2000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ナリ。

胸部理學的所見。右側肺尖部ヨリ第二肋間迄ハ强キ濁音ナルモ第一肋間外側ニ近ク多少鼓音ヲ呈ス、聽診ニテハ該局部ハ金屬性ニ響鳴セル水泡音ヲ聽取スルモ、其他ノ部ハ大ナル水泡音ヲ聽取シ、呼吸音粗裂ス。第二肋間以下ハ輕度ノ濁音ヲ呈シ、吸吸音弱ク、大小ノ水泡音ヲ聽取ス。左側ハ肺尖部竝ニ第三肋間外側部、第四肋間ハ濁音ヲ呈スルモ其他ノ部ハ抵抗强シ、聽診ニテハ大小ノ水泡音ヲ聽取シ、尙笛聲ヲ下部ニ於テ聽ク。背部ニ於テハ左右共ニ輕度ノ濁音ヲ呈シ、呼吸音粗裂シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス。

X線所見。兩側肺門部淋巴腺ハ中等度ニ腫脹ス。右側肺尖部ニハ細葉性小葉性滲出性陰影アリ、第一肋間外側部ニハ直徑3糎稍〻橢圓形ノ空洞アリ、內側部ニハ小葉性增殖性陰影アリ。第三肋間外側、第四肋間內側部ニハ汎續セル滲出性陰影ヲ見ル、其他ノ部ニハ細葉性滲出性陰影散在ス。左側肺尖部ハ細葉性滲出性陰影アリ、第一肋間中央部ニハ小葉性滲出性陰影、第三、第四肋間全體ニ大葉性陰影ヲ見ル、其他ノ部ハ細葉性滲出性陰影散在ス。

經過。本患者ハ入院後一般狀態比較的良好ナリシモ、其後3ケ月ニシテ漸次瘦削シ、顏面蒼白トナリ、腹部ハ手壓ニテ所々疼痛ヲ覺ヘ、下劑1日4—5回ヲ數フ、斯クシテ7月5日ニハピルケー反應弱陽性、2000倍ノ皮內反應モ亦弱陽性ヲ示シ、咳嗽烈シク、喀痰多量喀出シ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	57.2
赤血球數	413萬
血色素量(Sahli)	64
白血球數	8500
「エオジン」嗜好細胞	0.4%
鹽基性嗜好細胞	0.4%
中性嗜好多核白血球	71.3%
淋巴球	21.5%

大單核細胞	7.8%

全血液中結核菌增殖ハ弱陽性ヲ示セリ。

其後患者ノ經過ハ次第ニ不良ニ進行シ、9月中旬ニハ腸症狀前記通リ繼續セル上、尙音聲嘶嗄シ、時々該局所ニ疼痛ヲ覺ヘ、9月下旬ニハ完全ニ嘶嗄シ喉頭部ハ充血シ、特ニ會厭谿部ハ充血甚シク、結核性潰瘍ヲ見ル、以後咽頭部疼痛ノ爲食事不振トナリ、榮養頓ニ衰ヘ、10月12日體溫38度5分ノ弛張型ヲ示ス、脈搏100、呼吸27ヲ數ヘ、尙咳嗽ヲ伴ヒ、喀痰多量喀出シ、痰中結核菌多數ナリ。

胸部理學的所見トシテハ前記述ノ如クナルモ左右全肺葉高度ノ濁音ヲ呈シ、特ニ右側鎖骨下ニハ鼓音ヲ呈シ、該部ハ金屬性響鳴セル水泡音ヲ聽取シ、其他ノ部ニハ總テ大小ノ水泡音竝ニ笛聲或ハ軋音ヲ聽取ス。

X線所見トシテハ右側ハ肺尖部ヨリ第四肋間迄2個ノ大葉性滲出性陰影ヲ示シ、鎖骨下ニハ3糎橢圓形ノ空洞アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄大葉性滲出性陰影アリ、其他ノ總テノ部ニハ細葉小葉性滲出性陰影アリ。

ピルケー反應及ビ1000倍ノ皮內反應共ニ陰性ニシテ、100倍ノ皮內反應ハ點狀ノ發赤ヲ見ル。

血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	67.5
赤血球數	351萬
血色素量(Sahli)	57
白血球數	12000
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	75.3%
淋巴球	14.7%
大單核細胞	10.%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖輕度陽性ナリ。

一般狀態ハ漸次惡化シ、11月15日ニハ尿中「ヂアツオ」反應弱性ヲ示セリ。

11月25日胸部及ビ腹部ノ所見ハ前記同樣ナルモ尿中「ヂアツオ」反應陽性ニシテピルケー反應竝ニ100倍ノ皮內反應共ニ陰性トナリ、血液檢査ノ結果ハ次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	83.5
赤血球數	315萬
血色素量(Sahli)	53
白血球數	13600
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	78.2%
淋巴球	10.3%
大單核細胞	11.5%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖中等度陽性ナリ。

本患者ハ次第ニ病勢惡化シ、12月4日遂ニ死亡セリ。

解剖所見。左右兩肺葉ハ滲出性浸潤病竈密集シ、其ノ間ニ小結核結節散在ス、右側ハ肺尖部ニ近ク鷄卵大ノ空洞存在シ內ニ膿ヲ入ル。咽頭部ハ全體ニ充血シ、聲帶部竝ニ會厭部ニ結核性潰瘍ヲ認ム、聲帶ハ皮厚シ鋸齒狀ヲナス。腸ニハ所々結核性變化ヲ呈シ、殊ニ廻盲腸部ニハ潰瘍多シ。

小括。第1回檢査ニハピルケー反應竝ニ2000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ヲ示セルニ既ニ菌增殖ハ弱陽性ナリ、夫レヨリ3ケ月ヲ經過セシ、第2回檢査ニハ1000倍ノ皮內反應ハ陰性トナリ、赤血球沈降速度ハ比較的速キモ、白血球數竝ニ中性嗜好多核白血球ハ著明ナル增加ヲ示サズ。然ルニ菌增殖ハ既ニ輕度ノ陽性ヲ示セリ。夫レヨリ40日ヲ經過セシ第3回檢査ニハ臨牀上竝ニ血液檢査ニ於テモ亦尿中「ヂアツオ」反應ニ於テモ末期ヲ示シ、此時菌增殖ハ中等度陽性ヲ示セリ。本患者ハ10月初旬ニ各種ノ合併症ヲ起シ、比較的經過ノ長キ例ニシテ、其ノ割合菌增殖ノ旺盛ナラザリシハ、全血液中未ダ菌增殖阻止作用ノ殘留セルニヨルモノナラン。

第9例。19歲。女。(第四表6例)

家族歷。父母ハ頑健ニシテ未ダ醫藥ニ親シマズ。兄弟ハ2人ニシテ健在ス。本患者ハ18歲ノ時結婚シ、

夫ハ健在ナリ。

既往症。本患者ハ小學校ニ通學セシ頃ヨリ、虛弱ニシテ 13 歲ノ時結核性頸部淋巴腺腫脹ノ爲手術セリ。14 歲ノ頃結核性角膜炎ニ罹リ、夫レモ數週ニシテ治癒セリ。15 歲ノ時膝關節ノ「ロイマチスムス」ニ罹リ、16 歲ノ頃多量喀血シ、夫レ以來咳嗽烈シク喀痰多量ナリ。昭和 4 年 11 月 6 日現在ノ夫ト結婚シ、同月 26 日ヨリ 3 日間喀血セリ。

現病歷。患者ハ數回ノ喀血後咳嗽及ビ喀痰增加シ、本人ハ其後モ「カーボン」製造ニ働キ、昭和 5 年 8 月頃ヨリ、發熱シ、次第ニ身體ノ痩衰ヲ增シ、一時働ヲ中止シ、家庭ニテ治療ヲ受クルモ何等治癒ニ傾ク事ナク、同年 9 月 16 日當科ヲ訪レ入院セリ。

入院當時ノ主訴。發熱。痩衰。咳嗽。喀痰。

入院當時ノ所見。身長、體格中等度、皮下脂肪層多少減退セリ。體溫 38 度弛張、脈搏 110、緊張度中等度、呼吸 25 ヲ數フ、咳嗽頻發、喀痰多ク、結核菌ヲ「ガフキー」V 證明ス。

胸部理學的所見。左右全葉ハ輕度ノ濁音ヲ呈シ殊ニ右側肺尖部ハ强キ濁音ヲ呈ス、聽診ニテハ一體ニ呼吸音弱ク、所々ニ小水泡音ヲ聽取シ、右肺尖部ハ大ナル水泡音ヲ聽取ス。

X線所見。兩側ノ肺門部淋巴腺ハ多少腫脹シ、兩肺葉全體ニ細葉性滲出性陰影アリ、未ダ互ニ癒合スルニ至ラズ、卽チ散在性結核ノ型ヲトル。

ピルケー反應ハ弱陽性ニシテ、2000 倍ノ皮內反應ハ陽性ヲ示シ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	63.2
赤血球數	426萬
血色素量 (Sahli)	55
白血球數	8700
「エオジン」嗜好細胞	2.4%
鹽基性嗜好細胞	0.4%
中性嗜好多核白血球	67.5%
淋巴球	20.3%
大單核細胞	9.4%

全血液中結核菌ノ增殖ハ陰性ナリ。

經過。患者ハ粟粒結核ノ症狀ヲ呈シ、9 月 30 日ピルケー反應陰性ニシテ、1000 倍ノ皮內反應弱陽性ヲ示シ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	72
赤血球數	382萬
血色素量 (Sahli)	52
白血球數	9500
「エオジン」嗜好細胞	0.4%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	75.4%
淋巴球	13.8%
大單核細胞	10.4%

體溫ハ 39 度 5 分弛張型ニシテ脈搏 120、呼吸 30 ヲ數フ、全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖弱陽性ヲ示ス。

10 月初旬ニハ多少嘶嗄シ、咽喉部全面充血シ、會厭部ハ充血腫脹シ、潰瘍ヲ見ル。10 月中旬ニハ全ク嘶嗄ヲ起シ、流動食ノ通過ニモ疼痛ヲ感ジ腹部ハ疼痛劇シク、尿ハ多少溷濁ヲ生ジ結核菌ヲ證明ス。

23 日ニハ「ヂアツオ」反應陽性ヲ示ス。胸部理學的所見ハ左右兩葉全體ニ亙リ、輕度ノ濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取シ、所々ニ笛聲ヲ聽ク。體溫 39 度 7 分ヲ最高トスル弛張熱、脈搏 120、緊張度中等度、呼吸 35 ヲ數フ。

ピルケー反應竝ニ 1000 倍ノ皮內反應共ニ陰性ニシテ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	84
赤血球數	335萬
血色素量 (Sahli)	51
白血球數	12500
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	75.4%
淋巴球	13.5%
大單核細胞	11.0%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖輕度陽性ナリ。

患者ハ食事不振ノ爲、次第ニ削衰シ、呼吸困難ヲ起シ、頸部ニ頭痛ヲ起シ、腦膜炎症狀ヲ現ハシ、病勢次第ニ險惡トナリ、11 月 4 日ニハ體溫 40 度、脈搏 110 軟、不整、呼吸困難ヲ來シ、100

倍ノ皮內反應陰性ナリ。全血液中結核菌ノ增殖中等度陽性ナリ。以後患者ハ昏睡狀態トナリ12日死亡セリ。

小括。第1回檢査ニハピルケー反應ハ陰性、2000倍ノ皮內反應ハ陽性ニシテ菌增殖ハ陰性ナリ。第2回檢査ニハ1000倍皮內反應ハ弱陽性ニシテ、一般的ニ症狀重症ト思ハレズ、唯X線所見ニ於テ粟粒結核症狀ヲ現ハセルニ菌增殖ハ旣ニ弱陽性ヲ示セリ。第3回檢査ニ於テハ菌增殖ハ輕度ノ陽性ヲ示セリ。第4回檢査ニハ全ク末期ニ近ヅキ病勢モ增惡セリ。以上ノ成績ニヨリピルケー反應ノ全ク陰性ナラザル以前ニ旣ニ菌增殖ハ弱陽性ヲ示シ、而シテ白血球數竝ニ血像的ニモ重症ノ症狀ノ現ハレタルハ菌增殖ノ輕度陽性ニ傾キテヨリノ事ナリ。

第10例。32歲。男。(第四表66例)

家族歷。父ハ腎臟炎ニテ旣ニ死亡シ、母ハ病名不明ナルモ相次イデ死亡セリ、妹4人總テ健在ス、妻ハ健康ニシテ、子供ハ2人皆虛弱ナリ、然シ近親ニハ結核ニ罹レルモノナシ。

旣往症。本患者ハ幼少ノ頃ヨリ健康ニシテ風邪ニ罹レル外特記スベキ疾患ニ罹リシ事ナシ、唯從來肺尖加答兒ト云ハレシ事アリ。

現病歷。1ケ年程以前ヨリ咳嗽烈シク喀痰多シ、最近1月程前ヨリ嘶嗄シ、次第ニ强クナリ、盜汗アリ、嚥下ニ際シ疼痛アリ、昭和6年1月9日當科ヲ訪レ、直ニ入院セリ。

入院當時ノ主訴。嘶嗄。血痰。

入院當時ノ所見。身長中等度、榮養不良、皮下脂肪層減退ス、顏面蒼白ナルモ一見普通健康人ニ近シ、體溫ハ37度5分ニシテ脈搏90、呼吸25ヲ數フ、咳嗽比較的强ク、喀痰多シ、痰中結核菌「ガフキー」Vアリ。

胸部理學的所見。右側ハ肺尖部ヨリ第四肋間ニ至ル間輕度ノ濁音ヲ呈シ.呼吸音非常ニ粗裂シ、呼氣延長シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス、第四肋間以下ハ稍ヾ强キ抵抗ヲ有シ呼吸音粗裂シ、呼氣延長セリ。左側ハ肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音ヲ呈シ、呼吸音粗裂シ、呼氣延長シ、第三肋間以下ハ抵抗ヲ有シ共ニ所々ニ大小ノ水泡音ヲ聽取ス。背部ニ於テハ、右側ハ上部ヨリ第一肩胛骨迄濁音ヲ呈シ、左ハ上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音ヲ呈シ、大小ノ水泡音ヲ聽取ス、夫レ以下ハ共ニ抵抗ヲ有シ、呼吸音粗裂シ、呼氣延長セリ。X線所見。兩側肺門部淋巴腺ハ高度ニ腫脹セリ。右側ハ肺尖部ニ小葉性滲出性陰影ヲ有シ、第一ヨリ第四肋間ノ外側ニ密ニ內側ニハ粗ニ細葉性滲出性陰影アリ、肺底部ニハ細葉性滲出性陰影アリ。左側ハ肺尖部竝ニ第一肋間外側部ニ小葉性滲出性陰影アリ、第一肋間內側部ヨリ第三肋間兩側ニハ細葉性滲出性陰影アリ、夫レ以下ノ部ニハ細葉性滲出性陰影散在ス。

咽喉部ハ一般ニ充血シ、殊ニ會厭谿ハ輕度ノ充血腫脹シ、該部ニ結核性潰瘍アリ。

1月12日ピルケー反應竝ニ2000倍ノ皮內反應共ニ弱陽性ニシテ、血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	58
赤血球數	416萬
血色素量 (Sahli)	62
白血球數	9500
「エオジン」嗜好細胞	2.8%
鹽基性嗜好細胞	0.8%
中性嗜好多核白血球	68.7%
淋巴球	20.6%
大單核細胞	7.1%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌增殖ハ陰性ナリ。

經過。2月23日體溫37度5分前後ニシテ脈搏90、呼吸25ヲ數フ。ピルケー反應竝ニ2000倍皮內反應ハ陰性ニシテ、1000倍ノ皮內反應ハ弱陽性ナリ。

赤血球沈降速度 (Mittelwert)	78.3
赤血球數	370萬
血色素量 (Sahli)	53
白血球數	9800
「エオジン」嗜好細胞	0.6%
鹽基性嗜好細胞	0.4%
中性嗜好多核白血球	70.1%
淋巴球	19.7%
大單核細胞	9.2%

全血液中結核菌培養ニ於テ菌増殖弱陽性ヲ示ス。

患者ハ入院後幸ニシテ食慾良好ニシテ榮養減退セズ、然レドモ、6月11日100倍ノ皮内反應陰性ニシテ胸部理學的所見次第ニ惡化シ、喉頭部ノ疼痛ハ再ビ劇シクナリ、固形物ノ嚥下困難ヲ來シ次第ニ衰弱セリ。血液檢査ノ結果次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	82
赤血球數	354萬
血色素量(Sahli)	51
白血球數	11800
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	77.0%
淋巴球	12.6%
大單核細胞	9.4%

全血液中結核菌増殖中等度陽性ヲ示ス。

漸次患者ノ一般狀態惡化シ、20日以後ハ急速ナル惡化ヲ示シ、急速ナル身心ノ痩衰ヲ來シ、7月7日ニハ「ヂアツオ」反應强陽性ヲ呈シ、「ツベルクリン」100倍ノ皮内反應陰性ニシテ血液檢査ノ成績次ノ如シ。

赤血球沈降速度(Mittelwert)	84
赤血球數	340萬
血色素量	45
白血球數	12500
「エオジン」嗜好細胞	0%
鹽基性嗜好細胞	0%
中性嗜好多核白血球	77.9%
淋巴球	12.5%
大單核細胞	9.6%

全血液中結核菌増殖ハ最强陽性ヲ示セリ。

患者ハ一般狀態惡化シ、衰弱劇シク、遂ニ7月14日死亡セリ。

小括。第1回檢査ニピルケー反應竝ニ2000倍ノ皮内反應共ニ弱陽性ヲ示シ、菌増殖ハ陰性ナリ。40日ヲ經過セシ、第2回檢査ニ於テハピルケー反應陰性ニシテ1000倍ノ皮内反應弱陽性ヲ示シ、白血球數竝ニ中性嗜好多核白血球數ハ前回ニ比シ僅少ナル増加ヲ示ス、唯赤血球沈降速度増シ、菌増殖ハ弱陽性ヲ示セリ。第2回檢査後約4ケ月ヲ經過セシ、第3回檢査ニハ一般症狀ハ惡化シ、白血球數竝ニ赤血球沈降速度ノ増加ヲ來シ、100倍ノ皮内反應ハ陰性トナリ、菌増殖ハ中等度陽性トナレリ。尙死亡前一週間ノ全血液ニテハ菌増殖ハ最强陽性ヲ示セリ。

以上ノ實驗成績ヲ觀ルニ菌増殖ハ病勢ノ進ムニ從ヒ次第ニ増加シ、重症末期ニ於ケル培養ニ於テハ一般ニ旺盛ナル増殖ヲナスモ、其ノ増殖度ハ各々個人ニヨリ異ナリ、或者ハ非常ニ旺盛ナル増殖ヲ示シ、健康人ノ夫レヨリ尙一層旺盛ヲ示スモノアルモ亦或者ハ輕度陽性ニテ終ル者アリ。今次ニ各項ニ分チ菌増殖ト各檢査トノ關係ヲ述ベン。

第五章　總括竝ニ考案

結核感染動物ハ結核菌ノ再感染ニ對シ、一定度ノ抵抗力ヲ有スル事ハ Koch[82]以來一般ニ認メラレ、既ニ疑フ可カラザル事實ナリ。然レドモ斯ル免疫力ハ何ニ基因スルカニ就テハ尙爭論ノ存スル所ニシテ、或ハ之レヲ他ノ傳染病疾患ニ見ル血清中ニ存在スル所謂抗體即チ、抗毒素、凝集素、沈降素、溶菌素、補體結合素、調理素等ヲモツテ、之レヲ說明セント試ミ、或ハ細胞及組織ノ免疫力ニ重キヲ置カントシ、或ハ又兩者ノ力ニ歸セントス。結核免疫ノ一現象トシテ結核動物ハ大量ノ菌ノ再感染ニ對シテハ過敏性ヲ呈シ、小量ノ再感染ニ對シテハ不感受性ニシテ再度注射シタル菌ニヨリテハ何等結核性病變ヲ惹起セザルハ諸氏ノ詳細ニ研究報告セル所ナリ。然レドモ此ノ組織ノ不感受性ハ組織其物ノ不感受性ニヨルカ又全身的免疫ニヨルカハ未ダ全ク討究シ終ヘタルモノニ非ズ。

健康人ハ一定度ノ免疫力即チ先天性免疫ヲ有シ、其能力ハ各個性ニヨリ一定セズ、然レドモ天然免疫ハ後天免疫ニ於ケル程著シカラズシテ

第四表　重症肺結核患者ニ於ケル全血液中人型結核菌ノ培養ト各種檢査トノ關係

番號、性、年齢	檢査年月日	檢査回數	全血液培養	ピルケー氏反應	マントー氏反應	喀痰中ノ結核菌	赤血球沈降速度	赤血球數（單位萬）	血色素量	白血球數	嗜好細胞「エオジン」	鹽基性嗜好細胞	多核白血球中性嗜好	淋巴球	大單核細胞	臨牀的所見概記	レントゲン所見	一般狀態	既往症	合併症	轉歸
第一例、女、31	5/6 5/8 5/9	I II III	± + ++	± − −	±2000 ±1000 −100	V V V	53 65.3 84.7	450. 438. 310.	52 50 40	9300 9800 13500	0.2 0 0	0.1 0 0	64.3 73.5 83.5	20.0 16.3 5.2	9.4 10.2 11.3	胸部、右側、肺尖部ヨリ下部全體ニ濁音ヲ示シ、水泡音ヲキク。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄、水泡音ヲキク。背部、上部ヨリ第二肩胛骨間ニ濁音アリテ水泡音ヲキク。腹部、廻盲腸部ニ壓痛。脊柱、第二腰柱部ニ壓痛、膿汁ヲ出ス。	右側、肺尖部ヨリ第一肋間竝ニ第二肋間外側部ニ細葉性滲出性陰影。第一肋間內側部ニ增殖性滲出性陰影。第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部竝ニ第一肋間ニ小葉性滲出性陰影、第二肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	5/9「ヂアツオ」反應＋ 蛋白＋尿	22歲左側肋膜炎 25歲脊柱「カリエス」 28歲喀血	腰骨「カリエス」 脊柱癆 痔瘻	死亡
第二例、女、20	5/11 5/20 5/25	I II III	− ± +	± − −	±100 −1000 −1000	V V V	62. 73.5 85	325. 319. 318	57 51 46	8370 9500 10200	1.4 0 0	0.4 0.8 0	69.5 72.0 79.0	21.4 18.7 11.8	7.3 7.5 9.2	胸部、右側肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、第三、第四、肋間ハ鼓音、共ニ大小ノ水泡音アリ、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄、濁音、呼吸音粗裂、大小ノ水泡音。背部ハ上部ヨリ第二肩胛骨迄共ニ濁音、大小ノ水泡音。腹部、廻盲腸部ニ壓痛、喉頭部疼痛。	右側、肺尖部ニ小葉性滲出性陰影、第一肋間ヨリ第四肋間內外側竝ニ肺底ノ外側ニ細葉性滲出性陰影、第三空洞。左側、全葉ニ細葉性滲出性陰影。第三、第四肋間外側ニハ小葉性滲出性陰影。	5/3「ヂアツオ」反應＋ 蛋白＋尿 5/24「アトツエツン」反應＋	19歲喀血	喉頭結核 腸結核	死亡
第三例、男、23	5/19 5/27 5/5	I II III	− ± +	± − −	+2000 ±1000 −100	V V V	80 80 89.7	413. 324. 315	58 52 48	8200 8400 11300	1.4 0 0	0.1 0.3 0	67.8 72.3 75.9	20.3 16.4 12.5	10.4 11.0 11.6	胸部、右側肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、大小ノ水泡音、第三肋間以下抵抗、呼吸音粗裂呼氣延長。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音。以下抵抗、呼吸音粗裂。背部共ニ上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音、水泡音。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部第一肋間內外側ニ大葉性滲出性陰影。第二肋間ヨリ肺底迄內外側共ニ細葉性滲出性陰影。左側全葉ニ細葉性滲出性陰影、第三、第四ノ外側ニハ小葉性、滲出性、陰影。	5/1「ヂアツオ」反應＋エ反±尿 「アットン」反應 蛋白	7歲「カタラクター」 16歲右側浸出性肋膜炎 19歲肺尖「カタール」 22歲結核性淋巴腺炎	喉頭結核	死亡
第四例、女、24	5/7 5/29 5/5	I II III	+ ++ 卌	− − −	±1000 −1000 −100	V V V	67.5 83.2 87.	335. 328. 314.	59 51 47	9230 9500 12300	0 0 0	1.0 0 0	70.8 72.1 75.5	18.9 18.2 14.0	9.3 9.7 10.5	胸部、右側肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、呼吸音粗裂、水泡音、第五肋間以下笛聲水泡音。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄強キ抵抗水泡音夫レ以下ハ呼吸音弱シ。背部ハ右左共ニ上部ヨリ、第二肩胛骨間迄、呼吸音弱ク、水泡音ヲキク。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間內外部ニ小葉性細葉性滲出性陰影。肺尖部ニハ拇指頭大ノ空洞、第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影、第一竝ニ第二肋間ニハ小葉性滲出性陰影、第四肋間以下ハ外側部ニ細葉性滲出性陰影。	5/8「ヂアツオ」反應＋ 蛋白＋尿	20歲兩側肺尖「カタール」	ナシ	死亡

第五例、男 33	$5^{10}/_{7}$	I	±	−	±/1000	V	75	425.	57	9200	0	0.3	78.4	13.	8.3	胸部、右側肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、水泡音、夫レ以下ハ抵抗、呼吸音粗裂、呼氣延長。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音水泡音、夫レ以下抵抗、呼吸音粗裂、呼氣延長。背部上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音水泡音、喉頭部疼痛、嗄聲。	右側肺尖部ニハ小葉性滲出性陰影、第一、第二肋間兩側ニハ細葉小葉性滲出性陰影、肺底部外側ニ小葉性滲出性陰影。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄、細葉性、小葉性滲出性陰影、第三肋間ヨリ第四肋間各外側ニ細葉性滲出性陰影。	$5^{20}/_{8}$「ヂアツオ」反應 ＋「アツエトン」反應 ＋ 蛋白尿	28歲肺尖「カタール」	喉頭結核	死亡
	$5\ ^{5}/_{9}$	II	＋	−	−/1000	V	89	315.	51	12000	0	0	78.9	12.	9.1						
第六例、女、19	$5^{20}/_{8}$	I	−	±	＋/2000	V	63.2	426.	55	8700	2.4	0.4	67.5	20.3	9.4	胸部、右側、肺尖部ハ强キ濁音、其他ノ部ハ全體ニ輕度ノ濁音水泡音ヲキク。左側、全體ニ輕度ノ濁音、水泡音ヲキク。頭痛烈シク、喉頭部疼痛、嚥下困難腹部廻盲腸部壓痛。	左右兩側、全體ニ細葉性滲出性陰影密生ス。	$5^{23}/_{10}$「ヂアツオ」反應 ＋ 蛋白尿	11歲腸結核、13歲頸部淋巴腺炎 18歲喀血	結核性腦膜炎 喉頭結核。腸結核 腎臟結核。	死亡
	$5^{30}/_{9}$	II	±	−	±/1000	V	72	382.	52	9500	0.4	0	75.4	13.8	10.4						
	$5^{13}/_{10}$	III	＋	−	−/1000	V	84	335.	51	12500	0	0	75.4	13.5	11.0						
	$5\ ^{4}/_{11}$	IIV	＋＋	−	−/100	V	84														
第七例、男、19	$5\ ^{2}/_{11}$	I	±	−	−/1000	IV	75	412.	56	9500	0	0	74.2	16.9	7.9	胸部、右側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音、呼吸音弱、第四肋間以下ハ抵抗呼吸音粗裂、呼氣延長、笛聲。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、呼吸音粗裂、水泡音。背部上部ヨリ第二肩胛骨間濁音水泡音。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄內外側共ニ小葉性、滲出性陰影。第四肋間以下肺底迄、細葉性、滲出性陰影。左側、肺尖部ニ小葉性滲出性陰影、第一肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影。第三肋間外側ニ小葉性滲出性陰影。	$5^{10}/_{12}$「ヂアツオ」反應 ＋「アツエトン」反應 ＋ 蛋白尿	13歲肺炎 15歲頸部淋巴腺炎	喉頭結核	死亡
	$5^{15}/_{12}$	II	＋	−	−/100	V	78.5	327.	50	11400	0	0	78.3	13.6	8.1						
第八例、男、49	$4\ ^{7}/_{7}$	I	±	−	−/1000	V	76.5	430.	53	9500	0	0	78.2	14.6	7.2	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第三肋間以下ハ抵抗、呼吸音粗裂、呼氣延長。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄、輕度ノ濁音、水泡音。背部、上部ヨリ第二肩胛骨間迄、濁音呼吸音粗裂水泡音。喉頭部疼痛、嗄聲。	右側、肺尖部ヨリ第一肋間兩側、第二肋間外側部ニ細葉小葉性、滲出性陰影、第二肋間內側部ヨリ第四肋間兩側部迄細葉性滲出性陰影左側、肺尖部竝ニ第一肋間外側ニ小葉性滲出性陰影、第二肋間ヨリ第五肋間迄細葉性滲出性陰影。	$4^{7}/_{10}$「ヂアツオ」反應 ＋ 蛋白尿	20歲腸「チフス」	喉頭結核	死亡
	$4^{28}/_{10}$	II	＋	−	−/100	V	80	339.	50	10300	0	0	79.8	10.7	9.5						
第九例、男、29	$5^{11}/_{8}$	I	＋	−	−/1000	V	63	386.	50	9800	0	0	73.4	18.4	8.2	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第三肋間以下ハ抵抗水泡音。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音、第四肋間以下抵抗、呼吸音粗裂、呼氣延長。腹部、廻盲腸部ニハ壓痛下痢一日十回。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間內外側竝ニ第四肋間外側ニ細葉小葉性滲出性陰影、第四肋間內側ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影。左側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影。第三肋間ヨリ肺底迄、細葉性滲出性陰影。	$5\ ^{1}/_{10}$「ヂアツオ」反應 ＋ $5^{12}/_{10}$」アツエトン」反應 ＋ 蛋白尿	17歲脚氣 20歲肺尖「カタール」	腸結核 喉頭結核	死亡
	$5^{20}/_{10}$	II	＋	−	−/100	V	80	352.	47	11200	0	0	77.6	14.1	9.3						

第十例、男、31	$4^{30}/_{1}$ $4^{12}/_{12}$ $5^{16}/_{1}$	Ⅰ Ⅱ Ⅲ	± + +	− − −	±1000 −1000 −100	Ⅲ Ⅲ Ⅲ	53 67 78.5	418. 342. 325.	58 55 46	9500 11800 12000	2.1 0 0	0.4 0.1 0	67.8 72.5 78.6	21.4 18.7 11.9	8.3 8.7 9.5	胸部、右側、肺尖部ヨリ第一肋間迄濁音、水泡音。第二肋間ヨリ第四肋間迄強度ノ抵抗、水泡音。左側肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音水泡音、夫レ以下ハ抵抗呼吸音粗裂、呼氣延長。背部上部ヨリ第一肩胛骨間迄濁音、水泡音。夫レ以下ハ抵抗、所々ニ水泡音。	右側、肺尖部ニハ小葉性滲出性陰影、第一肋間外側ニ小葉性增殖性陰影。第二肋間以下肺底迄、細葉性滲出性陰影。左側、肺尖部ヨリ第二肋間外側部ニ小葉性滲出性陰影、第三肋間ヨリ以下肺底迄ハ細葉性滲出性陰影	$4^{20}/_{12}$「ヂアツオ」＋ 反應　＋ $5^{10}/_{1}$「アツエトン」反應＋ 蛋白尿	20歲肺尖「カタール」 31歲痔核	ナシ	死亡
第十一例、男、23	$5^{23}/_{1}$	Ⅰ	＋	−	−100	Ⅴ	80	354.	48	9800	0	0	78.3	11.9	9.8	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音夫レ以下抵抗ニ水泡音、呼吸音粗裂、呼氣延長。左側、肺尖部ニ濁音、第一肋間ヨリ第二肋間迄抵抗强ク共ニ水泡音。背部ハ上部ヨリ第二肩胛骨迄輕度濁音、水泡音。腹部盲腸部壓痛、下痢一日、12回。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影。第三出肋間ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影。左側、肺尖部ニ小葉性滲出性陰影。第一肋間ヨリ第三肋間外側迄細葉性滲出性陰影。	$5^{10}/_{1}$「ヂアツオ」 反應　＋ 「アツエトン」反應　＋ 蛋白尿	11歲痔瘻	腸結核	死亡
第十二例、男、17	$5^{22}/_{4}$ $5^{30}/_{4}$ $5^{23}/_{5}$ $5^{20}/_{6}$	Ⅰ Ⅱ Ⅲ Ⅳ	− ± ＋ ＋	− − − −	−2000 ±1000 −1000 −100	Ⅵ Ⅵ Ⅵ Ⅵ	82.5 83.1 86 87	412. 412. 375. 354	57 56 52 48	9500 9500 11000 12000	1.3 0 0 0	0.4 0 0 0.1	69.4 71.9 73.4 78.5	20.1 18.6 16.4 10.9	8.8 9.5 10.2 10.5	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音水泡音、第五肋間以下ハ抵抗呼吸音弱。右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音。背部右側肩胛骨下部、左、第二肩胛骨間迄、濁音、水泡音、夫レ以下ハ呼吸音弱シ。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間外側迄小葉性滲出性陰影、第二肋間內側以下肺底迄細葉性滲出性陰影。左側、肺尖部ヨリ第二肋間兩側竝ニ第三肋間外側ニ細葉小葉性滲出性陰影、第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影。	$5^{2}2/5$「ヂアツオ」 反應　±	常ニ風邪ニ侵サレ易シ。	ナシ	死亡
第十三例、女、19	$5^{21}/_{7}$ $5^{20}/_{12}$	Ⅰ Ⅱ	± ＋	± −	±1000 −100	Ⅴ Ⅴ	62.3 70.8	40.8 34.9	53 47	9500 11200	0 0	0.1 0	69.7 73.0	20.3 16.5	9.9 10.5	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間濁音、水泡音、夫レ以下强キ抵抗ヲ有シ、呼吸全音粗裂、呼氣延長。左側全體ニ濁音、水泡音。笫聲。背部右ハ第二肩胛骨間迄、左ハ全體ニ濁音、水泡音。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄內外側共ニ小葉性滲出性陰影、第四肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉小葉性滲出性陰影、第一肋間外側部ニハ增殖性陰影、第四肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影。	$5^{17}/_{12}$「ヂアツオ」 反應　＋ 蛋白尿	15歲肺尖「カタール」	ナシ	死亡
第十四例、男、23	$4\ ^{5}/_{5}$ $4\ ^{7}/_{10}$	Ⅰ Ⅱ	± ＋	± −	±1000 −100	Ⅳ Ⅳ	62.3 84.0	412. 325.	58 45	9500 12000	0.2 0	1.0 0	70.9 78.1	20.8 13.2	7.1 9.7	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、夫裂レ以下ハ抵抗、呼吸音粗呼氣延長。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、其ノ內笫一肋間中央部ニ鼓音ヲ呈シ金屬性響鳴セル水泡音。第四肋間以下ハ抵抗呼吸音弱シ。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉小葉性滲出性陰影。左側、肺尖部ニハ細葉性滲出性陰影、第一肋間中央部ニハ拇指頭大ノ圓形空洞、內側部ニハ增殖性陰影、第二肋間以下肺底迄ハ細葉性陰形。	$4\ ^{5}/_{10}$「ヂアツオ」 反應　＋ 蛋白尿	20歲肺尖「カタール」 21歲喀血	ナシ	死亡

第十五例、女、17	$5^{30}/_{7}$	I	±	±	±/1000	V	37.5	370.	56	8500	1.0	0.6	68.7	20.1	9.6	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音、軋音夫レ以下輕度濁音。呼吸音弱、肺尖部ハ鼓音、響鳴セル水泡音。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音水泡音、第四肋間以下ハ抵抗所々ニ水泡音。背部ハ上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音、水泡音、喉頭部疼痛、腹部廻盲腸壓痛。	$5^{13}/_{12}$「ヂアツオ」反應 ＋ 蛋白 尿	10歳肺炎 15歳喀血	喉頭結核 腸結核 腎臓結核	死亡
	$5^{20}/_{10}$	II	＋	−	−/100	V	50	357.	54	9500	0.3	0	77.0	14.0	8.7					
	$5^{12}/_{11}$	III	＋＋	−	−/100	V	67.5	351.	53	13400	0	0	81.0	8.4	10.6					
	$5^{9}/_{12}$	IV	＋＋＋	−	−/100	V	87													
第十六例、男、22	$5^{5}/_{7}$	I	−	±	±/2000	VII	64.1	426.	60	9300	0	0.1	72.4	21.2	6.3	胸部。右側肺尖部ハ鼓音ヲ呈シ、金屬性ニ響鳴セル水泡音、第一肋間ヨリ第三肋間濁音、水泡音。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄、濁音、水泡音、第四肋間以下抵抗呼吸音粗裂、呼氣延長。背部ハ兩側共ニ上部ヨリ第二肩胛骨間濁音、水泡音。	$5^{1}/_{12}$「ヂアツオ」反應 ＋ 「アツエトン」反應 ＋ 蛋白 尿	7歳肋膜炎 12歳腹膜炎	ナシ	死亡
	$5^{28}/_{9}$	II	±	−	±/1000	VII	65.2	352.	57	9500	0	0.8	74.7	16.4	8.1					
	$5^{17}/_{10}$	III	＋	−	±/100	VII	73.0	348.	51	10500	0	0	79.1	11.9	9.0					
	$5^{10}/_{12}$	IV	＋	−	−/100	VII	80.	334.	46	11700	0	0	80.0	10.7	9.3					
第十七例、女、36	$5^{10}/_{2}$	I	−	−	±/1000	V	69.	401.	57	9300	0	0	73.1	20.5	6.4	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間濁音、水泡音、第四肋間以下抵抗呼吸音弱。左側、肺尖部ヨリ第四肋間濁音、水泡音、軋音。背部、右側上部第一肩胛骨間迄、濁音、水泡音、下部ハ抵抗呼吸音弱。腹部廻盲腸部壓痛下痢一日15回。	$5^{20}/_{3}$「ヂアツオ」反應 ＋	28歳右側濕性肋膜炎 32歳喀血	腸結核	死亡
	$5^{20}/_{3}$	II	＋	−	−/1000	V	82.5	369.	52	9600	0	0	75.2	17.6	7.2					
第十八例、男、31	$5^{25}/_{5}$	I	−	−	±/1000	V	78	413.	51	9300	0	0.8	69.8	19.7	9.7	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音、軋音ヲ呈シ、金屬ニ響鳴セル水泡音。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音、夫レ以下ハ抵抗水泡音。肛門部ニ瘻孔アリテ、膿ヲ出ス。	$5^{17}/_{9}$「ヂアツオ」反應 ＋ $5^{20}/_{9}$「アトツエン」反應＋ 蛋白 尿	11歳肺炎 15歳乾性肋膜炎 30歳痔核	痔瘻	死亡
	$5^{2}/_{6}$	II	±	−	±/1000	VI	78	374.	47	10500	0	0	75.9	14.6	9.7					
	$5^{12}/_{8}$	III	±	−	−/1000	VI	80	325.	42	12000	0	0.4	77.3	12.3	10.0					
	$5^{18}/_{9}$	IV	＋	−	−/100	VI	80													
第十九例、男、22	$5^{15}/_{5}$	I	−	±	±/2000	V	58.9	402.	54	9300	0.4	0.4	72.1	19.8	7.3	胸部、右側、肺尖部ハ鼓音金屬性響鳴セル水泡音、第一肋間ヨリ第四肋間濁音水泡音、以下ハ抵抗、呼吸音弱。左側ハ肺尖部多少鼓音金屬性ニ響鳴セル水泡音、第一肋間ヨリ第三肋間迄、抵抗水泡音。背部上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ、喉頭部ハ疼痛アリ。	右側、肺尖部ニ小指頭大ノ空洞ニケアリ、第一肋間外側ニハ増殖性陰影アリ、第二肋間ヨリ第四肋間迄、細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ニハ拇指頭大空洞アリ、第一肋間ヨリ、第三肋間迄小葉性滲出性陰影アリ第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	$5^{1}/_{9}$「ヂアツオ」反應 ＋ 蛋白 尿	19歳肺尖「カタル」	喉頭結核	死亡
	$5^{5}/_{6}$	II	±	−	−/2000	V	75.7	401.	48	9500	0	0.4	73.9	17.2	8.5					
	$5^{30}/_{8}$	III	±	−	−/1000	V	86.2	369.	46	9600	0	0	77.0	13.7	9.3					
	$5^{1}/_{9}$	IV	＋	−	−/100	V	87.4	337.	42	10500	0	0	78.0	12.7	9.3					

第二十例、女、28	$5^{16}/_{5}$ $5^{27}/_{5}$ $5\ ^{1}/_{6}$	I II III	− ± +	± − −	±2000 ±1000 −1000	IV V V	53.2 75.2 85.0	407.58 351.49 348.47	9400 11000 11400	0 0 0	0.2 1.0 0	71.2 78.9 80.0	20.0 11.1 10.5	8.6 9.0 9.5	胸部、右側、肺尖部第一肋間迄濁音ニテ水泡音、第一肋間以下第三肋間迄抵抗水泡音アリ、左側、肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、水泡音アリ。第二肋間以下ノ抵抗呼吸音粗裂水泡音アリ。背部ハ上部ヨリ第二肩胛骨間ニ至ル間濁音、水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難、嗄聲。	右側、肺尖部ハ小葉性滲出性陰影、第一肋間外側部ニ増殖性陰影アリ、第二肋間ヨリ第三肋間迄細葉小葉性滲出性陰影。左側肺尖部ヨリ第二肋間迄細葉性小葉性滲出性陰影、夫レ以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	蛋白尿	27歳肺尖「カタール」左側乾性肋膜炎	喉頭結核	死亡
第二十一例、女、20	$5^{20}/_{6}$ $5\ ^{2}/_{7}$	I II	+ ++	− −	−1000 ±100	V V	60 82.1	421.53 346.50	9500 12300	0 0	0 0	76.4 79.6	16.2 12.4	7.4 8.0	胸部、右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音水泡音アリ、第二肋間以下抵抗強呼吸音粗裂、左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音アリ、第三肋間以下抵抗アリテ、呼吸音弱シ。背部ハ兩側共ニ上部ヨリ、第一肩胛骨間迄濁音水泡音夫レ以下ハ抵抗水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ、第三肋間外側ニハ小葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ、第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	$5^{30}/_{6}$「ヂアツオ」反應十尿蛋白	18歳肺尖「カタール」 19歳左側乾性肋膜炎 20歳腹膜炎	腹膜炎	死亡
第二十二例、男、54	$5\ ^{6}/_{1}$ $5^{26}/_{1}$	I II	+ ++	− −	±1000 −1000	V V	75 82.5	412.57 372.48	9200 12500	0 0	0.4 0	75.3 78.2	18.4 13.5	5.9 8.3	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第三肋間以下ハ抵抗、呼吸音粗裂、呼氣延長ス。左側肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、第二肋間ヨリ第四肋間迄抵抗水泡音ヲキク。背部ハ上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音水泡音ヲキク、第二肩胛骨以下ハ抵抗呼吸音粗裂、呼氣延長ス。喉頭部疼痛、嗄聲。	右側、肺尖部ニハ小葉性滲出性陰影。第一肋間竝ニ第二肋間外側ニハ小指頭大空洞2個アリ、第一、第二肋間内側以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ、左側ハ肺尖部ヨリ、第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ、第三肋間外側ニハ小葉性滲出性陰影アリ。	$5^{26}/_{1}$「ヂアツオ」反應十尿蛋白	19歳肺尖「カタール」 23歳喀血	喉頭結核	死亡
第二十三例、男、39	$6^{10}/_{8}$	I	++	−	−100	V	83	350 51	12200	0	0	78.3	13.3	9.4	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、第二肋間ハ鼓音ヲ呈シ、水泡音アリ、第五肋間以下抵抗、呼吸音弱シ。左側、全體輕度ノ濁音ヲ呈シ、水泡音。背部ハ兩側共ニ第二肩胛骨間迄濁音ヲ呈シ水泡音アリ。	右側、肺尖部ニ小葉性滲出性陰影、第一竝ニ第二、肋間ニハ細葉小葉性滲出性陰影アリ第二肋間外側ニ拇指頭大ノ空洞以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側ハ全體ニ細葉性滲出性陰影アリ。	$6^{10}/_{8}$「ヂアツオ」反應十	30歳喀血 32歳血痰頻回	ナシ	死亡
第二十四例、男、22	$4^{25}/_{12}$ $5^{16}/_{1}$	I II	± +	− −	±1000 −1000	IV IV	71.2 82.3	415.53 357.47	9200 11300	0 0	0 0	71.9 77.4	18.6 12.6	9.5 10.0	胸部、右側肺尖部ヨリ第二四肋間迄濁音、第二ヨリ第四肋間迄強キ抵抗ヲ有シ、水泡音ヲキク。左側部肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音水泡音アリ。第四肋間以下抵抗呼吸音弱シ。背部兩側、上部ヨリ第二肩胛骨迄ノ濁音、水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部、第一肋間ニ第二ハ小葉性滲出性陰影、第二肋間ヨリ第三肋間ニハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第二肋間迄細葉小葉性滲出性陰影アリ、第二肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	$5\ ^{6}/_{1}$「ヂアツオ」反應十尿蛋白	20歳喀血性右側乾性肋膜炎	痔瘻 喉頭結核	死亡

第二十五例、男、21	$4\frac{5}{11}$	I	−	−	±/1000	V	71.2	416.	51	9400	0	1.2	76.1	19.6	8.1	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音水泡音アリ。第三肋間以下ハ抵抗、呼吸音粗裂、呼氣延長ス。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄輕度濁音、水泡音アリ。第三肋間以下ハ抵抗、呼吸音弱シ。背部兩側共ニ上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音水泡音。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ、第二、第三肋間外側ニハ小葉性滲出性陰影アリ。左肺尖部ヨリ第三肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	蛋白 尿	20歳乾性肋膜炎	腸結核	死亡
	$4\frac{30}{12}$	II	+	−	−/1000	V	76.	392.	46	12000	0	0	79.8	11.4	8.8						
第二十六例、男、67	$4\frac{18}{10}$	I	±	−	−/1000	V	70.2	412.	58	9500	0	0.6	70.8	20.1	8.5	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音ニテ水泡音アリ呼吸音弱シ。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音アリ。第四肋間以下ノ抵抗、呼吸音粗裂、呼氣延長ス。背部上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音、水泡音。	右側肺尖部ヨリ第五肋間迄細葉性滲出性陰影、第四肋間外側部ニ小葉性滲出性陰影。左側肺尖部ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影、第二肋間内側部ニ増殖性陰影アリ。	$4\frac{18}{10}$「ヂアツオ」反應 +	17歳氣管枝「カタール」 50歳肺炎	ナシ	死亡
	$4\frac{25}{11}$	II	+	−	±/100	V	77.3	365.	53	10000	0	0	77.1	13.4	9.5			蛋白 尿			
第二十七例、女、34	$4\frac{5}{10}$	I	++	−	−/100	V	82	382	51	13500	0	0	78.3	12.5	9.2	胸部右側肺尖部ハ鼓音ヲ呈シ、水泡音第一肋骨以下第三肋骨迄濁音ヲ呈シ、水泡音アリ、第三肋間以下ハ抵抗呼吸音弱。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄、濁音、呼吸音弱シ。背部第二肩胛骨間迄濁音、水泡音。喉頭部疼痛。腹部、廻盲腸部ニ壓痛。	右側肺尖部ニハ拇指頭大ノ空洞アリ、第一肋間ヨリ第四肋間迄、細葉性滲出性陰影。第三、第四外側部ニ小葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	$4\frac{1}{10}$「ヂアツオ」反應 + $4\frac{2}{10}$「アトエツン」反應 + 蛋白 尿	21歳右側肋膜乾性炎	喉頭結核 腸結核	死亡
第二十八例、男、34	$5\frac{13}{6}$	I	++	−	−/100	V	83.4	358.	52	12600	0	0	78.0	13.5	8.5	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音第三肋間以下抵抗強ク、水泡音アリ。左側肺、尖部ヨリ第二肋間迄濁音。第二肋間以下ハ抵抗強ク、水泡音ヲキク、背部モ第二肩胛骨間迄濁音呼吸音粗裂、水泡音ヲキク。喉頭部疼痛、嗄聲。	右側、肺尖部ハ小葉性滲出性陰影。第一肋間ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影、第三、第四肋間ニ小葉性滲出性陰影混在ス。左側肺尖部ヨリ第五肋間迄細葉性滲出性陰影アリ、第二、第三肋間外側ニ小葉性滲出性陰影アリ。	$5\frac{12}{6}$「ヂアツオ」反應 + エ「アツトン」反應 + 蛋白 尿	32歳喀血頻回	喉頭結核	死亡
第二十九例、女、24	$5\frac{11}{8}$	I	++	−	−/100	V	86.3	328.	42	13000	0	0	79.5	12.4	8.1	胸部、右側、肺尖部ハ鼓音金屬ニ響鳴セル水泡音アリ。第一肋間ヨリ第五肋間迄濁音水泡音ヲ呈ス。左側肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、水泡音ヲ有シ、呼吸音弱シ。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音アリ。第四肋間以下ノ抵抗、呼吸音粗裂、呼氣延長ス。背部上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音、水泡音アリ。腹部、廻盲腸部ニ壓疼、下痢一日15回。	右側、肺尖部ニハ拇指頭大ノ空洞アリ、第一肋間ヨリ第四肋間迄細葉性、小葉性滲出性陰影アリ。夫レ以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間二迄細葉性滲出性陰影、第三ノ外側部ニ小葉性滲出性陰影アリ。	$5\frac{7}{8}$「ヂアツオ」反應 + $5\frac{11}{8}$「アトエツン」反應 + 蛋白 尿	20歳氣管枝「カタール」	腸結核	死亡

第三十例、男、28	$5^{20}/_{11}$ $5^{4}/_{12}$ $6^{13}/_{1}$	Ⅰ Ⅱ Ⅲ	− ± ＋	± − −	±1000 ±1000 −100	Ⅵ Ⅵ Ⅵ	60.4 72.5 80	412. 356.	53 42	9300 9800	0 0	0 0	71.7 74.7	19.8 15.7	8.5 9.6	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間外側迄鼓音ヲ呈シ金屬性ニ響鳴セル水泡音ヲ聽ク。第三肋間以下濁音ヲ呈ハシ、水泡音ヲキク、左側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音水泡音アリ。背部ハ第二肩胛骨間以上濁音、以下ハ抗強ク水泡音ヲキク。	右側、肺尖部、第二肋間內側、並ニ第三肋間中央部ニ各々拇指頭大ノ空洞アリ、第一第二肋間外側ニハ增殖性陰影混ジ、水泡音ヲ呈ハス。第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	$6^{10}/_{1}$「ヂアツオ」反應「アトピン」蛋白	＋ ＋ 尿	20歲右側肺尖「カタール」	ナシ	死亡
第三十一例、男、29	$5^{22}/_{7}$ $5^{25}/_{7}$	Ⅰ Ⅱ	＋ ＋	− −	−100 −100	Ⅴ Ⅴ	71.5 76.4	382. 357.	53 51	9300 9500	0 0	0 0	79.4 80.2	10.8 10.0	9.8 9.8	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、呼吸音粗裂、第三肋間以下呼吸音弱。左側肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、呼吸音粗裂、水泡音。夫レ以下呼吸音粗裂、呼氣延長ス。背部上部ヨリ第一肩胛骨間迄濁音、水泡音。喉頭部疼痛。腹部廻盲腸部壓痛。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性、小葉性滲出性陰影、第四肋間ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影、夫レ以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	$5^{26}/_{7}$「ヂアツオ」反應蛋白	＋ 尿	20歲肺「カタール」	尖ー 喉頭結核 腸結核	死亡
第三十二例、女、18	$5^{30}/_{2}$ $5^{20}/_{3}$ $5^{5}/_{4}$	Ⅰ Ⅱ Ⅲ	− ± ＋	± − −	±1000 ±1000 −1000	Ⅴ Ⅴ Ⅴ	60 81. 80.	386. 345. 342.	54 46 45	9400 9600 11400	0.2 0 0	0 0 0	70.5 72.5 78.1	20.3 18.0 11.8	9.0 9.5 10.1	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下ハ強キ抵抗、水泡音。左側肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、水泡音アリ。背部上部ヨリ、第二肩胛骨迄濁音、夫レ以下ハ強キ抵抗、水泡音ヲキク。	右側、肺尖部ハ細葉性滲出性陰影。第一肋間ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影アリ。左側、全體ニ亙リ細葉性滲出性陰影アリ、第三肋間外側部ニ小葉性滲出性陰影アリ。	蛋白尿		15歲肺「カタール」 16歲肺炎	尖ー ナシ	死亡
第三十三例、男、22	$4^{21}/_{8}$ $4^{20}/_{10}$	Ⅰ Ⅱ	＋＋ ＋＋	− −	−1000 −100	Ⅶ Ⅶ	67.3 84.	382. 340	53 47	9800 12300	0 0	0 0	73.4 75.9	17.9 14.6	8.7 9.5	胸部、右側肺尖部ヨリ第二側肋間外側竝ニ第三肋間外側部ニ鼓音、金屬性ニ響鳴ヨル水泡音アリ、第三肋間ヨリ第四肋間迄ハ濁音、水泡音アリ。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、夫レ以下ハ抵抗強ク、水泡音ヲキク。背部、上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音、夫レ以下抵抗強ク、共ニ水泡音アリ	右側、肺尖部第二肋間ニ小指頭大、第三肋間外側部ニ一殖性增拇指頭大ノ空洞アリ。第四肋間內側ニ增殖性陰影アリ。第三肋間以下影竝第二肋間內側ニ增殖性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ肺底迄、細葉性滲出性陰影アリ。肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	$4^{30}/_{10}$「ヂアツオ」反應「アトピン」蛋白	＋ ＋ 尿	10歲盲腸炎 20歲氣管枝「カタール」	喉頭結核	死亡
第三十四例、女、24	$5^{2}/_{11}$ $5^{30}/_{12}$	Ⅰ Ⅱ	＋ ＋	− −	−1000 −1000	Ⅴ Ⅴ	60. 78.7	394. 358.	50 46	9500 9400	0 0	0.4 0	74.2 75.3	17.1 15.1	8.3 8.6	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第三肋間以下ハ抵抗強ク、呼吸音、弱シ。左側、肺尖部ハ呼吸音弱ク、第一肋間ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音アリ。背部上部ヨリ第二肩胛骨迄水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄細葉性小葉性滲出性陰影アリ。第三肋間以下細葉性滲出性陰影アリ。左側、全體細葉性滲出性陰影アリ、第四肋間外側部ニ小葉性滲出性陰影アリ。	$5^{30}/_{2}$「ヂアツオ」反應	＋	15歲肺炎	喉頭結核	死亡

第三十五例、男、35	$4\frac{5}{9}$	I	±	±	±/2000	V	57.2	413.	64	8500	0.4	0.4	71.3	21.5	7.8	胸部、右側、第一肋間外側部ニ鼓音ヲ呈シ、金屬性ニ響鳴セル水泡音アリ。肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音水泡音。第二肋間以下ハ輕度ノ濁音、水泡音。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音水泡音。背部、兩部輕度ノ濁音水泡音ヲキク。腹部廻盲腸部壓痛、下痢一日13回。喉頭部疼痛、嗄聲、嚥下困難。	右側、肺尖部ニ細葉性滲出性陰影、第一肋間外側部ニ小指頭大ノ空洞アリ、内側二ニハ増殖性陰影アリ。第肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側全體ハ細葉性滲出性陰影アリ、第三、第四肋間ニハ大葉性滲出性陰影アリ。	$4^{15}/_{11}$「ヂアツオ」反應＋「アツト」＋エ反應＋尿蛋白	30歳肺尖「カタル」	喉頭結核　腸結核	死亡
	$4^{12}/_{10}$	II	＋	−	−/1000	IV	67.5	351.	57	12000	0	0	75.3	14.7	10.0						
	$4^{25}/_{11}$	III	＋＋	−	−/100	V	83.5	315.	53	13600	0	0	78.2	10.3	11.5						
第三十六例、女、20	$5^{24}/_{18}$	I	−	±	±/1000	VI	54	415.	56	9600	0.3	0.1	74.2	17.3	8.1	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音ヲキク。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下ハ抵抗強ク、共ニ水泡音ヲキク。背部ノ第二肩胛骨迄下濁音、水泡音ヲキク、最部ニモ亦水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄細葉性小葉性滲出性陰影。第二肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	$4^{15}/_{11}$「ヂアツオ」反應＋$4^{17}/_{11}$「アトエツン」反應＋	15歳腸「チフス」　19歳肺尖「カタル」	肛門周圍炎	死亡
	$5\frac{1}{10}$	II	±	−	−/1000	VI	60	341.	53	10400	0	0	75.3	15.2	9.5						
	$5^{12}/_{11}$	III	＋	−	−/1000	VI	67.5	340.	46	12500	0	0	79.6	10.9	9.5						
	$5\frac{8}{12}$	IV	＋	−	−/100	VI	76														
第三十七例、女、40	$5^{22}/_{10}$	I	−	±	±/1000	V	63.	419.	57	9200	0	0	72.5	20.1	7.4	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音アリ。第四肋間以下ハ抵抗強ク、呼吸音弱シ。左側肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、第二肋間ヨリ第四肋間迄抵抗強ク共ニ水泡音ヲキク。背部モ第二肩胛骨間迄濁音水泡音ヲキク。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。第二、第三肋間外側ニハ小葉性滲出性陰影アリ。左側ハ全體ニ亙リ細葉性滲出性陰影アリ。	蛋白尿	22歳「ヂフテリー」　30歳喀血	喉頭結核	死亡
	$5^{11}/_{12}$	II	±	−	−/1000	V	75.	341.	51	9800	0	0.4	77.6	12.8	9.2						
第三十八例、女、32	$6\frac{5}{5}$	I	＋＋	−	−/100	VI	82.5	378.	54	12300	0	0.7	78.2	12.6	8.5	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音ヲ聞ク、第三肋間以下ハ抵抗強ク、所々水泡音アリ。左側全體ニ亙リ濁音ヲ有シ水泡音アリ。背部左右共上部ヨリ第二肩胛骨間濁音ヲ有シ水泡音、第二肩胛骨以下ハ抵抗強ク、呼吸音弱シ。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影多ク、第一肋間外側ニ増殖性陰影アリ。	$6^{3}/_{8}$「ヂアツオ」反應＋	18歳肺尖「カタル」	ナシ	死亡
第三十九例、男、39	$4^{20}/_{9}$	I	±	−	±/2000	V	52	405.	63	8900	1.0	0	69.4	21.5	8.1	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音ヲキク。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音ヲキク、第一、第二肋間ニハ鼓音ヲ呈シ、金屬的ニ響鳴セル水泡音ヲキク。背部ハ上部ヨリ右側ハ第一肩胛骨、左側ハ第二肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ハ小葉性滲出性陰影、第一、第二肋間外側部ニハ小葉性増殖性陰影、内部ニハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ニ小葉性滲出性陰影第一肋間外側部第二肋間内側部ニ一錢銅貨大ノ空洞各々一個アリ。第三肋間以下肺底迄細葉性滲出陰影アリ。	$4^{20}/_{10}$「ヂアツオ」反應＋$4^{22}/_{10}$「アトエツン」反應＋尿蛋白	20歳肺尖「カタル」	喉頭結核　腸結核	死亡
	$4\frac{5}{8}$	II	＋＋	−	−/1000	V	80.3	346.	60	9500	0.4	0	72.0	17.6	10.0						
	$4^{22}/_{10}$	III	＋＋＋	−	−/100	V	87.5	312.	53	13500	0	0	80.3	9.4	10.3						

第四十例、男、54	$4^{20}/_{10}$ $5^{22}/_{8}$ $5^{30}/_{9}$	I II III	− 卌 卌	± − −	$\frac{\pm}{1000}$ $\frac{-}{100}$ $\frac{-}{100}$	V V V	75. 76.5 88.2	438 364 320	55 48 47	9500 9900 12500	0 0 0	0 0 0	72.8 74.4 79.2	20.1 17.6 11.5	7.1 8.0 9.3	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄、濁音、水泡音ヲキク、第三肋間以下抵抗強ク、呼吸音弱シ。右側肺尖部ヨリ第四肋間迄、濁音、水泡音、夫レヨリ以下呼吸音粗裂ス。背部上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音ヲ呈シ、以下抵抗ヲ有シ、水泡音ヲキク。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影、第一肋間内側部ニ増殖性陰影アリ。第二肋間ヨリ肺底迄ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ肺底迄細葉性滲出陰影アリ。	$5^{20}/_{9}$「ヂアツオ」反應 十 蛋白尿	50歳右側滲出性肋膜炎	喉頭結核	死亡
第四十一例、男、30	$4^{10}/_{11}$ $4^{20}/_{12}$	I II	± ＋	− −	$\frac{\pm}{1000}$ $\frac{-}{1000}$	IV IV	60.5 66.2	423. 358.	56 50	9800 10700	0 0	0 0	74.3 76.1	18.4 14.9	7.3 9.0	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下ハ抵抗強ク、共ニ水泡音ヲキク。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下ハ抵抗強ク、呼吸音粗裂笛聲、水泡音ヲキク。背部上部第二肩胛骨間迄濁音、水泡音、笛聲ヲキク。	右側、肺尖部ニ小指頭大ノ空洞アリ。第一肋間ヨリ第三肋間迄細葉小葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部竝ニ第二肋間外側部ニ小葉性滲出性陰影アリ、第一肋間竝ニ第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	$4^{10}/_{12}$「ヂアツオ」反應 十 蛋白尿	23歳心臓病 25歳右側乾性肋膜炎	ナシ	死亡
第四十二例、女、24	$5\ ^{5}/_{8}$ $5^{10}/_{11}$	I II	± 卄	− −	$\frac{-}{1000}$ $\frac{-}{100}$	V VI	71.6 75.6	413. 357.	57 46	9400 11500	0 0	0 0	73.1 77.0	18.6 13.8	8.3 9.2	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音、第四肋間以下ハ抵抗、呼吸音弱シ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音ヲキク。背部ハ左右共上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音、水泡音ヲキク。夫レ以下呼吸音粗裂ス。腹部廻盲腸部壓痛下痢一日14回。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性小葉性滲出性陰影第四肋間以下肺底迄ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下肺底迄ハ細葉性滲出性陰影アリ。	$5^{30}/_{10}$「ヂアツオ」反應 十 蛋白尿	7歳兩側肋膜炎 20歳 腸「カタール」	腸結核	死亡
第四十三例、男、26	$4\ ^{3}/_{8}$ $4\ ^{5}/_{10}$ $4^{15}/_{11}$	I II III	± ＋ ＋	− − −	$\frac{\pm}{1000}$ $\frac{-}{1000}$ $\frac{-}{1000}$	III V V	62.3 71.2 80.	381. 356. 351.	58 56 53	9300 9400 11400	0 0 0	0.8 0 0	71.5 75.7 77.6	18.2 14.0 12.1	9.8 10.3 10.3	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音ヲ呈シ、水泡音ヲキク。第三肋間以下抵抗水泡音アリ。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音水泡音。背部右側上部、第二肩胛骨間、左側ハ上部ヨリ下部迄濁音、水泡音ヲキク。腹部廻盲腸部壓痛、下痢一日15回。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性小葉性滲出性陰影ヲミル。第四肋間竝ニ肺底ニハ細葉性滲出性陰影アリ左側、肺尖部ヨリ第三肋間小葉性滲出性陰影、第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	$4^{10}/_{11}$「ヂアツオ」反應 十 蛋白尿	10歳大腸「カタール」	腸結核	死亡
第四十四例、女、22	$6^{20}/_{1}$ $6\ ^{2}/_{2}$ $6^{14}/_{2}$	I II III	± ＋ 卌	± − −	$\frac{\pm}{1000}$ $\frac{-}{1000}$ $\frac{-}{100}$	III IV III	65 73.4 87	423. 412. 436.	58 57 49	8400 9500 15000	0.8 0.3 0	0.4 0.4 0	69.6 74.8 79.5	20.6 15.0 11.0	8.4 9.5 9.5	胸部、右側肺尖部ヨリ最下部迄濁音ニテ水泡音ヲキク。左側第一肋間ニ鼓音ヲ呈シ、金屬性響鳴セル水泡音アリ。肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、夫レ以下ハ抵抗強ク、水泡音ヲキク。背部モ兩側共ニ上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音水泡音アリ。	右側肺尖部ヨリ第一肋間内外部竝第二肋間外部細葉性滲出性陰影。第二肋間以下肺底細葉性滲出性陰影。左側、肺尖部小葉性滲出性陰影。第一肋間外側ニハ拇指頭大ノ空洞アリ。第一肋間以下肺底迄小葉性滲出性陰影アリ。	$6^{20}/_{1}$「ヂアツオ」反應 十 「インヂカン」反應 十 蛋白尿	10歳腎臓炎、 20歳右側浸出性肋膜炎	肋膜炎 腹膜炎	死亡

第四十五例、男、29	$5^{30}/_{11}$	I	−	±	±/2000	V	60.2	417.	60	7200	1.0	0.4	72.8	17.5	8.3	胸部、右側、肺尖部濁音、呼吸音粗裂呼吸延長。第三肋間以下輕度ノ濁音、水泡音ヲキク。左側肺尖部ヨリ以下濁音、水泡音。第二肋間ニハ鼓音、金屬ニ響鳴セル水泡音アリ。背部、右側ハ第二肩胛骨間迄、左側ハ全體ニ濁音水泡音アリ。	右側、肺尖部ニ細葉性増殖性陰影第一肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリテ、第三肋間外側ニ小葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影アリ、第二肋間中央部ニ拇指頭大ノ空洞アリ。	$6^{16}/_{3}$「ヂアツオ」反應 ＋ 蛋白 尿	20歳肺尖「カタール」	腸結核 肛門周圍炎	死亡
	$6^{10}/_{1}$	II	±	−	±/1000	V	82.	345.	56	9600	0.4	0	75.4	13.5	11.7						
	$6^{23}/_{2}$	III	±	−	−/1000	V	83.2	340.	50	10100	0	0	78.6	9.4	12.0						
	$6^{20}/_{3}$	IV	+	−	−/1000	V															
第四十六例、男、19	$5^{5}/_{6}$	I	−	−	±/1000	V	54.3	412.	53	9800	0	0	75.4	17.2	7.4	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音水泡音アリ。第四肋間以下ハ抵抗アリテ水泡音ヲキク。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音アリ。第三肋間以下ハ抵抗強ク、呼吸音弱シ。背部上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影。第三肋間ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影アリ、左側ハ肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ、第二、第三肋間外側部ニハ小葉性滲出性陰影アリ。	$6^{20}/_{10}$「ヂアツオ」反應 ＋ 蛋白 尿	17歳肺尖「カタール」	喉頭結核	死亡
	$6^{5}/_{8}$	II	±	−	−/100	V	78.	354.	48	10300	0	0	78.2	13.5	8.3						
	$6^{23}/_{10}$	III	+	−	−/100	V	80														
第四十七例、男、20	$5^{10}/_{6}$	I	−	±	±/1000	IV	41.6	382.	53	9100	0.1	0	71.1	20.4	8.4	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第三肋間以下ハ抵抗強ク、水泡音ヲキク。左側、肺尖部ヨリ、第四肋間迄濁音、水泡音ヲキク。背部上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音水泡音アリ。喉頭部疼痛、嗄聲。	右側、全體ニ亙リ細葉性滲出性陰影アリ、第二、第三肋間ノ中央部ニ小葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄細葉小葉性滲出性陰影アリ。第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	$5^{13}/_{11}$「ヂアツオ」反應 ＋ 「アットン」反應 ＋ 蛋白 尿	15歳肺尖「カタール」	喉頭結核	死亡
	$5^{5}/_{8}$	II	+	−	−/1000	V	62	356.	48	9300	0	0	73.2	17.0	9.8						
	$5^{27}/_{10}$	III	+	−	−/1000	V	75.	314.	45	12000	0	0	79.3	10.9	9.8						
	$5^{20}/_{11}$	IV	+	−	−/100	VII	75.4														
第四十八例、女、20	$6^{10}/_{7}$	I	++	−	−/100	IV	81.2	341.	53	11400	0	0	79.4	10.9	9.7	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第三肋間以下ハ抵抗強ク、水泡音ヲキク。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音、笛聲ヲキク。背部、上部ヨリ下部ニ至ル迄濁音、水泡音軋音アリ。腹部、廻盲腸部ニ壓痛アリ。下痢一日13回。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間小葉性滲出性陰影、第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ肺底ニ至ル迄細葉性滲出性陰影アリ、第二肋間外側部ニ小葉性滲出性陰影アリ。	$6^{8}/_{7}$「ヂアツオ」反應 ＋ $6^{11}/_{7}$「アツエトン」反應 ＋ 蛋白 尿	17歳肺尖「カタール」	腸結核	死亡
第四十九例、男、23	$6^{3}/_{9}$	I	++	−	−/100	III	83	340.	48	9800	0	0	78.2	12.4	9.4	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間濁音水泡音、笛聲ヲキク、第三肋間以下ハ強キ抵抗ニシテ、呼吸音弱シ。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音アリ 背部、上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音水泡音アリ。肺尖部ハ鼓音ヲ呈シ、金屬ニ響鳴セル水泡音ヲキク。	右側、全體ニ亙リ細葉性滲出性陰影。肺尖部、第二肋間外側ニ小葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ニ拇指頭大ノ空洞アリ。第一肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	$6^{3}/_{9}$「ヂアツオ」反應 ＋ 「アツエトン」反應 ＋ 蛋白 尿	20歳肺尖「カタール」 22歳喀血	ナシ	死亡

第五十例、男、17	5 3/6	I	－	±	±/1000	V	59.6	358.	53	9600	1.4	0.2	69.9	20.5	8.0	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音ヲキク、第四以下ハ抵抗强ク、水泡音アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音。第三肋間以下抵抗强ク呼吸弱シ。背部上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音、水泡音アリ。	右側肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影アリ、第四肋間ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	5 3/8「ヂアツオ」反應 ＋ 蛋白尿	15歳肺尖「カタール」 16歳腸「カタール」	ナシ	死亡
	5 9/7	II	＋	±	±/1000	V	70.5	321.	51	9700	0	0	75.4	15.1	9.5						
	5 9/8	III	＋	－	－/1000	V	74.	312.	45	10000	0	0	79.0	11.3	9.7						
第五十一例、男、38	5 30/11	I	±	±	±/1000	VI	72.	436.	54	9100	0.4	0.8	71.6	19.7	7.5	胸部、右側、肺尖部ハ鼓音ヲ呈シ、水泡音アリ、第一肋間ヨリ肺下部迄濁音ヲ呈シ水泡音ヲキク。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音水泡音アリ、第三肋間以下ハ抵抗强ク、呼吸音弱シ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ニハ拇指頭大ノ空洞アリ第一肋間内側ニハ增殖性滲出性陰影アリ。第一肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	5 10/1「ヂアツオ」反應 ＋「アツトン」反應 ＋ 蛋白尿	30歳肺尖「カタール」	喉頭結核	死亡
	5 20/12	II	＋	－	－/1000	VI	85	370.	51	9300	0	0	76.1	15.8	8.1						
	5 9/1	III	＋＋	－	－/1000	VI	85	345.	47	12600	0	0.8	77.4	13.3	8.4						
第五十二例、女、35	5 27/1	I	±	－	－/1000	V	69	405.	53	9200	0	0	78.7	18.3	3.0	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、呼吸音粗裂水泡音ヲキク。第二肋間以下抵抗强ク、呼吸音弱シ。左側肺尖部ヨリ以下全體ニ濁音、水泡音、軋音アリ。背部、上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音、夫レ以下ハ呼吸音弱シ。喉頭部疼痛。腹部廻盲腸部壓痛。	右側肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影。第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ肺底ニ至ル間細葉性滲出性陰影アリ。第二、第三肋間外側部ニ小葉性滲出性陰影アリ。	6 23/1「ヂアツオ」反應 ＋	30歳肺尖「カタール」 32歳腸「カタール」	喉頭結核 腸結核	死亡
	6 4/2	II	＋	－	±/100	V	78.	386.	48	9500	0	0	80.0	13.9	6.1						
第五十三例、女、23	6 10/8	I	＋＋	－	－/100	V	73	420.	51	12800	0	0.4	79.0	11.3	9.3	胸部、右側肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、水泡音。第二肋間以下ハ輕度濁音、水泡音アリ。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄輕度濁音、水泡音アリ。背部上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影。第二肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、夫レ以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	6 9/8「ヂアツオ」反應 ＋「アツトン」反應 ＋ 蛋白尿	18歳肺尖「カタール」 20歳喀血	ナシ	死亡
第五十四例、男、35	5 29/9	I	±	－	±/1000	VII	72	421.	53	9500	0	0	72.7	19.4	7.9	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音、笛聲ヲキク。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第三肋間以下ハ抵抗强ク、水泡音アリ。背部、上部ヨリ左ハ第二肩胛骨右ハ第一肩胛骨迄濁音、水泡音ヲキク。	右側肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下肺底迄ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ、第五肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	6 10/1「ヂアツオ」反應 ＋	30歳兩側滲出性肋膜炎 32歳黴毒	ナシ	死亡
	5 16/12	II	±	－	－/1000	VII	81.1	340.	48	9800	0	0	76.4	14.5	9.1						
	6 28/1	III	＋	－	－/1000	VII	83.	320.	46	11300	0	0	77.8	11.6	10.6						

第五十五例、女、20	$6\frac{5}{7}$	I	±	−	±/1000	V	74	420.	52	9200	0	0.4	71.2	20.6	7.8	胸部、右側肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下輕度濁音、水泡音、軋音アリ。背部、兩側共上部ヨリ、下部迄濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影、第二肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	$6\frac{5}{10}$「ヂアツオ」反應＋蛋白尿	15歳肺炎	ナシ	死亡
	$6\frac{30}{8}$	II	＋	−	±/1000	V	81.1	343.	50	11300	0	0.8	75.3	15.3	8.6						
	$6\frac{20}{10}$	III	＋＋	−	−/1000	V	87.	326.	46	12500	0	0	78.6	11.6	9.8						
第五十六例、男、25	$5\frac{23}{6}$	I	−	±	±/2000	III	56.1	420.	60	8400	1.2	0	67.2	25.1	6.5	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音水泡音、第三肋間以下ハ抵抗強ク、呼吸音第弱シ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音アリ左側ハ第二肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ。腹部壓痛烈シ。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間ヨリ肺底迄ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音アリ。	$6\frac{30}{1}$「ヂアツオ」反應＋ $6\frac{3}{2}$「アツエトン」反應＋ 蛋白尿	ナシ	腹膜炎	死亡
	$5\frac{12}{9}$	II	±	−	−/1000 ±/100	III	75	364.	60	8800	1.0	0	74.9	15.0	9.1						
	$5\frac{10}{10}$	III	±	−	±/100	III	90	336.	58	11400	0	0	78.4	11.9	9.7						
	$5\frac{30}{12}$	IV	＋	−	−/100	III	90	319.	45	12000	0	0	78.6	12.1	9.3						
	$6\frac{10}{2}$	V	＋＋	−	−/100	III	90														
第五十七例、女、28	$6\frac{13}{1}$	I	±	−	±/1000	VI	72.5	412.	52	7800	0.1	0	71.4	20.3	8.2	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音ヲキ強ク、第四肋間以下ハ抵抗強ク、呼吸音粗裂シ、軋音アリ。左側全體ニ亙リ輕度濁音、水泡音アリ。背部第二肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄大葉性滲出性陰影、第三肋間以下肺底迄小葉性滲出性陰影アリ、左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ、第二肋間外側ニハ小指頭大ノ空洞アリ、内側ニハ增殖性陰影アリ。	$6\frac{4}{2}$「ヂアツオ」反應＋	20歳肺尖「カタール」	ナシ	死亡
	$6\frac{7}{2}$	II	＋	−	−/1000	IV	76.	375.	50	9800	0	0	73.5	17.4	9.1						
	$6\frac{15}{2}$	III	＋	−	−/1000	VI	78.	361.	48	11000	0	0	75.5	14.9	9.6						
第五十八例、男、24	$6\frac{10}{1}$	I	−	±	±/1000	IV	68.4	371.	52	9100	0	0	78.5	14.4	7.1	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第一肋間中央部ニ鼓音ヲ呈シ、ヲ金屬性ニ鬱鳴セル水泡音ヲキク。第三肋間以下抵抗呼吸音弱シ。右側、全體ニ輕度ノ濁音、水泡音、笛聲アリ。喉頭部疼痛。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影、第一肋間外側部ニ拇指頭大ノ空細洞アリ。第四肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側全葉ニ亙リ細葉性滲出性陰影アリ。	$6\frac{4}{2}$「ヂアツオ」反應＋蛋白尿	21歳肺尖「カタール」	喉頭結核	死亡
	$6\frac{3}{2}$	II	＋	−	−/1000	V	71.2	368.	50	9400	0	0	79.2	12.9	7.9						
	$6\frac{13}{2}$	III	＋	−	−/1000	V	75.	342.	45	11300	0	0	79.3	11.7	9.0						
第五十九例、男、49	$5\frac{3}{9}$	I	−	±	±/2000	IV	43.	387.	51	8600	0.3	0.1	72.3	20.1	7.2	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音アリ、第四肋間以下ハ抵抗強ク呼吸音弱シ。左側肺尖部ヨリ弱ク、水泡音アリ。背部上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音、呼吸音第三肋間迄濁音、水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄細葉性滲出性陰影アリ、第三肋間以下小葉性滲出性陰影アリ。左側、全體ニ亙リ細葉性滲出性陰影アリ。	$6\frac{9}{1}$「ヂアツオ」反應＋蛋白尿	30歳肺尖「カタール」	喉頭結核	死亡
	$5\frac{20}{10}$	II	±	±	±/2000	V	52	362.	50	8900	0.2	0.6	74.4	16.4	8.4						
	$5\frac{20}{12}$	III	±	±	±/1000	V	76	346.	47	9800	0	0	78.3	12.6	9.1						
	$6\frac{15}{1}$	IV	＋	−	−/1000	V															

第六十例、女、25	6 10/4	I	+	−	±/1000	V	75.	352.	50	9700	0	0	75.9	15.6	8.5	胸部、右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、第二肋間以下抵抗强ク、水泡音ヲキク。左側全體ニ輕度ノ濁音ヲ呈シ、水泡音アリ。背部全體ニ濁音、水泡音アリ。喉頭部疼痛、嗄聲。腹部廻盲腸部壓痛、下痢一日14回。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影、第二肋間以下細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	6 11/4「ヂアツオ」反應 ＋「アツトン」反應 ＋ 蛋白尿	17歳肺尖「カタール」	喉頭結核 腸結核	死亡
	6 22/4	II	++	−	−/100	V	82.5	338.	46	12300	0	0	77.1	13.1	9.8						
第六十一例、女、22	5 5/5	I	−	−	±/2000	V	61.5	386.	53	9400	0	0	74.5	17.2	8.3	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音。第三肋間以下抵抗水泡音アリ。左側、全體ニ亙リ、濁音、水泡音アリ。背部、右側ハ第一肩胛骨迄左側ハ肺底部迄濁音、水泡音アリ。腹部廻盲腸部ハ壓痛アリ、下痢一日10回。	右側肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側全體ニ細葉性滲出性陰影アリ、第二第三肋間外側ニハ小葉性滲出性陰影アリ。	蛋白尿	5歳腸「カタール」 20歳肺尖「カタール」	腸結核 腎臟結核	死亡
	5 27/5	II	±	−	−/2000	V	75	352.	50	9600	0	0	75.4	15.9	8.7						
第六十二例、男、20	5 5/8	I	−	±	±/2000	IV	54	418.	57	9300	0.2	0	73.2	19.6	7.0	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音アリ。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音アリ。腹部廻盲腸部疼痛、下痢一日15回。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄細葉性滲出性陰影アリ、兩側肺底部ニハ肋膜浸出液少量アリ。	5 3/12「ヂアツオ」反應 ＋ 5 7/12「アツエトン」反應 ＋ 蛋白尿	10歳腹膜炎	肋膜炎 腹膜炎	死亡
	5 11/9	II	±	±	±/2000	V	72.1	380.	51	9500	0	0	78.1	13.4	8.5						
	5 2/11	III	±	−	−/2000	V	73.0	356.	46	10300	0	0	80.5	10.8	8.7						
	5 10/12	IV	+	−	±/1000	IV	80	341.	46	12000	0	0	81.1	10.2	8.7						
第六十三例、女、22	4 21/12	I	−	±	±/1000	V	58.6	360.	51	9600	0	0	78.5	13.2	8.3	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音アリ、第三肋間以下ハ抵抗水泡音アリ。左側ハ全體濁音水泡音アリ。背部右側上部ヨリ第二肩胛骨間、左側全體ニ濁音水泡音アリ。腹部廻盲腸部疼痛、下痢一日15回。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影、第二肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側全體ニ細葉性滲出性陰影アリ。	5 27/3「ヂアツオ」反應 ＋ 蛋白尿	9歳猩紅熱 17歳肺尖「カタール」	腸結核	死亡
	5 5/2	II	±	−	−/1000	V	78.4	342.	47	11200	0	0	79.4	11.0	9.6						
	5 3/4	III	+	−	−/1 0	V	80.7														
第六十四例、男、25	6 6/5	I	−	±	±/2000	IV	48	359.	63	9300	3.0	0.8	65.7	20.5	10.0	胸部、右側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音、軋音第四肋間以下抵抗呼吸音弱シ。左側、全體ニ亙リ濁音水泡音、第二肋間ハ鼓音、金屬性ニ響鳴セル水泡音アリ。背部。第三肩胛骨迄濁音水泡音、喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、全體ニ細葉性滲出性陰影第二ヨリ第四肋間ニハ小葉性滲出性陰影アリ。左側全葉ニ細葉性滲出性陰影、第一ヨリ第三肋間ニハ大葉性滲出性陰影アリ、第一肋間內側ニ一錢銅貨大ノ空洞アリ。	6 30/5「ヂアツオ」反應 ＋「アツトン」反應 ＋ 蛋白尿	23歳右側濕性肋膜炎	喉頭結核	死亡
	6 26/5	II	+	±	±/1000	IV	72.5	327.	50	12000	2.6	0	72.2	14.4	10.8						
	6 26/6	III	++	−	±/100	IV	76.3	306.	46	12500	0.4	1.2	72.8	13.6	11.0						
	6 2/7	IV	++	−	−/100	IV	81														

第六十五例、男、33	$6^{25}/_{5}$	I	−	±	±/1000	V	60.2	413.	56	8700	0	0	73.7	18.5	7.8	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音水泡音、第五肋間以下ハ抵抗アリテ水泡音、軋音ヲキク。右側、肺尖部ヨリ第一肋間迄濁音、夫レ以下ハ抵抗強ク、水泡音軋音アリ。背部ハ上部ヨリ第三肩胛間濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄、小葉性滲出性陰影、第四肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第一肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	$6^{21}/_{6}$「ヂアツオ」反應＋ $6^{25}/_{6}$「アトエツン」反應＋ 蛋白尿	30歳肺尖「カタル」 32歳喀血	ナシ	死亡
	$6\ ^{4}/_{6}$	II	±	−	±/1000	V	68.5	392.	52	9200	0	0	75.2	15.4	9.4						
	$6^{30}/_{6}$	III	＋	−	−/1000	V	67.8	380.	50	9700	0	0	75.6	14.6	9.8						
第六十六例、男、31	$6^{12}/_{1}$	I	−	±	±/2000	V	58	416.	62	9500	2.8	0.8	68.7	20.6	7.1	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄輕度ノ濁音、水泡音アリ。第四肋間以下ハ強キ抵抗アリ。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三以下抵抗強ク、水泡音アリ。背部、右側ハ上部ヨリ第一肩胛骨間、左側ハ第二肩胛骨間濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ニ小葉性滲出性陰影、第一肋間ヨリ第四肋間迄細葉小葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部竝ニ第一肋間外側部ニ小葉性滲出性陰影、第一肋間ヨリ第三肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	$6^{7}/_{7}$「ヂアツオ」反應＋ 蛋白尿	30歳肺尖「カタル」 31歳肺浸潤症	ナシ	死亡
	$6^{23}/_{2}$	II	±	−	±/1000	V	78.3	370.	53	9800	0.6	0.4	70.1	19.7	9.2						
	$6^{11}/_{6}$	III	＋＋	−	−/100	V	82	354.	51	11800	0	0	77.0	12.6	9.4						
	$6\ ^{7}/_{7}$	IV	＋＋＋	−	−/100	V	86	340.	45	12500	0	0	77.9	12.5	9.6						
第六十七例、女、42	$6^{20}/_{5}$	I	＋	−	−/1000	VI	73.2	342.	57	9600	0	1.6	71.9	18.3	8.2	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、夫レ以下ハヲ輕度ノ濁音ニテ、水泡音ヲキク。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄輕度濁音、水泡音軋音。背部上部ヨリ第三肩胛骨間濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性細葉性滲出性陰影。第四肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	$6^{1}/_{7}$「ヂアツオ」反應＋ $6^{3}/_{7}$「アツエトン」＋反應 蛋白尿	27歳左側濕性肋膜炎	脊柱リ「カエス」腰部リ「カエス」流注性膿瘍	死亡
	$6^{30}/_{6}$	II	＋	−	−/1000	VI	76.	325.	58	9800	0	0.3	76.4	14.3	9.(						
第六十八例、女、43	$6\ ^{3}/_{9}$	I	±	±	±/1000	IV	78	332.	53	9400	0.3	0	72.0	20.5	7.2	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、夫レ以下ハア抵抗強ク、水泡音、軋音アリ。左側、全體ニ濁音、水泡音アリ。背部、全體ニ輕度濁音水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影。第五肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ第二肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。第二肋間外側ニハ増殖性陰影アリ。	$6^{10}/_{10}$「ヂアツオ」反應＋ 「アトエツン」＋反應 蛋白尿	12歳腹膜炎	喉頭結核	死亡
	$6\ ^{7}/_{9}$	II	＋	−	−/1000	IV	81	328.	50	11200	0	0	74.5	17.2	8.3						
	$6^{31}/_{10}$	III	＋＋	−	−/1000	V	86	325.	43	11800	0	0	78.3	13.4	8.3						
第六十九例、女、32	$6\ ^{5}/_{9}$	I	−	±	±/1000	VII	63.4	413.	51	9800	0.3	0.1	71.2	20.4	8.0	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第三肋間以下抵抗強ク、呼吸音弱シ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、第二肋間外側ニハ打診ニテ鼓音アリテ、金屬性ニ響鳴セル水泡音アリ。背部上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ。腹部回盲腸部壓痛。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ第二肋間迄細葉性滲出性陰影、第二肋間外側ニ拇指頭大ノ空洞一ツアリ。	$6\ ^{9}/_{12}$「ヂアツオ」反應＋エ反＋尿 「アトエツン」＋反應 蛋白	17歳肺尖「カタル」	腸結核	死亡
	$6\ ^{2}/_{12}$	III	＋＋	−	±/100	VII	80.9	320.	46	12600	0	0	78.1	12.7	9.2						
	$7\ ^{5}/_{2}$	IV	＋＋＋	−	−/100	VII	86														

第七十例、女、28	6 7/10 6 27/10 6 20/11	I II III	± + ++	− − −	±/100 ±/100 −/100	V V V	82. 86. 88.	380. 361. 342.	51 47 45	11300 11000 11500	0 0 0	0.1 0 0	70.2 71.6 77.8	21.4 19.0 12.6	8.3 7.4 9.6	胸部、右側肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音軋音ノ濁音アリ。第五肋間以下輕度ノ濁音、水泡音アリ。左側、肺尖部ヨリ、第四肋間迄濁抗水泡音、第四肋間以下抵抗強ク、呼吸音弱シ。腹部、回盲腸部壓痛、下痢一日18回。	右側、全葉ニ細葉性滲出性陰影アリ第一、第二、第三肋間ニ亙リ大葉性滲出性影アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間ニ小葉性滲出性陰影アリ。	6 7/11 反應 「アットン」 應 蛋白	「ヂアツオ」 ＋ ＋エ反 ＋ 尿	15歲肺炎	腸結核	死亡
第七十一例、男、34	6 5/11 6 2/12 6 24/12 7 7/2	I II III IV	± + + ++	− − − −	±/1000 ±/1000 −/1000 ±/100	VIII VIII VIII VIII	60.4 63. 85.2 87.	421. 364. 341. 328.	53 50 47 45	9800 11200 12000 12100	0.1 0 0.2 0	0 0 0 0	71.8 73.2 73.0 77.1	20.0 18.4 18.1 13.8	8.1 8.4 8.7 9.1	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄輕度ノ濁音、水泡音アリ。左側、全體ニ亙ル濁音、水泡音、第一、第二肋間以下ハ鼓音ヲ呈シ、金屬性ニ響鳴セル水泡音アリ。背部、上部ヨリ右側ハ第三肩胛骨間迄、左側全體ニ濁音水泡音アリ。腹部回盲腸部ニ壓痛、下痢一日10回。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄細葉性滲出性陰影アリ、第三肋間以下肺底迄細葉小葉性滲出性陰影アリ。左側、全體ニ細葉性滲出性陰影アリ、第一、第二肋間ニハ鷄卵大ノ空洞竝ニ增殖性陰影アリ。	6 2/12 反應 6 27/12 ツエ ン、反應 蛋白	「ヂアツオ」 ＋ 「アトン」 ＋ 尿	20歲腸「チフス」	腸結核	死亡
第七十二例、男、30	6 4/10 6 17/11 6 2/12	I II III	± + ++	− − −	±/1000 −/1000 −/1000	VII VII VII	54 63 86.	413. 354. 341.	53 51 47	9500 11000 11200	0 0 0	0.1 0 0	74.7 75.7 77.6	17.0 15.2 13.1	7.2 9.1 9.3	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音、第四肋間以下ハ抵抗強ク、呼吸音弱シ。左側全體ニ亙リ音濁音、水泡音、所々ニ軋音ハ第二肩胛骨、左側ハ肺下部迄濁音、水泡音ヲキク。喉頭部疼痛、嚥下困難	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影。第四陰影以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、全體ニ細葉性滲出性陰影、第二肋間ニハ小葉性滲出性陰影アリ。	6 25/11 反應 「アットン」 應 蛋白	「ヂアツオ」 ＋ ＋エ反 ＋ 尿	12歲右側乾性肋膜炎	喉頭結核	死亡
第七十三例、男、42	6 23/11 6 27/12	I II	± +	− −	±/1000 −/1000	VII VI	75.1 76.0	392. 349.	55 50	9200 11200	0 0	0 0	75.4 78.4	16.6 13.3	8.0 8.3	胸部、右側、全體ニ輕度濁音、水泡音、第二肋間中央ニハ鼓音ヲ呈シ、金屬性ニ響鳴セル水泡音アリ。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄、濁音、水泡音アリ。背部、右側ハ全體ニ左側ハ第二肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ。喉頭部疼痛、嗄聲。	右側、全體ニ細葉性滲出性陰影、第二肋間中央部ニ拇指頭大ノ空洞アリ。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	6 17/12 反應 「アットン」 應 蛋白	「ヂアツオ」 ＋ ＋エ反 ＋ 尿	30歲肺尖「カタール」	喉頭結核	死亡
第七十四例、女、20	6 19/12 6 30/12	I II	± +	− −	−/100 −/100	VII VII	71.9 86.2	360. 341.	45 42	9400 9700	0 0	0 0	73.0 79.3	18.4 11.2	8.6 9.5	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、夫レ以下ハ抵抗強ク、呼吸音弱シ。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄輕度ノ濁音、水泡音アリ。背部、右側上部ヨリ第二肩胛骨間迄左側ハ第三肩胛骨間迄濁音水泡音アリ。	右側、全葉ニ細葉性滲出性陰影アリ、第一、第三外側部ニ小葉性滲出性陰影アリ。左側、第二、第三肋間ニ大葉性滲出性陰影、其他ノ部ハ細葉小葉性滲出性陰影アリ。	6 19/12 反應 6 28/12 ツエ ン、反應 蛋白	「ヂアツオ」 ＋ 「アトン」 ＋ 尿	ナシ	ナシ	死亡

第七十五例、女、23	$6^{25}/_{12}$	I	±	−	± 1000	VI	60.4	412.	51	9300	0	0.1	72.5	21.0	6.4	胸部、右側、肺尖部竝ニ第一肋間鼓音ヲ呈シ、第二肋間以下ハ濁音ヲ呈シ、水泡音ヲキク。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄輕度ノ濁音水泡音アリ。背部、右側ハ肺底迄、左側ハ第二肩胛骨迄濁音、水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第一肋間ニ亙リ鷄卵大ノ空洞アリ、第二肋間以下肺底迄ハ細葉性小葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影アリ。	$7^{15}/_{2}$「ヂアツオ」反應＋ $7^{21}/_{2}$「アトツエトン」反應＋ 蛋白尿	20歳右側濕性肋膜炎	喉頭結核	死亡
	$7^{13}/_{1}$	II	＋	−	− 1000	VI	75.0	375.	51	11000	0	0	73.2	18.3	8.5						
	$7^{24}/_{2}$	III	＋	−	− 1000	VII	83.1	352.	48	11800	0	0.4	78.0	12.3	9.1						
第七十六例、女、16	$7^{11}/_{2}$	I	＋	−	− 1000	V	66.5	352.	54	11300	0	0	75.3	17.1	7.6	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下肺底迄抵抗強ク、水泡音アリ。左側肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音アリ。背部上部ヨリ第二肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ。腹部壓痛アリ。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性小葉性滲出性陰影アリ。左側、全體ニ細葉性滲出性陰影アリ、第三、第四肋間ニ小葉性滲出性陰影アリ。	$7^{8}/_{3}$「ヂアツオ」反應＋ $7^{15}/_{3}$「アトツエトン」反應＋ 蛋白尿	10歳腹膜炎	腹膜炎	死亡
	$7^{15}/_{3}$	II	＋	−	− 1000	V	78.1	324.	46	11400	0	0	79.4	10.9	9.7						
第七十七例、男、24	$6^{17}/_{5}$	I	±	−	± 1000	VII	46.2	347.	49	9200	0.1	0.3	70.8	20.4	8.4	胸部、右側、肺尖部ハ鼓音ヲ呈シ、金屬性ニ響鳴セル水泡音、第一肋間以下ハ濁音、水泡音アリ。左側ハ肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音アリ。背部ハ第三肩胛骨迄水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ニハ拇指頭大ノ空洞アリ。第一肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影、第一肋間ニハ増殖性陰影アリ。左側、全葉ニ細葉性滲出性陰影、第二第三、肋間ニハ小葉性滲出性陰影アリ。	$7^{12}/_{1}$「ヂアツオ」反應＋ 蛋白尿	15歳肺尖「カタール」 17歳右側乾性肋膜炎	喉頭結核	死亡
	$7^{20}/_{1}$	II	＋＋	−	− 100	VII	87	338.	41	12000	0	0	78.5	11.7	9.8						
第七十八例、女、28	$6^{2}/_{11}$	I	−	±	± 2000	VI	31	412.	50	8600	0.2	0.1	70.5	21.7	7.5	胸部、右側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音、第四肋間以下ハ抵抗強ク、水泡音ヲ呈シ、金屬性ニ響鳴セル水泡音アリ。第一肋間ニハ鼓音、金屬性ニ響鳴セル水泡音アリ。右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音水泡音アリ。背部ハ第三肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ、腎臟尿中結核菌ヲ證明ス。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性小葉性滲出性陰影ニハ第一肋間外側部ニ拇指頭大ノ空洞アリ。左側、細葉性滲出性陰影アリ。	$6^{2}/_{12}$「ヂアツオ」反應＋ 蛋白尿	18歳右側乾性肋膜炎 20歳腎臟炎	腎臟結核	死亡
	$6^{7}/_{12}$	II	±	±	± 1000	VI	53.6	407.	50	11000	0	0	73.0	18.9	8.1						
	$6^{25}/_{12}$	III	＋	−	− 1000	VI	78.2	351.	43	11800	0	0	78.1	13.0	8.9						
第七十九例、男、32	$5^{30}/_{10}$	I	±	−	± 1000	VII	57.7	364.	53	9500	0	0	70.7	20.9	8.4	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下ヲ肋間迄濁音、第三肋間以下ハ抵抗強ク、共ニ水泡音ヲ聞ク。左側、肺尖部ヨリ、第四肋間迄濁音、水泡音アリ。背部上部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、軋音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、全體ニ細葉性滲出性陰影、第一第二、第三、肋間ニハ大葉性滲出性陰影アリ。	$6^{8}/_{11}$「ヂアツオ」反應＋ 蛋白尿	19歳肺尖「カタール」	ナシ	死亡
	$5^{20}/_{12}$	II	＋	−	− 1000	VII	73.1	342.	50	11200	0	0	72.5	18.3	9.2						

第八十例、男、18	$6^{14}/_{8}$	I	+	−	$\frac{-}{100}$	VIII	83.	315.	69	9100	0	0	75.2	16.7	8.1	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音強ク、水泡音ヲキク。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音ヲキク、第四肋間以下ハ輕度ノ濁音、呼吸音弱シ。背部、第三肩胛骨迄濁音、水泡音夫レ以下ハ呼吸音弱シ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄大葉性滲出性陰影、第三肋間以下ハ細葉性小葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ、第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	$6^{10}/_{8}$「ヂアツオ」反應＋ $6^{12}/_{8}$「アトエツン」反應＋ 蛋白尿	ナシ	喉頭結核	死亡
第八十一例、女、17	$6^{5}/_{7}$	I	−	±	$\frac{\pm}{1000}$	VI	41.9	412.	57	9500	0.3	0.1	72.4	20.2	7.0	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間ヨリ第五肋間迄輕度ノ濁音水泡音アリ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音アリ。背部、上部ヨリ第二肩胛骨迄濁音、水泡音アリ。夫レ以下、抵抗強ク、呼吸音弱シ。腹部回盲腸部壓痛下痢一日12回	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影、第二肋間以下第五肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	$7^{2}/_{4}$「ヂアツオ」反應＋ $7^{8}/_{4}$「アツエトン」反應＋ 蛋白尿	10歲右側乾性肋膜炎。腹膜炎	腸結核	死亡
	$7^{15}/_{3}$	II	±	−	$\frac{-}{100}$	VII	70.4	351.	45	11000	0	0	79.2	11.9	8.9						
	$7^{10}/_{1}$	III	+	−	$\frac{-}{100}$	VII	81.6	312.	42	11200	0	0	79.6	11.2	9.2						
第八十二例、男、17	$6^{22}/_{2}$	I	−	±	$\frac{\pm}{1000}$	V	43.5	371.	51	9600	0	0.1	70.9	22.3	6.7	胸部、右側肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音アリ。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間ヨリ第五肋間迄抵抗強ク、水泡音ヲキク。背部、上部ヨリ、第三肩胛骨迄濁音水泡音アリ。腹部壓痛烈シ。	右側、全體ニ細葉性滲出性陰影アリ、左側ハ肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影、第二肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	$6^{1}/_{5}$「ヂアツオ」反應＋ $6^{7}/_{5}$「アツエトン」反應＋ 蛋白尿	11歲腹膜炎	結核性腹膜炎	死亡
	$6^{20}/_{3}$	II	±	−	$\frac{\pm}{1000}$	V	60.8	362.	46	11000	0	0.4	72.1	19.7	7.8						
	$6^{6}/_{5}$	III	+	−	$\frac{-}{1000}$	VI	75.6	340.	42	10200	0	0	76.3	13.9	9.8						
第八十三例、女、32	$5^{7}/_{5}$	I	±	−	$\frac{\pm}{1000}$	V	78	421.	52	9500	0	0	73.9	18.6	7.5	胸部、右側、全體ニ濁音ヲ呈シ、水泡音ヲキク。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音水泡音アリ、第二肋間外側ニ鼓音ヲ呈シ、金屬性ニ聲鳴セル水泡音アリ。第三肋間以下抵抗強ク、呼吸音弱シ。腹部回盲腸部壓痛、下痢一日13回。	右側肺尖部ニ小葉性滲出性陰影、左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影アリ、第二肋間外側ニ拇指頭大ノ空洞アリ、第三肋間以下細葉性滲出性陰影アリ。	$5^{5}/_{5}$「ヂアツオ」反應＋	11歲左側濕性肋膜炎	腸結核	死亡
	$5^{5}/_{5}$	II	+	−	$\frac{-}{1000}$	V	85	345.	50	9900	0	0	75.1	16.5	8.4						
第八十四例、女、18	$5^{11}/_{5}$	I	−	±	$\frac{\pm}{2000}$	VI	54	321.	43	9200	0.1	0.3	72.0	20.1	7.5	胸部、右側、肺尖部ヨリ、第三肋間迄濁音、第三肋間以下強キ濁音ヲ呈シ、水泡音竝ニ最下部ハ呼吸音消失。左側、肺尖部ヨリ、第四肋間迄濁音水泡音アリ。	右側、肺尖部ニハ小指頭大ノ空洞アリ、第一肋間以下第五肋間迄小葉性滲出性陰影アリ。最下部肺底ニハ少量ノ浸出液陰影アリ。左側全體ニ細葉性滲出性陰影アリ。	蛋白尿	10歲肺炎	右側浸出性肋膜炎	死亡
	$5^{20}/_{7}$	II	±	−	$\frac{-}{2000}$	VI	67	316.	41	9800	0	0.4	75.6	15.9	8.1						

第八十五例、男、17	5 8/9	I	−	±	±2000	V	58	412.	50	9200	0.1	0.3	72.1	19.6	7.9	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音アリ。第三肋間以下ハ抵抗強ク、水泡音アリ。左側、肺尖部ヨリ第二肋間迄濁音、夫レ以下ハ抵抗、共ニ水泡音アリ。背部上部ヨリ第一肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ。夫レヨリ以下ハ抵抗強ク呼吸音弱シ。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影、第四肋間以下ハ小葉性細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄大葉性滲出性陰影、第三肋間以下細葉性小葉性滲出性陰影アリ。	蛋白尿	7歳右側乾性肋膜炎	ナシ	死亡
	5 30/11	II	±	−	±1000	V	62.8	400.	46	9300	0	0	75.1	15.5	9.4						
第八十六例、女、22	6 10/4	I	±	−	±1000	IV	60.3	348.	52	9100	0.2	0.3	70.7	20.1	8.7	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音、笛聲ヲキク。左側、全體濁音ハ水泡音アリ。背部、右側ハ下第二肩胛骨間迄、左側ハ下部迄濁音、水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ニ小指頭大ノ空洞並ニ增殖性陰影アリ、第一肋間ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、夫レ以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影、第二肋間ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	6 25/10「ヂアツオ」反應＋蛋白尿	10歳腹膜炎	喉頭結核	死亡
	6 3/11	II	+	−	−100	VI	76.	334.	48	9300	0	0.1	72.1	19.0	8.8						
第八十七例、男、21	5 1/11	I	−	±	±2000	V	49.	421.	57	9200	0.1	0.1	71.3	20.5	8.0	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音軋音アリ、左側、全體ニ輕度濁音、水泡音アリ。背部上部ヨリ右側ハ第三肩胛間、左側ハ全體ニ濁音ヲ呈シ、水泡音アリ。腹部回盲腸部壓痛、下痢一日15回。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影、夫レ以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄細葉性小葉性滲出性陰影アリ。第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	蛋白尿	20歳腹膜炎	腸結核	院二月退後ケ死亡
	5 10/12	II	±	−	−2000	V	60	387.	50	9700	0	0.1	73.5	18.1	8.3						
第八十八例、男、34	4 20/10	I	±	±	±1000	VII	60	346.	53	9200	0	0	77.2	14.5	8.3	胸部、右側、全體ニ濁音、水泡音軋音アリ。左側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音水泡音アリ、第三肋間以下ハ抵抗呼吸音弱シ。背部、右側全體ニ、左側、第三肋間ニ濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影、夫レ以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄細葉性小葉性滲出性陰影アリ。	5 2/5「ヂアツオ」反應＋エ反「アツトン」應＋尿蛋白	21歳乾性肋膜炎	ナシ	死亡
	5 10/5	II	+	−	−100	VII	80	324.	56	9500	0	0	73.1	11.4	9.5						
第八十九例、女、23	4 20/10	I	±	±	±2000	VII	62	341.	52	9500	0	0.2	73.1	20.3	6.4	胸部、右側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、笛聲。第三肋間以下ハ抵抗呼吸音弱シ。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音アリ。背部ハ上部ヨリ第三肩胛骨迄濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影。第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	5 10/5「ヂキツオ」反應＋蛋白尿	13歳肺尖「カタール」	ナシ	死亡
	5 10/5	II	+	−	−100	VII	78	332.	50	9800	0	0	78.6	12.5	7.9						

第九十例、男、23	$4^{20}/_{9}$	I	±	−	±/1000	V	48	387.	50	9600	0.1	0	74.1	17.7	8.1	胸部、右側、肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、呼吸音粗裂水泡音アリ。左側、全體ニ亙リ、濁音、水泡音アリ。背部上部ヨリ、右側ハ第三肩胛骨ニ至ル迄、左側ハ最下部迄濁音水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下肺底迄細葉性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影アリ第一第二、肋間ニハ小葉性滲出性陰影アリ。	$4^{5}/_{11}$「ヂアツオ」反應＋蛋白尿	18歳肺尖「カタール」	ナシ	死亡
	$4^{5}/_{11}$	II	+	−	−/1000	V	73.	351.	48	9700	0	0	76.5	15.2	8.3						
第九十一例男21	$5^{29}/_{9}$	I	−	±	±/1000	VII	50	415.	52	9600	0	0	71.8	20.3	7.9	胸部、右側、肺尖部ハ抵抗第二肋間以下ハ輕度濁音、水泡音アリ。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄、濁音水泡音アリ。背部上部ヨリ第三肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側全體ニ細葉性滲出性陰影、第三肋間ニハ細葉性陰影アリ。		ナシ	喉頭結核	故事退院後二ケ月死亡
	$5^{7}/_{11}$	II	±	−	−/1000	VII	71	391.	46	9800	0	0	73.8	17.5	8.7						
第九十二例、男、21	$6^{1}/_{11}$	I	±	−	±/1000	V	61.	381.	56	9300	0	0.1	73.4	18.7	7.8	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音呼吸音弱ク、水泡音アリ。第四肋間以下ハ輕度濁音、水泡音アリ。左側、肺尖部ヨリ第五肋間迄ノ濁音アリ、背部右側ハ第三肩胛骨左側ハ第二肩胛骨間迄濁音水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影、第四肋間以下細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ、第五肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。		20歳喀血	喉頭結核	院退後二ケ月死亡
	$6^{2}/_{12}$	II	±	−	±/1000	V	68.3	356.	52	9700	0	0	79.6	12.3	8.1						
第九十三例、女、34	$5^{7}/_{8}$	I	−	±	±/1000	VII	60	415.	54	9600	0.3	0.1	72.8	19.8	7.0	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下ハ輕度濁音、水泡音アリ。左側肺尖部ヨリ第五肋間迄濁音、水泡音アリ。背部右側全體、左側第三肩胛骨迄濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影、第四肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。		20歳肺尖「カタール」	右側幹性肋膜炎	院退後三ケ月死亡
	$5^{20}/_{10}$	II	±	−	±/100	VII	68	396.	51	10300	0	0	74.4	17.5	8.1						
第九十四例、男、52	$4^{28}/_{11}$	I	±	−	−/1000	V	68.1	417.	53	9700	0	0.2	72.1	19.7	8.0	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下ハ抵抗強ク、水泡音アリ。左側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音アリ。背部上部ヨリ、第二肩胛骨迄濁音水泡音、夫レ以下ハ抵抗、呼吸音粗裂シ、笛聲アリ。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影、第一肋間ニ增殖性陰影アリ、第四肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ第五肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。		40歳喀血	ナシ	院退後二ケ月死亡
第九十五例、男、24	$4^{7}/_{7}$	I	±	±	±/1000	IV	68	351.	56	9800	0	0	73.2	19.6	7.2	胸部、右側肺尖部竝ニ第一肋間ハ鼓音ニシテ、金屬性ニ響鳴セル水泡音アリ。第二肋間以下ハ輕度ノ濁音ニテ水泡音アリ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音アリ。背部、左右、第三肩胛間迄濁音、水泡音アリ。	右側、第一肋間ニハ肺尖部ニ亙リ鷄卵大ノ空洞アリ、第二肋間ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影アリ、第二肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。		20歳腹膜炎	ナシ	院退後一ケ月死亡

第九十六例、女、24	5 7/7	I	±	±	±/1000	V	72	411.	56	9800	0	0	73.2	18.6	8.2	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音、笛聲、第四肋間以下ハ抵抗强ク、呼吸音弱シ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第三肋間以下ハ抵抗强ク、呼吸音粗裂笛聲アリ。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄大葉性滲出性陰影、第三肋間下ハ細葉小葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影アリ。	5 20/5「ヂアツオ」反應 ＋ 蛋白尿	21歳右側乾性肋膜炎	ナシ	死亡
	5 20/8	II	±	−	−/1000	V	75	345.	51	11200	0	0	78.1	12.5	9.4						
第九十七例、男、58	4 22/8	I	−	±	±/1000	V	70.	385.	54	9700	0	0.1	72.5	20.1	7.3	胸部、右側、全體ニ濁音水泡音アリ、左側肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音水泡音、第三肋間以下ハ抵抗强呼吸音弱シ。背部右側上部ヨリ肺底迄、左側第二肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ。	右側、全體ニ細葉性小葉性滲出性陰影アリ、左側肺尖部ヨリ第三肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。	4 1/10「ヂアツオ」反應 ±	30歳腎臟炎	脚氣、腎臟結核	死亡
	4 1/11	II	±	−	−/1000	V	79.	351.	51	9800	0	0	74.1	17.2	8.7						
第九十八例、男、18	5 7/10	I	±	−	−/1000	VII	64	385.	52	9600	0	0	72.9	18.4	8.7	胸部、右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄輕度ノ濁音、水泡音、第三肋間以下ハ濁音水泡音、軋音アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音アリ。背部右側全體ニ輕度ノ濁音水泡音、左側第二肩胛骨迄濁音水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄細葉性滲出性陰影、第三肋間以下ハ小葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。		10歳氣管枝「カタール」	ナシ	退院後二ケ月死亡
第九十九例、男、30	5 20/4	I	−	±	±/1000	VI	60	362.	52	8900	0	0.2	72.5	20.1	7.2	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下抵抗水泡音。左側、肺尖部ヨリ、第四肋間迄濁音、水泡音、第四肋間以下ハ抵抗、呼吸音弱シ。背部右側第二肩胛骨、左側第三肩胛骨迄濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影、夫レ以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部竝ニ第一肋間ニハ增殖性滲出性陰影アリ、第二肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。		13歳骨膜炎	痔瘻	退院後二ケ月死亡
	5 19/5	II	±	−	±/1000	VII	73	350.	52	9500	0	0	75.1	17.3	7.6						
第百例、男、19	5 3/10	I	±	−	±/1000	V	64	417.	54	8800	0	0	72.1	21.3	6.6	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、第三肋間以下抵抗强ク、共ニ水泡音アリ。左側、肺尖部ヨリ、第四肋間迄濁音、水泡音アリ、第四肋間以下抵抗呼吸音弱シ。背部、上部ヨリ、第三肩胛骨間迄濁音、水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影第二肋間外側ニ增殖性陰影アリ、第四肋間以下ハ細葉性滲出性陰影。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄大葉性陰影、夫レ以下肺底迄小葉性滲出性陰影アリ。		10歳肺門部淋巴腺結核	右側乾性肋膜炎	退院後二ケ月死亡
	5 13/12	II	±	−	−/1000	V	67	382.	51	8900	0	0	75.2	16.5	8.3						
第百一例、女、31	4 20/10	I	±	±	±/2000	VI	70	413.	55	9200	0	0.3	72.5	19.8	7.4	胸部、右側肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、夫レ以下ハ抵抗强ク、水泡音竝ニ軋音アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音アリ。背部右側上部ヨリ第三肩胛骨迄、左側ハ第二肩胛骨迄濁音水泡音アリ。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄大葉性滲出性陰影、第二肋間ヨリ肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、夫レ以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	5 10/5「ヂアツオ」反應 ＋ 蛋白尿	18歳肺尖「カタール」	ナシ	死亡
	5 10/5	II	±	−	±/1000	VI	71	352.	53	9700	0	0	77.4	15.0	7.6						

第百二例、男、39	$5^{12}/_{11}$ $5^{10}/_{12}$	I II	− ±	± −	± 2000 ± 1000	VII VII	62.5 75	483. 351.	58 53	8900 9600	0 0	0 0	72.5 73.4	19.7 18.3	7.8 8.3	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音、第三肋間ニハ鼓音ヲ呈シ金屬性ニ響鳴セル水泡音アリ。第四肋間以下抵抗呼吸音弱シ。左側肺尖部ヨリ第五肋間迄輕度濁音、水泡音アリ	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間外側部ニ拇指頭大ニケノ空洞アリ。第三肋間以下肺底迄、細葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ、第四肋間迄細葉性滲出性陰影アリ。		30歳喀血	ナシ	退院二ケ月後死亡
第百三例、男、28	$7^{30}/_{1}$ $7^{15}/_{2}$ $7^{2}/_{4}$	I II III	± + +	− − −	± 1000 − 1000 − 100	VI VI VI	44 75 80	349. 348. 325.	56 50 42	9700 9800 11500	0.1 0 0	0.3 0 1.0	70.5 71.2 73.6	20.4 19.5 15.8	8.7 9.3 9.6	胸部、右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音、水泡音。第四肋間以下抵抗呼吸音弱シ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音。第三肋間以下呼吸音弱シ。背部上部ヨリ第三肩胛骨間濁音水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第四肋間迄小葉性滲出性陰影。第四肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	$7^{26}/_{3}$「ヂアツオ」反應 + $7^{1}/_{4}$「アツエトン」反應 + 蛋白尿	11歳　腸「チフス」 25歳喀血	喉頭結核	死亡
第百四例、男、30	$7^{6}/_{4}$ $7^{20}/_{4}$	I II	± ±	− −	± 1000 ± 1000	VII VII	73. 75.	345. 341.	53 48	9500 9900	0 0	0 0	75.3 76.4	17.4 15.9	7.3 7.7	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音水泡音、第三肋間以下ハ抵抗呼吸音粗裂ス。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音水泡音アリ。背部右側ハ上部ヨリ第二肩胛骨間、左側ハ第三肩胛骨間濁音、水泡音アリ。喉頭部疼痛、嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ第二肋間迄大葉性滲出性陰性、第二肋間以下肺底迄小葉性滲出性陰影アリ。左側肺尖部ヨリ、第三肋間迄小葉性滲出性陰影、第三肋間以下ハ細葉性滲出性陰影アリ。	$7^{15}/_{4}$「ヂアツオ」反應 + $7^{20}/_{4}$「アツエトン」反應 + 蛋白尿	ナシ	喉頭結核	死亡
第百五例、女、20	$7^{15}/_{4}$	I	+	−	− 1000	VIII	75.	346.	51	9400	0	0	79.1	12.4	8.5	胸部、右側、肺尖部ヨリ第三肋間迄濁音、水泡音、第三肋間以下ハ抵抗呼吸音弱シ。左側、肺尖部ヨリ第四肋間迄濁音水泡音、夫レ以下ハ抵抗、呼吸音粗裂ナリ。背部右側ハ第二肩胛骨、左側ハ第三肩胛骨間迄、濁音水泡音ヲキク。喉頭部疼痛嚥下困難。	右側、肺尖部ヨリ肺底迄、細葉性滲出性陰影、第一、第二肋間外側ニ大葉性滲出性陰影アリ。左側、肺尖部ヨリ第三肋間ニ小葉性滲出性陰影、第三肋間以下肺底迄細葉性滲出性陰影アリ。	$7^{18}/_{4}$「ヂアツオ」反應 + $7^{20}/_{4}$「アツエトン」反應 + 蛋白尿	ナシ	喉頭結核 腎臓結核	死亡

マントー氏反應ノ下部ニ記入セル數字ハ其反應ニ使用セシ「ツベルクリン」液ノ稀釋倍數ヲ意味ス。　喀痰中ノ結核菌數ハ「ガフキー」表ニヨリ記入ス。

諸種ノ反應ニテハ檢出シ得ザル程度ナリ。西川ハ今村教授指導ノモトニ小兒殊ニ乳兒ノ全血液ヲモツテ結核菌ヲ培養シタルニ總テガ健康大人ノ全血液ニ於ケルヨリモ旺盛ナル菌増殖ヲ示シタリ。Sonak ハ數名ノ兒童ニツキ實驗シピルケー反應陰性ノ場合ニハ菌増殖陽性ヲ報告セリ。然レドモ之レモ各個性ニヨリ多少其差ヲ生ズルモノヽ如シ。

大人ノ健康體ニ於テハ緒方、澁川ハ今村教授指導ノモトー本大學學生及ビ附屬醫院看護婦總計350名ノ全血液中結核菌ノ培養ヲ試ミタルニ前記西川ノ實驗成績ニ近キ菌増殖ヲ示セリ。今村教授、澁川ハ多數ノ結核患者ノ全血液中結核菌ノ増殖トピルケー反應竝ニレントゲン像トノ關係ヲ研究セシニ肺組織ノ僅カニ侵サレタルモノヨリモ、

廣ク侵サレタル者ニ於テ菌増殖ハ漸次其數ヲ減ジ、確實ニ結核ト診斷シ得ル者ノ總テハ完全ニ菌ノ増殖阻止サルヽヲ認メタリ。先ニ佐藤理太郎ハ今村教授指導ニヨリ、健康海獏竝ニ結核海獏ノ全血液中結核菌ノ培養ヲ施行セシニ、其成績ハ前記人體ニ於ケルト同樣ナリ。

以上記述セル所ニヨリ人體ニ於テ感染免疫ナキモノ、卽チ未感染者ニハ全血液中結核菌ノ増殖ヲ見ルモ、感染シタルモノニハ感染免疫ガ發生シ、此場合ニハ全血液中ニテ結核菌ハ増殖シガタシ。

他面、總テノ疾患特ニ肺結核患者ノ豫後判定ニ就テ從來特殊ナル方法ヲ見出サズ、夫レガ爲吾人ハ重症患者ノ豫後如何ヲ豫知シ得ズ。肺結核患者ノ豫後ノ判定ハ非常ニ困難ナルモノニシテ Herschell 曰ク「豫後判定ハ實驗ノ結果豫想セル事ガ一般實際ト適合シ、而シテ如斯キ例ノ多數存在セル時ニハ其實驗ハ確實ナルモノトシテ使用シ得」又 Vioea 曰ク「豫後判定ハ過去ノ實驗ニヨリ得タル、經驗ヲモツテ將來ノ病症ニ適用スルモノナリ」。兩氏ノ唱導ヲモツテスレバ從來豫後判定ニ使用セル、多數ノ方法アルモ一長一短アリテ一定セル方法ヲ採用シ得ズ。Cornet[27] Bandelier u. Roepke[28] A. Fraenkel[29] B. A. v. Korányi[30] ト共ニ次ノ如キ事ヲ主張セリ。「豫後ノ主要素ハ患者體力ノ狀態及ビ體重ノ増減ニヨリ肺結核ノ一般症狀ヲ觀察スル補助トナル」。Arthaud[31] ハ「肺結核ハ (1) 肺組織ノ分解破壞。(2) 肺機能ノ消失ニヨリ病勢惡化スル」ト云フ。

B. Fr. v. Korányi[30] ハ患者ノ一般狀態ガ比較的良好ナル時ニハ肺空洞ハ該疾患ノ豫後ヲト知スル助ニナラズト稱シ. Fr. Müller u. Niermeyer ハ肺結核患者ニテモ急性ナルモノ程早ク體力ガ衰ヘ、虛弱トナリテ死亡スルト稱セリ。Eichhort[32] ハ肺結核患者ノ病變ノ進行ガ増惡トナル場合ニハ. 他ノ臟器ニ合併症ヲ發生スルハ大多數ニシテ. 此場合多クハ生活ニ必要ナル臟器ニ起ル故豫後ハ非常ニ險惡ナリト稱シ. Bandelier u. Roepke モ同樣ナル意味ヲ述ベ、尙最モ頻繁ニ起ルハ喉頭結核. 腸結核ニシテ次ニ腹膜炎骨結核ナリト稱セリ。余ノ實驗ニ於テモ 105 名中喉頭結核ハ 28 名、腸結核ハ 11 名、喉頭結核. 腸結核ノ合併ハ 7 名、腹膜炎ハ 3 名其他諸種ノ合併症アリタリ。

余ハ次ニ全血液中結核菌ノ増殖ト各種豫後判定ニ使用サルヽ症狀或ハ調査成績トヲ比較シテ述ブベシ。

(1)「ツベルクリン」反應ト菌増殖トノ關係。

コッホ氏現象ヨリシテ Koch ハ「ツベルクリン」創成ニ移リ、之ヲ以テスル反應ヲ診斷ニ使用スル事ハ周知ノ事ナリ。Auerbach, Leichtenstern, Rosenbach[33] 等ハ新鮮ナル病竈ヲ有スル時「ツベルクリン」反應ハ强陽性ナリト稱ス。Turban, Moller, Roth-Schulz, Löwenstein モ同樣ナル成績ヲ發表セリ。此點ハ活動性結核病竈ヲ有セズトモ普通健康成人ノ殆ンドガ陽性皮膚反應ヲ示ス事實ト符合セズ。Römer[34] ノ如キハ Allergie ノ程度ハ結核免疫成立ノ程度ト比例スルト稱セリ。Hoffa ハ「ツベルクリン」皮膚反應弱陽性ノモノハ豫後不良ナルモ、强陽性反應ノモノ必ズシモ豫後良好ナリト云ヒ難シトセリ。Alvarey, C., und Barralt[35] ハ療養所ノ結核患者ニ就キテ試驗シ「ツベルクリン」皮膚反應弱陽性患者ト强陽性患者トノ間ニ結核ノ豫後ニ關シテハ優劣ノ差異ヲ發見スル事能ハザリキト稱セリ。

「ツベルクリン」ノ結核ニ對スル特異性ニ就キテハ多少ノ議論アルモ、殆ンド疑フ餘地ナシ、而シテ「ツベルクリン」反應ハ結核感染有無ヲ證明スルモノナルモ結核ノ現在發病セルヤ否ヤヲ證明スルモノナラズ。一度結核ニ感染セルモノハ「ツベルクリン」反應陽性トナリ治癒セル時ニハ該反應ハ依然トシテ殘リ陽性ヲ示スカ時ニハ漸次ニ消失ス、後者ヲ「ポヂテーブ」、アヲルギー」ト稱ス。之レニ二ツアリ. 一ツハ特發的ニ陽性「アヲルギー」トナルモノニシテ他ハ「ツベルクリン」注射ニヨリテ陽性「アヲルギー」トナルモノ

ナリ。1930年貴島、澁川[64]ハ今村教授ノ指導ノモトニ此ノ陽性「ツベルクリン」無反應海獏ノ全血液中ニ於ケル結核菌ノ增殖阻止作用ヲ研究シ、「ツベルクリン」皮內反應ト增殖阻止作用トハ必ズシモ平行セズシテ、陽性無反應ノ場合ニハ「ツベルクリン」皮內反應陰性ナリトモ增殖阻止作用ハ尙保持スル事ヲ證明セリ。之ノ作用ヨリ考ヘレバ陽性「ツベルクリン」無反應動物ガ結核菌ニ對スル免疫力ヲ保存スルモノト云ヒ得ル事ヲ實驗的ニ證明セリ。反對ニ疾患ガ重症トナリ、次第ニ惡化セバ其ノ末期ニハ「ツベルクリン」反應ハ陰性トナル、之レヲHayek[36]ハ「チガテーブェ、アチルギー」ト稱セリ。

然シ痲疹、百日咳、「チフス」等ノ傳染病ニ罹リ、一時的反應ノ陰性トナレル事アリ、之レヲ今村教授ハ一過性「チガテーブェ、アチルギー」ト稱シ、眞性ノ陰性「アチルギー」ト區別セリ。

Ziegler[37]ハ「ツベルクリン」反應ガ重症患者ニ於テ弱クナレバ豫後ノ不良ヲ意味セリ。

從來諸學者ハ「ツベルクリン」反應ノ模樣ニヨリ病竈ノ性質及ビ狀態ヲト知シ得ルヤ否ヤヲ研究セルモ、不幸ニシテ不成功ニ終レリ。然レドモ重症患者ノ末期ニ近ヅケバ「ツベルクリン」反應ノ陰性トナルハ疑フ餘地ナシ。余ハ次ニ「ツベルクリン」反應ヲ其方法ニヨリ二分シ、夫レト菌增殖トノ關係ニツキ述ブベシ。

(A) ピルケー反應ト全血液中結核菌增殖トノ關係。

健康人ハピルケー反應陰性ニシテ、其際菌增殖ハ旺盛ナリ、然レドモピルケー反應ノ陽性トナルニ從ヒ菌增殖ハ低下シ、次ニ結核ニ罹患セバ菌增殖ハ全ク陰性トナル。尙進ミテ肺結核ノ次第ニ惡化スルニ從ヒピルケー反應ハ消失シ、其際菌增殖ハ又次第ニ增加ス。總人員105名ニ於ケル全血液中結核菌培養ノ總回數ハ多數ニシテ、是等ノ比較ハ從テ困難ナリ。余ハ次表ニ示ス如ク、重症末期ニ於ケルピルケー反應ト菌增殖ノ關係ヲ表記セリ。

重症患者ニシテ病勢惡化シ重症末期トナルニ及

第　五　表

重症末期ニ於ケルピルケー反應ト菌增殖ノ關係

ピルケー反應＼菌增殖	±	+	++	+++	++++
−	9	54	23	5	4

ベバ菌增殖ハ旺盛ニシテピルケー反應ハ陰性ナリ。本實驗例中死亡前ニ採血シ得タル95名ニツキ觀察セルニ菌增殖(+)ナル者最モ多數ニシテ54名。(++)ナル者23名。(+++)ナル者5名。(++++)ハ4名。(±)ハ9名ナリ。此ノ9名ハ經過中急死セル者ナリ。

(B)「ツベルクリン」皮內反應ガ Wolf-Eisner ノ眼反應、Moro 軟膏反應、Pirquet 皮膚反應ニ比シ著シク銳敏ナル事ハ學會ノ認ムル所ナリ、余ハ本實驗ニテ先ヅ最初2000倍ノ「ツベルクリン」稀釋液ヲ用ヒ、其反應度ニヨリ順次濃厚ナルモノヲ使用シタルニヨリ、之レト菌增殖トノ關係ヲ數字的ニ示ス事ヲ得ザレドモ、「ツベルクリン」2000倍ノ皮內反應ノ消失セル時ニハ多少トモ菌增殖ヲ示セル場合多ク、又既ニ(±)ノ菌增殖ヲ示セル場合アリ。而シテ1000倍ノ皮內反應ノ陰性ナル時ニハ大體菌增殖ハ或程度ノ增殖ヲ示シ、尙進ミテ重症末期ニ近ヅケバ菌增殖ハ大多數旺盛ナル增殖ヲ示ス。

(2) 血液檢査ト菌增殖トノ關係。

肺結核患者ノ輕症ニシテ進行緩慢ナルモノ若シクバ榮養障碍少ナキモノニ在リテハ血液ノ血色素量及ビ有形成分モ常人ト異ナル事少キモ、重症患者ニアリテハ著シキ變化アルテ常トシ殊ニ初メヨリ、此ノ變化アルモノハ惡性ノ進行型ナル事多シト稱セラレ、此ノ變化ハ體液測定ニモ利用セラルヽ所ナリ。

(A) 赤血球數竝ニ血色素量ト菌增殖トノ關係。

肺結核患者ノ赤血球ニ關スル所見ニ就テ Bandelier-Roepke[38]ハ重症患者以外ニ於テハ變化ヲ見ズト稱シ、Cornet, Reinert, Duperie, Swan, Naegeli[39]等モ大體前者ト同意見ニ達セルモ、其ノ間ニ多少ノ相違アリ。Naegeli ニ依レ

バ第三期結核患者ニアリテハ赤血球數ハ男子ニアリテハ400萬—450萬ノ間ニアリ。女子ニアリテハ350萬—480萬ヲ示シ、其ノ平均數ハ男子ニアリテハ413萬、女子ニアリテハ380萬ナリ。余ノ實驗シタル例ニ於テモ大體一致セリ。血色素含有量ハ多クハ赤血球數ト平行狀態ヲ保ツト雖モ稀レニハ赤血球數ニ比シ著シク減少スルモ亦反對ニ增加セル場合アリ。Grawitz[40] Naegeli[39] Strawsz 等ハ重症ナル場合ニハ食慾不振ノ爲榮養不良トナリ、又其他諸種ノ原因ニヨリ總テ著明ナル血色素量ノ減少ヲ來スト稱セリ。Appellbaum[41]モ同意見ヲ示シ、Noorden ハ一般ニ大ナル出血其他ノ合併症ナキ限リ、血色素量ノ減少約20%トナセリ。Appellbaum ハ血色素含有量ト赤血球數トノ關係ヲ各期ニ分チテ研究シ、第三期肺結核患者ニアリテハ赤血球數ハ200萬、血色素量ハ40%ニ低下スルト稱セリ、氏ハ之レヲ Kündig ノ心臟機能ノ衰弱ニ因ル呼吸困難ニ基ヅケルモノナリト說明セリ、血色素ノ減少ハ赤血球數ノ減少ト相伴フモノナルモ時ニハ赤血球數ニ比シ、獨リ色素量ノミ減少スルガ如キ場合アリ。余ノ實驗シタル成績ニヨリテモ大體赤血球數ト血色素量トハ平行シテ減少スルモ內五例ハ赤血球數ノ變動ナクシテ血色素量ノ僅少ナル減少ヲ示セリ。而シテ是等ノ重症ニ傾クニ從ヒ漸次ニ赤血球數竝ニ血色素量ノ減少アリ、之レト菌增殖狀態トノ關係ヲ見ルニ大體ニ於テ此ノ間ニ平行的關係ヲ有セルモ、前記5例ノ如ク菌增殖ヲ示セルモノアリ、之ニヨリテ見レバ赤血球數竝ニ血色素量ノ減少度合ト菌增殖トハ必ズシモ相比例セズ。尙貧血ト全血液培養トノ關係ヲ研究セル文獻トシテ緒方氏ノ論文アリ、氏ハ今村敎授指導ノモトニ瀉血竝ニ各種藥品注入ニヨル貧血動物ノ全血液中ニ結核菌ヲ培養シタルニ瀉血ニヨル單ナル失血性貧血ニテハ結核菌ノ增殖ニ變動ナク、唯血液毒ニヨル貧血ノ或物ハ結核菌ノ增殖ヲ促進シ、又或物ハ抑制的ニ菌增殖ニ影響ヲ與フルモノニシテ、結核菌ノ全血液內菌增殖ハ貧血ヲ起スベキ方法ニヨリテ異リタル影響ヲ受クルト稱セリ。

(B)白血球數ト菌增殖トノ關係。

白血球數ハ健康ナル者ニ於テモ種々ナル影響ニヨリ增減ヲ來スモノニシテ、運動、食事、精神的作用、氣壓、氣溫等モ影響スルモノナリ、故ニ余ハ出來得ル限リ、是等ノ影響ヲ避ケンガ爲常ニ、患者ニ充分ナル注意ヲ與ヘ、各種ノ狀態ノ變化竝ニ刺戟ヲ避ケ、採血、檢查セリ。結核患者ノ白血球數ノ變化ニ關シテ、Grawitz, Strauer, Strauss, Rohnstein, Swan 等ニ依レバ第一期、第二期ニ於テハ著變ナク、第三期ニ於テハ9500—12000ヲ示スト云ヒ、Appellbaum ハ第三期ニハ多少ノ增加ヲ見ルモ、死期前ニハ1萬千—2萬ニ及ブト稱セラル、其他 Limback u. Neubert ハ同樣ナル意見ヲ述ベタリ、又 Blumenfeld & Torday ハ各期ヲ通覽シテ肺結核患者ノ白血球數ニハ變化ナシト述ベタリ。余ノ實驗成績ハ重症末期患者ノ白血球數ハ著シク增加ヲ示シ、2萬ニモ及ブモノアルモ平均1萬400ナリ。次ニ各項ニ分チテ述ベン。

(A)中性嗜好多核白血球。健康人ノ中性嗜好多核白血球數ハ平均65.%ナリ。肺結核患者血液中ノ中性嗜好多核白血球ノ變化ニ對スル諸家ノ意見ヲ見ルニ、Nägeli ハ第二期ニハ多少ノ增加ヲ示セルモ、第三期ニハ殆ンド全ク規則的ニ增加セルモノト、斷定シ得ルト稱セリ。

Arneth ハ病症ノ進行ト共ニ漸次增加スルモノニシテ、中性嗜好多核白血球ノ增加ニヨリテ、其病症ノ輕重ヲト知シ得ルモノトナシ。Schwermann, Appellbaum モ同樣ナル意見ヲ發表セリ。余ノ實驗ニ於テモ重症末期患者ノ中性嗜好多核白血球數ハ健康人ノ夫レニ比シ、增加ヲ示シ87%ニ及ブモノアルモ平均76.5%ナリ。以上ノ如ク重症末期ニ著シキ增加ヲ來ス事ハ殆ンド諸家ノ意見ノ一致セルモノヽ如シ。

(B)淋巴球。健康人ノ淋巴球ハ各研究家ニヨリ多少變動アルモ平均20—33%ノ間ナリ。Rubino, Arneth, Schwermann, Bergels, Naegeli

等ハ結核ノ初期ニハ淋巴球ノ多少ノ增加ヲ見ル事稀ナラズ。然シ、末期ニ至リテハ淋巴球ハ著明ナル減少ヲ來スト稱セリ。余ノ實驗成績ニ於テモ重症患者ノ末期ニハ減少ヲ來シ、平均11.2%トナル。此ノ現象ハ中性嗜好多核白血球ト反對ノ比例ヲ示ス觀アリ。

(C)大單核細胞。健康人ニアリテハ大單核細胞及ビ移行型ハ1%—10%ナリ。Krause ハ重症結核患者ニアリテハ比較的增加ヲ來シ、混合傳染ニ於テハ、其ノ化膿菌ニヨリテ增加ヲ著シカラシムルモノト述ベ、Arneth ハ抗體ノ主ナル保有者タル中性嗜好多核白血球ガ破壞サレ、其含有セル抗體ヲ出シ、結核菌毒素ニ對抗センガ爲ニ其、幼弱型タル移行型及ビ大單核細胞ガ代償的ニ著シキ增加ヲ來スモノト稱セリ。余ノ實驗ニ於テモ同樣ニ增加ヲ示シ、平均10.5%ナルモ其內20%ニ及ブモノアリ。卽チ重症末期ニ至リテハ其%ノ增加ヲ見ルハ諸家ノ說一致スルモ、此ノ增加ノミニテハ肺結核患者ニ於テ其豫後ヲ注目シ得ル指標トナシ得ズ。

Murphy[67][68][69] Ellis[66] Cunninghan[70] 等ハ動物實驗ヲ基礎トシテ淋巴球ト大單核細胞ノ比ヲ取リ、之レヲ以テ、結核ノ豫後ヲト知シ得ルト稱セリ。Wiseman[71] Sabin[72] Doan[73][74]モ同樣ニ二者ノ比ヲトリ大單核細胞ガ增加シ、之レニ反シ淋巴球ノ減少ハ豫後ノ不良ヲ意味スルモノナリト稱セリ。

(D)「エオジン」嗜好細胞。健康人ノ「エオジン」嗜好細胞ハ2—4%ナリ。Krause ハ初期ニハ「エオジン」嗜好細胞ハ增加スルモ末期ニハ、中性嗜好多核白血球ト反對ニ次第ニ減少シ、終ニ血液中ニ出現セザルニ至ル、Naegeli, Wolff-Eisner, u. Kuthy[12] Blumenfeld モ同樣ナル事ヲ述ベ、余ノ實驗ニ於テモ末期患者ニハ著明ニ消失セルヲ見ル。

(E)鹽基性嗜好細胞。肺結核患者ノ鹽基性嗜好細胞ニ就テハ明ナル說ナキモ一般ニ減少ノ傾向ヲ取ル事ハ一般ノ風潮ナルモ、其ノ程度ヲ確定スル事ハ至難ナリ。

以上ノ文獻ヲ案ズルニ結核患者ノ末期ニハ急速ナル白血球數ノ增加ト共ニ中性嗜好多核白血球、大單核細胞ノ著シキ增加ヲ來シ、之ニ反シ、淋巴球「エオジン」嗜好細胞、鹽基性嗜好細胞ノ減少ヲ示ス。就中、中性嗜好細胞ノ增加ハ結核患者ノ末期ニハ必然ニシテ菌增殖モ之レニ伴ヒ增加ヲ示セリ。次ニ白血球數ト菌增殖トノ關係ヲ表記スレバ第六表ノ如シ。

第六表　重症肺結核患者ノ末期ニ於ケル全血液中結核菌ノ增殖ト白血球數トノ關係

菌增殖＼白血球數	9000—9500	9600—10000	10100—12000	12100以上	菌增殖總計
±	1(1.2)	6(7.1)	1(1.2)		8(9.4)
+	6(7.1)	15(17.6)	27(31.8)		48(56.5)
++		1(1.2)	6(7.1)	14(16.5)	21(24.7)
+++				4(4.7)	4(4.7)
++++				4(4.7)	4(4.7)
白血球總計	7(8.2)	22(25.9)	34(40)	22(25.9)	85(100.0)

括弧內ハ百分率

第六表ハ總數85名ノ重症肺結核患者末期ニ於ケル菌增殖ト白血球トノ關係ヲ示セルモノニシテ、白血球ノ1萬以上ヲ有セルモノハ總數過半分ヲ占メ、1萬以下ノモノハ29名ナリ。是等ヲ菌增殖ト比較スルニ菌增殖(±)ナルモノ總數8名ニシテ其內1萬以上ヲ有スル者ハ1名、1萬以下ナル者ハ7名ナリ。次ニ菌增殖(+)ナル者總數48名ニシテ其內白血球數ノ1萬以上ノ者27名ニシテ、1萬以下ノ者21名ナリ。菌增殖(++)ナル者總數ハ21名ニシテ其內1萬以上ノ者ガ大多數ヲ占メ、且1萬以上ナル者ハ14名、1萬2千以下1萬迄ノ者ハ6名ナリ。尙菌增殖(+++)竝ニ(++++)ナル者各々總數4名ニシテ、總テ白血球數1萬2千百以上ナリ。

以上ヲ以テ見ルニ菌增殖ノ旺盛ナルニ從ヒ、白血球數モ順次ニ增加ス、之レニヨリ菌增殖ト白血球數トノ間ニハ大體ニ於テ相比例スルモノナリト考フヲ得ベシ。

(3)赤血球沈降速度ト菌增殖トノ關係。

赤血球沈降速度ニ遲速アリテ、之レニヨリ身體中ニ異常現象ノ釀サレツヽアルヤ否ヤヲ云爲シタルハ Hewson[43] Hunter[41] ヲモツテ最初トス。其後 Fahraeus[45] ノ妊娠人體ニ應用シ、又 Plaut[46] ノ報告ニ依リテ該現象ハ再ビ世ニ喧傳サルヽ所トナレリ。爾後諸學者ノ追試多數アリ、殊ニ肺結核ト赤血球沈降速度トノ關係ニ就テノ研究甚ダ多シト雖モ、其ノ本態ニ就キテハ未ダ不明ニシテ、Alder, Abderhalden, Büscher, Faharaeus, Frisch, Gram, Raue, Sachs, Stahlinger, Hoeber, Lohr, Linzenmeier, Vorschutz 等多數ノ研究アリ、或ハ血漿「フイブリノーゲン」全量說、赤血球陰性荷電量減少說、血球凝集說、其他血液性狀變化ニ因スル等、種々ニ論ゼラレル。此ノ沈降速度ガ肺結核ノ臨牀上特異性ノモノニ非ザルモ、肺結核ノ重症特ニ末期ニ於テ急速ナル沈降ヲ示ス事ハ諸家ノ一致スル意見ニシテ、之レヲ活動性結核ノ診斷ニ利用シ得ルヤ否ヤハ問題ナリ、然シ、總テ重症ナル時ニハ沈降速度ガ如何ナル程度迄下ルカ、卽チ、如何程沈降セバ重症トナシ得ルヤノ限界ヲ決定スル事ハ非常ニ困難ニシテ、赤血球沈降速度ノ狀態ノミニテ決定シ得ザレドモ、其ノ速度ガ健康人ニ比シ、大ニ速キ時ニハ重症ト見ルモ大過ナシト考フ。余ハ次表ニ示ス如ク赤血球沈降速度ヲ測定スルニ Westergren,[77][47] Katz[48] ニ從ヒ Mittelwert デモトメタリ。

第七表　重症肺結核患者末期ニ於ケル全血液中結核菌ノ增殖ト赤血球沈降速度トノ關係

菌增殖＼沈降速度	60—65	66—70	71—75	76—80	81—85	86—90	菌增殖
±	1(1.1)	1(1.1)	5(5.5)	1(1.1)			8(8.8)
+		2(2.2)	6(6.6)	27(29.7)	12(13.2)	5(5.5)	52(57.1)
++				2(2.2)	14(15.4)	6(6.6)	22(24.2)
+++					1(1.1)	4(4.4)	5(5.5)
++++						4(4.4)	4(4.4)
沈降速度總計	1(1.1)	3(3.3)	11(12.1)	30(33.0)	27(29.7)	19(20.8)	91(100.)

括弧內ハ百分率

此第七表ハ總數人員91名ノ重症末期ニ檢査セシ、赤血球沈降速度ト全血液中菌增殖トノ關係ヲ表ハセルモノナリ。重症患者末期ニ於ケル赤血球沈降速度ハ76—80ノ者最モ多數ニシテ30名ヲ數フ。81—85ノ者27名。86—90ノ者ハ19名。以下赤血球沈降速度ノ下ルニ從ヒ表記ノ如ク、其ノ人員ヲ低下セリ。

次ニ菌增殖(+)ナル者52名中赤血球沈降速度76—80ナル者最モ多數ニシテ27名、次ニ81—85ハ12名、71—75ハ6名ナリ、86—90ハ5名、66—70ハ2名ナリ。菌增殖(+++)ナル者22名中赤血球沈降速度81—85ナル者最モ多數ニシテ14名、86—90ハ6名ナリ。菌增殖(++++)ナル者5名中4名竝ニ菌增殖(+++)ナル者ノ全數ノ赤血球沈降速度ハ86—90ノ價ナリ。

以上ヲモツテ觀ルニ、全血液中菌增殖ノ旺盛トナルニ從ヒ、赤血球沈降速度モ亦高クナルヲ證明セルモノニシテ、全血液中菌增殖ノ陽性度ト赤血球沈降速度トノ間ニハ何等カノ相關聯スル所アルモノト考フ。

(4)尿反應ト菌增殖トノ關係。

結核患者ノミナラズ如何ナル患者ニ於テモ、尿檢査ヲ以テ診斷、豫後ノ判定ノ助トナス事ハ何人モ熟知セル所ナリ。病勢ノ惡化シ、次第ニ重症末期ニ近ヅクニ從ヒ、尿反應トシテ「アツエトン」ヲ證明シ「ヂアツオ」反應ヲ陽性トナラシムルハ吾人ノ幾多經驗セル所ナリ。此「ヂアツオ」反應ハ M. Weisz[42] ガ本反應ニ就キ研究シ、1907年本反應ヲ呈スルモノハ尿色素「ウロクローム」ノ一段低キ「ウロクロモーゲン」ナリトセ

リ。此物質ハ毒素作用ニ基ク細胞蛋白質ノ破壞産物ノ誘導體ナリ、卽チ、生體細胞ガ菌毒素ニヨリテ侵害サル、結果酸化不全ヲ生ジ、正常ナレバ「ウロクローム」ノ成生セラルベキ所ニ「ウロクロモーゲン」ガ出現スルト稱ス。肺結核患者ニシテ持續的ニ「ヂアツオ」反應ノ出現ハ豫後ノ不良ナル事ヲ Schröder, Paul, Videbeck, Szaboky[19] 等ニヨリ注目セラレタルモ急性ニ重篤ナル肺結核ノ場合ニハ「ヂアツオ」反應ノ陰性ナル例モアリ。尙又「ヂアツオ」反應ノ陽性ニ轉向スルト相前後シテ「アツエトン」ガ尿中ニ證明セラル、該反應モ重症末期ヲ證明スルニ必要ナルモノナリ、而シテ兩反應ト結核菌增殖阻止作用トノ關係ヲ見ルニ兩反應ノ陽性ヲ現ハス頃ニハ兩增殖ハ旺盛ニ增殖スルモ亦該反應ノ陽性ナラザル以前ニモ菌增殖ノ陽性ヲ現ハス場合モ少ナカラズ、然レドモ、該反應ハ重症末期ナルヲ意味スルモノニシテ菌增殖ハ此ノ出現前後ニ於テ一般ニ一段ト其陽性度ヲ增ス。

(5)全身症狀ト菌增殖トノ關係。

重症肺結核患者ノ末期ニ於テハ食慾不振又ハ合併症ノ爲榮養ガ攝取セラレズ、全ク饑餓ノ狀態トナリ死亡スルモノ多シ、而シテ、人體ニ於ケル饑餓ト全血液中結核菌ノ培養ニ就テノ文獻ヲ見ズ、動物實驗ニ於ケル文獻 2—3 ヲアグレバ次ノ如シ。

1928 年 G. Meissner[25] ハ部分的饑餓トモ云フベキ壞血症ニ罹患セシメタル海猽ノ全血液內ー於テハ健康ナル場合ヨリモ結核菌ノ增殖ノ可良ナル事ヲ實驗的ニ證明セリ、黑川ハ今村教授ノ指導ノモトニ饑餓「マウス」血液中ニ於ケルヨリ溶血性連鎖狀球菌ノ增殖ノ可良ナル事ヲ達告セリ。緖方モ今村教授指導ニヨリ健康及ビ結核家兎竝ニ海猽ヲ饑餓ニ陷ラシメ、之レニ結核菌ノ全血液培養ヲ施行セルニ饑餓ニ非ザルモノヨリ良ク增殖セル事實ヲ實驗的ニ證明セリ。

余ハ肺結核患者ノ末期ニ於ケル全血液中結核菌ノ培養ヲ施行シ、之レト榮養狀態トノ關係ヲ見タリ。

結核患者ノ初期ニハ一般狀態ハ比較的良好ナルモ次第ニ病勢ノ進行シ、惡化スルニ從ヒ一般狀態モ亦次第ニ惡化シ、食慾不振ヲ訴ヘ、漸次衰弱シ、終リーハ饑餓狀態トナリテ死亡スルニ至ル。臨牀的ニ一般症狀ヲ觀察スルニハ必ズ體重ノ增減、脈搏、體溫、呼吸數等ヲ主トシテ觀察ス。肺結核患者ニシテ漸次ニ病勢ガ進行セバ必ズ發熱シ、呼吸困難ヲ伴ヒ、脈搏上昇ス、之レニ伴ヒ、次第ニ體重ノ減少アリ。而シテ重症患者ノ末期ニハ、肺臟ハ極度ニ侵サレ、其ノ上食慾不振ノ爲、又ハ合併症ニヨリ食物ノ通過不良、又ハ消化不良ノ爲ニ衰弱ヲ來シ、遂ニ死亡スルニ至ル、重症患者ニシテ重症初期ヨリ末期ニ至ル迄ノ經過ハ多樣ニシテ合併症ノ存否ニヨル事多シ、今、合併症ノ早クヨリ存在セシモノ、或ハ比較的遲ク現ハレシモノニ就テ、例症的ニ次ノ如ク示サントス。

第 八 表　菌增殖ノ經過(第十五例)

日　附	5 30/7	4/8	17/8	30/8	14/9	28/9	12/10	20/10	12/11	23/11	7/12	29/12	4/1
菌增殖	一			±				+	++			+++	死
體　重	32.2	32.2	25.1	27.7	27.0	26.5	26.3	26.0					
體　溫	38.5	38.5	38.0	38.5	38.0	37.0	37.5	38.5	38.5	37.5	28.5	39.0	
脈　搏	100	110	90	100	100	90	90	100	90	90	100	110	亡
呼　吸	25	25	25	25	25	25	25	25	25	27	25	28	
一般狀態	稍ゝ良		比較的良		ピルケー反應陰性			腸結核ノ症狀增殖ス		惡化			

本患者ハ入院後間モナク、全血液中結核菌培養ヲ施行セルニ陰性ニシテ、其時體重ハ 32.2 瓩、體溫 38 度 5 分脈搏 100、呼吸 25 ナリ、8 月 4 日頃ヨリ人工氣胸ヲ施行セルニ第八表ニ示セル如ク、體溫、脈搏、呼吸ニモ亦一般狀態ニモ良好ナル症狀ヲ呈セズ、次第ニ體重ハ減少シ、7

月30日ノ檢査ヨリ、1ケ月ヲ經過セル8月30日ノ檢査ニハ體重27.7瓩トナリ、體溫ハ38度5分、脈搏100、呼吸25ヲ數ヘ全血液中菌增殖ハ(±)トナル。9月下旬ヨリ腸結核ノ症狀現ハレ、次第ニ高度トナリ、前回檢査日ヨリ50日ヲ經過シタル10月20日ノ檢査ニハ體重26瓩、體溫38度5分、脈搏100、呼吸25ヲ數ヘ、臨牀的症狀增惡シ、此時全血液中菌增殖ハ(+)トナリ、夫レヨリ急速ニ體重ノ減少ヲ來シ、菌增殖モ急速ナル增加ヲ示セリ。

第九表　菌增殖ノ經過（第五十六例）

日附	5 23/6	1/7	21/7	4/8	1/9	15/9	29/9	10/10	20/11	30/12	6 10/1	10/2	9/3
菌增殖	−					±		±		+		++	
體重	52.8	54.1	52.8	52.6	47.7	45.5	45.2	43.0	41.0	34.2			死
體溫	38.5	37.5	38.5	37.0	38.0	37.5	37.0	37.8	38.5	38.7	38.7	38.7	
脈搏	90	90	92	87	90	90	90	90	60	93	100	100	亡
呼吸	25	25	25	20	20	20	20	20	25	25	28	28	
一般狀態	稍ゝ良	ピルケー反應陰性		稍ゝ良			稍ゝ惡	腸結核症狀ニヨリ增惡ス		惡化			

本患者ハ入院當時ハ一般狀態比較的良好ニシテ、體重52.8瓩、體溫38度5分、脈搏90、呼吸25、此時全血液中菌增殖ハ陰性ナリ、6月28日ヨリ人工氣胸ヲ右側ニ施行セル爲多少ナリトモ、一般症狀良好トナリ、入院後93日ヲ經過シタル9月15日ノ檢査ニハ體重45.5瓩、體溫38度5分、脈搏90、呼吸29ヲ數ヘ、全血液中菌增殖ハ(±)トナル、以後漸次經過不良トナル傾向アリ、且ツ肋膜腔ノ癒著ノ爲人工氣胸ヲ中止シ、第2回檢査後25日目後ノ、10月10日ノ檢査ニハ體重減少シ、43瓩、體溫37度8分、脈搏90、呼吸20ヲ數ヘ、全血液中菌增殖ハ前回通リ(±)ナリ、夫レヨリ次第ニ腸結核ノ症狀ガ現ハレ食慾不振トナリ急速ナル衰弱ヲ加ヘ、第2回檢査後80日ヲ經タル、12月30日ノ檢査ニハ體重34.2瓩、體溫38度7分、脈搏90、呼吸25ヲ數ヘ、菌增殖ハ(+)トナリ、其後41日ノ經過ニテ衰弱甚シク、2月10日ニハ全血液中菌增殖ハ(++)ヲ示セリ。

第十表　菌增殖ノ經過（第六十六例）

日附	5 12/1	26/1	9/2	23/2	9/3	25/3	6/4	20/4	1/5	1/6	11/6	20/6	11/7	14/7
菌增殖	−			±				±			++		+++	
體重	45.7	46.1	46.6	48.8	49.0	49.4	48.6	48.3	47.8	44.5				死
體溫	37.5	37.5	37.3	37.5	37.0	37.0	37.5	37.0	37.5	37.5	38.5	38.7	39.0	
脈搏	90	90	92	90	85	85	85	85	80	90	90	100	100	亡
呼吸	25	20	25	25	20	20	25	25	25	25	25	25	25	
一般狀態	稍ゝ良	稍ゝ良、ピルケー反應陰性					稍ゝ良		暫次惡	喉頭結核ノ爲食物通過不良		增惡		

本患者ハ入院當時ヨリ喉頭結核ナルモ食物ノ通過比較的良好ニシテ、從テ榮養モ充分ニ攝取シ得タリ。1月12日ニハ體重45.7瓩、體溫37度5分、脈搏90、呼吸25、全血液中菌增殖ハ陰性ナリ。以後41日ヲ經過セシ2月23日ノ檢査ニハ體重前回ヨリ增加シ、48.8瓩、體溫37度5分、脈搏90、呼吸25、此時全血液中菌增殖ハ(±)ナリ、第2回檢査ヨリ68日ヲ經過セル4月20日迄ハ尙食慾良好ニシテ榮養モ可良ナリ、體重ハ尙低下シ、48.3瓩、體溫37度、脈搏80呼吸25、菌增殖ハ(±)ナリ。夫レヨリ51日ノ經過中喉頭結核ハ次第ニ進行シ、漸次食物ノ通過不良トナリ、肺臟ニモ病竈次第ニ擴ガリ、6月中旬ニハ全ク食物ノ通過不能ニシテ6月11日ノ檢査ニハ體重前回ヨリ一段ト低下シ、體溫38度5分、脈搏90、呼吸25ニシテ全血液中菌

增殖ハ (卄) ヲ示セリ、7月11日ニハ衰弱烈シク病勢其極ニ達シ、全血液中菌增殖(卌)ヲ示セリ。

第十一表　菌增殖ノ經過(第七十一例)

日附	5/11	19/11	2/12	17/12	24/12	7/1	11/1
菌增殖	±		+		+	++	死
體重	49.1	46.5	46.0	43.7	42.3		
體溫	38.0	38.5	38.5	39.0	39.0	39.5	
脈搏	100	100	110	110	110	110	亡
呼吸	25	25	30	32	35	35	
一般狀態	腸結核ノ症狀ニヨリ次第ニ衰弱ス			食慾不振增惡			

本患者ハ入院當時ヨリ腸結核ニシテピルケー反應モ陰性、體重ハ49.1瓩ニテ比較的未ダ榮養可、體溫38度、脈搏100、呼吸25、此時全血液中菌增殖ハ(±)ナリ。其後27日間ニ食物ノ通過不良ト肺臟ノ病竈進行ト共ニ體重急速ニ減少シ、12月2日ノ檢査ニハ體重46瓩、體溫38度5分、脈搏110、呼吸30ヲ數ヘ、全血液中菌增殖ハ(+)ヲ示セリ、以後63日ノ經過中一モ體重非常ニ減少シ、42.3瓩トナリ、體溫39度脈搏110、呼吸35ヲ數ヘ、全血液中菌增殖ハ前回通リ(+)ナリ。夫レヨリ14日ヲ經過セシ1月7日ノ檢査ニハ衰弱ノ程度强ク、體溫モ高ク從ツテ菌增殖ハ(卄)トナレリ。

第十二表　菌增殖ノ經過(第三十九例)

日附	5 8/6	20/6	8/7	23/7	5/8	20/8	3/9	17/9	1/10	15/10	22/10	/11
菌增殖		±			++						卌	
體重	48.5	48.3	47.5	47.2	47.1	46.5	45.2	44.3				死
體溫	38.0	38.5	38.0	38.0	38.0	37.5	39.0	39.0	38.5	39.0	39.0	
脈搏	85	90	90	87	84	90	90	87	100	100	110	亡
呼吸	25	25	23	25	20	23	25	25	25	25	25	
一般狀態	稍ゝ良　喉頭結核ノ爲食物通過不良　增惡											

本患者ハ入院當時ヨリ喉頭結核ヲ合併セシモ食物ノ通過比較的可良ニシテ榮養物ノ攝取ハ良好ナリ。當時體重48.3瓩、體溫38度5分、脈搏90、呼吸20ヲ數ヘ、全血液中菌增殖ハ(±)ナリ。夫レヨリ45日ノ間ニ喉頭部ノ病勢進行シ、多少ノ嚥下困難ヲ來シ、8月5日ノ檢査ニハ、體重減少シ、47.1瓩、體溫38度、脈搏84、呼吸20ヲ數フ、其時全血液中菌增殖ハ(卄)ヲ示セリ、夫レヨリ77日ノ經過中一、二次第ニ食物ノ通過不良トナリ、體重ハ減少シ、10月22日ノ檢査ニハ衰弱强ク、且ツ肺臟部ノ病竈擴ガリ、體溫39度5分、脈搏110、呼吸25ヲ數ヘ、菌增殖ハ(卌)ヲ示セリ。

本患者ハ數年前ヨリ、腰部「カリエス」ヲ合併セリ、入院當時ハ腰部ニ瘻孔ヲ有シ、夫レヨリ多量ノ膿ヲ排泄ス、當時體重ハ42瓩、體溫38度、脈搏95、呼吸20ヲ數ヘ、全血液中菌增殖ハ(±)ヲ示セリ、夫レヨリ50日ノ經過ニ於テ體重3.8瓩ニ減少シ、體溫38度、脈搏100、呼吸25ヲ

第十三表　菌增殖ノ經過(第一例)

日附	30/6	15/7	28/7	11/8	20/8	8/9	12/9	5/10	7/10
菌增殖	±				+		++		死
體重	42.0	41.4	39.7	38.4	38.0				
體溫	38.0	38.5	38.5	38.0	38.5	39.0	38.5	39.0	
脈搏	95	95	95	90	100	100	110	120	亡
呼吸	20	20	23	23	25	25	30	30	
一般狀態	腰部「カリエス」		ピルケー反應陰性		增惡				

數ヘ、全血液中菌增殖ハ(+)ナリ、以後患者ハ全ク食慾ナク極度ニ衰弱ヲ來シ、此時菌增殖ハ(卄)ナリ。本患者ハ病症モ重症ナリシガ衰弱ハ他ノ者ニ比シ極度ニ惡キモ、菌增殖ノ比較的少ナカリシ1例ナリ。

本患者ハ入院當時ハ一般症狀ガ何等中等症患者ト異ル所ナク、體重モ47.3瓩、體溫37度、脈搏90、呼吸25ニシテ全血液中菌增殖ハ陰性ナリ、而シテ12月上旬ヨリ人工氣胸ヲ左側ニ施行シ、一般狀態ハ爲ニ良好ナリ。1月20日ニ於ケル檢査ニハ體重モ前回ヨリ增加シ、38瓩、體

第十四表　菌增殖ノ經過(第四十五例)

日	附	30/11	29/12	6 20/1	31/1	15/2	23/2	1/3	20/3	25/3	
菌增殖		一		±			±		+		
體重		47.3	47.4	38.0	37.6	37.0	36.5	36.0			死
體溫		37.0	37.5	38.5	38.5	37.5	37.5	38.5	38.5		
脈搏		90	95	110	110	100	100	110	110		亡
呼吸		25	20	25	25	25	25	25	35		
一般狀態		稍良	ピルケー反應陰性		肛門周圍炎			增惡			

溫38度5分、脈搏110、呼吸25、然レドモ此時既ニピルケー反應陰性ニシテ全血液中菌增殖ハ(±)ヲ示セリ。本患者ハ其後モ比較的一般狀態良好ニシテ、他ニ合併症ナク、唯1月31日頃ニ肛門周圍炎ヲ起シ、其爲發熱シタルモ、夫レ以來肺臟ノ病變ハ進行シ、2月23日ニハ體溫37度5分脈搏100、呼吸25ヲ數ヘ、全血液中菌增殖ハ前回通リ(±)ナリ、3月中旬ニハ肺臟ノ病竈次第ニ擴大シ爲ニ咳嗽强ク、次第ニ衰弱シ、3月20日ニハ極度ニ衰弱シ菌增殖ハ(+)トナレリ。

以上ノ各例ヲ通覽スルニ重症肺結核患者ハ總テ病變ノ進行ニ從ヒ、食慾不振ヲ訴ヘ、末期ニハ極度ニ衰弱ヲナス事ハ、合併症ヲ有セル者、特ニ、最モ多キ、喉頭結核竝ニ腸結核患者ハ合併症ノナキモノヨリ、一般ニ早期ニ現ハルモノナリ。前述諸家ノ唱フル如ク、患者ノ食慾不良ニシテ榮養低下スレバ肺結核病竈ハ急速ナル進行ヲナシ、夫レニ供ヒ、血液內ノ結核菌增殖阻止作用ノ低下シ、或場合ニハ消失スルニ至ル場合モアリ。肺結核ノ末期ニテピルケー反應ノ陰性トナリテヨリ重症ノ末期トナル間ハ其ノ經過多種多樣ナリ。前表ニ示ス、第15例、第56例ハ入院當初ハ合併症ナク比較的榮養モ良好ナリ、第66例、第71例、第39例、第1例ハ初ヨリ合併症ヲ有セルモノニシテ其內66例ハ入院後體重增加セリ、然ルニ菌增殖ハピルケー反應ノ陰性トナル時既ニ弱陽性ヲ示セリ、其他ノ例ニ於テモ漸次體重ノ減少セルニ夫々ノ菌增殖ヲ示セリ。次ニ粟粒結核ニヨリ全身結核ノ症狀ヲ起シ、短時日ニテ死亡セシ第6例ヲ見ルニ、本患者ハ榮養狀態ハ入院當時比較的良好ニシテ9月30日ニハ體重42瓩ニシテ菌增殖ハ(±)ヲ示シ、夫レヨリ約1ケ月半經タル11月14日ニハ患者ハ差程痩削セズ、以前ヨリハ多少ノ衰弱ヲ見ルモ、他ノ重症末期ニ於ケルガ如キ衰弱ヲ見ザルニ菌增殖ハ既ニ(卄)ナリ。

以上ノ諸例ヨリ案ズルニ一般ニ重症肺結核患者ノ初期竝ニ中期ハ榮養比較的衰エズ、菌增殖ハ菌增殖阻止作用ニヨリテ左右サルルモ、末期ニ近ヅクニ從ヒ、肺病變ノ重症ニ對スル菌增殖阻止作用ノ減少ト共ニ、次第ニ榮養ノ低下ニヨル菌增殖阻止作用ノ減少トニヨリ、一層旺盛ナル菌增殖ヲ示ス。而シテ急性ニ肺病變ノ進行アリテ衰弱比較的少キ者ノ全血液中ニ於ケル菌增殖ハ主トシテ菌增殖阻止物質ノ減少ニ由ルモノト考フ。

(6)重症肺結核患者ノ經過ト菌增殖トノ關係。

重症肺結核患者ノ經過日數ハ多種多樣ニシテ短時日ノ間ニ死亡スル者又ハ合併症ノ程度僅少ナルモノ又ハ病勢ノ經過緩慢ナル爲長日月ノ經過ヲ有スル者アリ。是等ハ其個體ノ體力、榮養狀態竝ニ合併症ノ狀態ニ歸因スルモノナリ。余ハ次表ニ示ス如クピルケー反應陰性トナリテヨリ、死ノ歸轉ヲトル迄ノ日數ヲ大體月數ニ換算シ、之レト死亡前ニ施行セシ全血液中菌增殖狀態トノ關係ヲ比較セリ。

此表ニ示ス、總人員76名ニシテ其內1ケ月以內ニ死亡セシ者ハ20名、2ケ月以內ニ死亡セシ者20名、4ケ月以內ニ死亡セシ者10名斯ノ如ク順次月數ノ增加ト共ニ死亡者總數ハ減少セリ、而シテ1—2ケ月間ニ死亡セシ總數ハ全數ノ半分ヲ占ムル故ニ重症患者ノ大多數ハピルケー反應陰性トナリテヨリ2—3ケ月以內ニ死亡スルモノナリト考フ。之レト全血液中結核菌ノ增殖狀態トノ關係ヲ見ルニ1ケ月以內ニ死亡セシ者20名中死亡數日前ニ於ケル、全血液中菌增殖ハ大多數(+)ニシテ其數15名、他ニ(卄)ガ2名、(±)ガ3名ナリ。此ノ(±)3名中1名ハ心臟麻痺、2名ハ重症ナル喉頭結核ノ爲ニ食物

第十五表　重症肺結核患者ノ經過日數ト全血液培養トノ關係

菌增殖＼月數	1	2	3	4	5	6	7	菌增殖總計
±	3(3.9)	1(1.3)						4(5.3)
+	15(19.7)	10(13.2)	8(10.5)	8(10.5)	3(3.9)	3(3.9)		47(61.8)
++	2(2.6)	6(7.8)	4(5.2)	2(2.6)	1(1.3)	1(1.3)	1(1.3)	17(22.3)
+++		2(2.6)			1(1.3)	1(1.3)		4(5.3)
++++		1(1.3)			2(2.6)	1(1.3)		4(5.3)
月數總計	20(26.3)	20(26.3)	12(15.8)	10(13.2)	7(9.2)	6(7.9)	1(1.3)	76(100.0)

括弧內ハ百分率

ノ通過全ク行ハレズ急速ナル衰弱ヲ起シ死亡セリ。次ニ2ケ月以內ニ死亡セシ20名中(+)ナル者ガ大多數卽チ10名ニシテ(++)ガ6名,(+++)2名、(++++)ハ1名、(±)ガ1名ナリ。此最後ノ患者ハ肺結核ナルモ病變ノ增惡スル以前ニ衰弱ノ爲死亡セル者ナリ。3ケ月ヲ經過セシ12名中8名ハ(+)、2名ハ(++)、4ケ月經過セシ10名中、(+)ハ8名、(++)ハ2名。5ケ月ヲ經過セシ7名中(+)ハ3名ニシテ(++)(+++)ハ各々1名宛、(++++)ハ2名アリ。此ノ2名ハ共ニ合併症ハ喉頭結核ナリ。6ケ月ヲ經過セシ6名中(+)ハ3名(++)(+++)竝ニ(++++)ハ各々1名宛ナリ。7ケ月ヲ經過セシ者ハ1名ニシテ菌增殖ハ(++)ナリ。而シテ6ケ月ヨリ7ケ月ヲ經過セシ患者ハ總テ重症初期ニハ榮養狀態比較的良好ニシテ肺結核ノ緩慢ニ進行セシモノナリ。

以上ヲモツテ見ルニ76名中菌增殖ノ(+)ナル者大多數ヲ占メ、次ニ(++)(+++)(++++)ノ順ナリ。重症肺結核患者ノ經過日數ト菌增殖トノ間ニハ劃然タル、區別ヲナシ得ザレドモ、前述ノ如ク、重症肺結核患者ニシテ、結核ガ廣ク肺臟ヲ侵シ、且ツ其上重症ナル合併症ヲ有シ、是等ノ狀態ガ比較的永ク持續者ハ全血液培養ニ於テ次第ニ菌增殖ハ旺盛トナル、然レドモ合併症ノ重篤ナル者ハ榮養狀態不良トナリ、短時日ニ於テ死亡スルニヨリ。重症肺結核患者ハ其經過日數ヲモツテ全血液培養陽性度トノ關係ヲ決定スル事ハ困難ナルモ大體ヨリ見レバ菌增殖陽性トナレバ死亡ニ至ル期間短シト云ヒ得ベシ。

(7)重症肺結核患者ノ合併症ト菌增殖トノ關係。

肺結核患者ガ重症ニ進ムニ從ヒ各種臟器ニ病的變化ヲ及ボス、例ヘバ心臟機能ニ變化ヲ及ボス或ハ偶發的氣胸ヲ起ス等ノ事アルモ、此ノ所ニ述ベントスルハ肺臟以外ノ各臟器ニ結核性變化ヲ呈スル合併症ニ就キ述ベントス。重症肺結核患者ノ初期ヨリ死亡スルニ至ル迄ノ經過ヲ觀察シ又死亡數日前ニ全血液培養ヲ施行シ得タル患者62名ニ就キ合併症ト、菌增殖狀態トノ關係ヲ觀察セントス。

肺結核ノ著明ナル合併症トシテ臨牀的ニハ一ツナル場合ガ多ク、總數64名中45名ニシテ殘ル

第十六表

重症肺結核患者ノ合併症ト全血液培養トノ關係

合併症＼菌增殖	±	+	++	+++	++++	合併症總計
喉頭結核	2	15	8	2	1	28
腸結核		7	3	1		11
結核性腹膜炎		2	1			3
肛門周圍炎		2		1		3
喉頭結核 腸結核		4	2		1	7
喉頭結核 腎臟結核	1	1				2
喉頭結核 腸結核 腎臟結核			1	1		2
喉頭結核 肛門周圍炎		1				1
腸結核 肛門周圍炎		1				1
腸結核 腎臟結核	1	1				2
結核性腹膜炎 肋膜炎		1			1	2
脊柱「カリエス」 肛門周圍炎		1	1			2
菌增殖總計	4	36	16	5	3	64

18名ハ二ツ以上ノ合併症ヲ有スル者ナリ。今前表ニ示ス如ク、各合併症ヲ通算シ、之レト全血液中菌増殖トノ關係ヲ見タリ。

喉頭結核ノミノ合併症ヲ有スル患者總數28名ニシテ其内全血液中菌増殖(±)ハ2名、(+)ハ15名、(++)ハ8名、(+++)ハ2名、(++++)ハ1名ナリ。腸結核ノ合併症ヲ有セル患者總數11名ニシテ、全血液中菌増殖(+)ハ7名、(++)ハ3名(+++)ハ1名ナリ。腹膜炎ノ合併症ヲ有セル者ハ3名ニシテ其内菌増殖(+)ハ2名、(++)ハ1名ナリ。肛門周圍炎患者モ3名ニシテ其内菌増殖(+)ハ2名、(+++)ハ1名ナリ。

次ニ二ツノ合併症ヲ有セル者ノ内、喉頭結核ト腸結核ノ合併症ヲ有セル者最モ多ク7名ニシテ其内全血液中菌増殖(+)ハ4名、(++)2名、(+++)ハ1名ナリ。喉頭結核、腸結核竝ニ腎臓結核ノ三ツノ合併症ヲ有セル者ハ2名ニシテ夫々(++)及ビ(+++)ノ菌増殖ヲ示セリ。

次ニ臨牀的ニ結核性ノ合併症ヲ認メ得ザリシ者22名ニ就キ、菌増殖狀態ヲ見ルニ(+)ハ17名(++)ハ5名、(+++)ハ1名ナリ。

以上ヲ通覽スルニ、合併症ヲ有セル患者ト有セザル患者トノ菌増殖狀態ヲ比較スルニ統計上合併症ヲ有セザル患者ノ全血液中菌増殖ハ(+)ガ大多數ヲ占メ、(++)ハ僅少ナリ。ソレニ反シ、合併症ヲ有セル患者ニテハ(+)ハ前者同樣大多數ナルモ(++)竝ニ(+++)ハ前者ヨリ比較的多數ヲ占ム。

(8)肺結核病型ト菌増殖トノ關係。

余ハ肺結核ヲ病竈散在性結核。結核性肺炎。慢性肺結核ノ三ツニ分類シ、之レト菌増殖ヲ比較セリ、而シテ此ノ場合末期ニ於ケル菌増殖ハ合併症竝ニ衰弱程度ニヨリ各々差異ヲ生ズル、故ニピルケー反應(±)ナル場合ニ於ケル全血液中菌増殖竝ニピルケー反應陰性トナリテヨリ間モナク施行セシモノ、及ビ末期ノ三期ニ分ケ比較セントス。然レ共病竈散在性結核患者總數ハ14名、結核性肺炎ハ10名ノ僅少ナル數ナルモ實驗上現ハレシ事實ヲ述ベン。

第十七表　諸種ノ病型ト全血液中菌増殖トノ關係

	姓名	ピルケー反應 m.m	ピルケー反	菌陽性時ノ増殖	ピルケー反	菌陰性時ノ増殖	末期ニ於ケル菌増殖
病竈散在性肺結核	[redacted]	3	+	++	++	++	++
	[redacted]	0	0	+	++	++	++
	[redacted]	5	−	±	++	++	++
	[redacted]	4	±	+	++	++	++
	[redacted]	5	−	±	++	+	+
	[redacted]	0	0	+	++	++	++
	[redacted]	4	±	±	++	+++	+++
	[redacted]	5	±	+	++	++	++
	[redacted]	3	−	±	++	+	+
	[redacted]	0	0	±	++	+	+
	[redacted]	4	−	±	++	+	+
	[redacted]	0	0	+	++	+++	+++
	[redacted]	0	0	+	++	++	++
	[redacted]	8	±	+	++	+	+
結核性肺炎	[redacted]	0	0	±	++	+	+
	[redacted]	4	−	±	++	+	+
	[redacted]	5	±	0	++	+	+
	[redacted]	0	0	±	++	+	+
	[redacted]	5	±	0	++	+	+
	[redacted]	4	−	±	++	+	+
	[redacted]	3	−	+	++	+	+
	[redacted]	4	−	±	++	+++	+++
	[redacted]	0	0	±	++	+	+
	[redacted]	0	0	±	++	+	+
慢性肺結核	菌増殖 −	弱陽性	20				
	菌増殖 ±	弱陽性	8		21	19	
	菌増殖 +	弱陽性			7	40	
	菌増殖 ++	弱陽性				16	
	菌増殖 +++	弱陽性				4	
	菌増殖 ++++	弱陽性				2	

(A)病竈散在性結核

本例ニ於ケル總數ハ14名ニシテピルケー反應(±)ナリシ時ニ全血液中結核菌ノ培養ヲ施行シ得タル者ハ9名ニシテ、其ノ内ピルケー反應5粍ノ者4名、4粍以下ノ者5名ナリ。此ノ5粍ノ者4名中菌増殖(±)ナリシ者2名ニシテ他ノ2名ハ菌増殖陰性ナリ。次ニピルケー反應4粍以下ノ者5名中菌増殖(±)ナル者2名ニシテ他ニ1名菌増殖(+)ナル者アリ、而シテ菌増殖ノ

陰性ナル者2名アリ。次ニピルケー反應ノ陰性トナリテヨリ間モナク全血液培養ヲ施行セルニ14名中菌增殖(卄)ナル者1名ニシテ、之レハ前回ピルケー反應ノ(±)ナル時菌增殖ノ(+)ナリシ者ナリ、尙菌增殖(+)ナル者7名。(±)ナル者6名ナリ。

末期ニ於ケル菌增殖狀態ヲ見ルニ菌增殖ノ(卌)ナル者2名、(卄)ナル者7名、(+)ナル者5名ナリ、卽チ(卄)ナル者ガ大多數ヲ占メ次ニ(+)(卌)ノ順トナル。

以上ニ依リテピルケー反應ノ(±)ナル時ニ於ケル菌增殖ハ(±)竝ニ陰性ナル者ノ數相等シク、ピルケー反應ノ陰性ナル時ニハ既ニ菌增殖ハ表記ノ如ク、相等旺盛ナル增殖ヲ示セリ。

(B)結核性肺炎。

肺炎型ノ者ハ總數15名ニシテ其內ピルケー反應ノ(±)ナル時ニ菌增殖ヲ施行セシ者6名ニシテ菌增殖(±)ナル者2名、菌增殖陰性ナル者4名ナリ。ピルケー反應陰性ナル時ニ於ケル菌增殖ハ大多數(±)ヲ示シ、末期ニ於ケル菌增殖(卌)ハ1名、他ハ總テ菌增殖(+)ナリ。

(C)慢性肺結核

本型ノ患者ハ多數ニシテ、其內ピルケー反應(±)ノ時ニ全血液培養ヲ施行セル者ハ28名ナリ、此ノ內菌增殖陰性ナル者8名、(±)ナル者20名ナリ。ピルケー反應ノ陰性トナリテヨリ全血液培養ヲ施行セルニ菌增殖(±)ナル者21名(+)ナル者7名ナリ。末期ニ於ケル患者81名ノ菌增殖狀態ヲ見ルニ菌增殖(+)ハ40名、(卄)ハ15名、(卌)ハ4名、(卌)ハ2名、(±)ハ19名ナリ。

之レニヨリ慢性型ハピルケー反應ノ陰性トナレル以前ニハ菌增殖(±)ノヲ示ス者僅少ニシテ大多數ハ陰性ナリ。

以上三ツノ病型ヲ通覽スルニピルケー反應ノ(±)ナル時ヨリ既ニ菌增殖ノ(±)ヲ示セルモノハ病竈散在性肺結核型ニ多ク、他ノ病型ニハ僅少ナリ。重症末期ニ於テハ病竈散在性肺結核型ノ增殖度ハ他ノ二病型ヨリ旺盛ナリ、是等ノ相異ハ少數ナル例ニ於テノ觀察ナレドモ大體ニ於テ病竈散在性ハ他ノ二病型ヨリ菌增殖ハ盛ナル如シ。

(9)男女年齡ト菌增殖トノ關係。

男子、女子、竝ニ其年齡ニヨリ重症肺結核患者ノ全血液中菌增殖ニ如何ナル關係アリヤヲ觀察シタルニ次表ニ示ス如キ成績ヲ得タリ。

第十八表

男子ノ年齡ト全血液中結核菌ノ增殖トノ關係

菌增殖＼年齡	20歲未滿	21—30	31—40	41—50	51—60	菌增殖總計
±				1		1
+	8	15	6	2	1	32
++		6	5		1	12
卅					1	1
卌			2			2
年齡總計	8	21	13	3	3	48

第十九表

女子ノ年齡ト全血液中結核菌ノ增殖トノ關係

菌增殖＼年齡	20歲未滿	21—30	31—40	41—50	菌增殖總計
±		1	1		2
+	6	7	3	1	17
++	3	4	3	1	11
卅	1	1	2		4
卌		2			2
年齡總計	10	15	9	2	36

第十八、十九表ニ示ス如ク患者總數84名中男子ハ48名、女子ハ36名ナリ、此表ニヨリテ見ルニ男女別及年齡別ニヨリテ特記スベキ差異ヲ見ル能ハズ。

第六章　結　論

余ハ重症肺結核患者ノ全血液ヲ以テ Wright ノ "Slide cell culture" ノ變法ニヨリ人型結核菌ノ培養ヲ施行シ、該方法ハ血液ノ結核菌體ニ及ボス影響ヲ檢査スル方法トシテ優秀ナル方法ナリト認メ、健康成人及ビ種々ナル結核患者ノ全血液內結核菌ノ增殖ヲ研究セリ。Wright ハ

健康者ノ血液中ニ結核菌ハ増殖シ、結核患者ノ全血液中ニハ増殖セズト云ヘリ。余ノ實驗ニ從ヘバ重症肺結核患者ニテピルケー氏反應弱陽性ナル場合ニハ該患者ノ全血液中人型結核菌ノ増殖ハ陰性ナルカ、又弱陽性ナリ、尙該反應陰性ナル時ニハ菌増殖ハ陽性ナリ。之レ未ダ誰人モ記述セザリシ所ナリ。余ハ更ニ重症肺結核患者ノ全血液内結核菌増殖ト他症狀トノ關係ヲ調査シ、次ノ如キ成績ヲ得タリ。

1. 重症肺結核患者ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ増殖ハ該患者血液ノ赤血球沈降速度ノ沈降度ノ増加ニ大體從ヒテ旺盛ナリ。

2. 重症肺結核患者ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ増殖ハ該患者ノ白血球數竝ニ中性嗜好多核白血球數ノ増加ノ大體平行的ナル關係アリ。

3. 重症肺結核患者ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ増殖ハ赤血球數竝ニ血色素量ノ減少ト共ニ増加スル傾向アリ。

4. 重症肺結核患者ニシテ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ増殖陽性ナル場合ハ該患者ハ蛋白尿ヲ有シ又「ヂアツオ」反應ヲ呈ス。

5. 重症肺結核患者ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ増殖ハ該患者ノ經過、病症ノ惡化スルニ從ヒ、漸次ニ増殖度ハ増加スルモ、場合ニハ急速ナル増加ヲ示ス場合アリ。

6. 重症肺結核患者ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ増殖ハ該患者ニ結核性ノ合併症ヲ有セル者程旺盛ナル菌増殖ヲナス。

7. 病竈散在性肺結核患者ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ増殖ハ結核性肺炎竝ニ慢性肺結核ヨリ早期ニ旺盛ナル菌増殖ヲ始ム、而シテ重症末期ニ於ケル菌増殖ハ各個體ニヨリ差異ヲ生ズルモ病竈散在性結核患者ノ菌増殖ハ他ノ二者ニ比シ、比較的菌増殖旺盛ナリ。

8. 重症肺結核患者ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌増殖ノ陽性度ハ重症肺結核患者ノ經過日數ニ關係スル事多シ、而シテ陰性「アヲルギー」ノ期間ノ永キ者程菌増殖ハ旺盛ナリ。

9. 重症肺結核患者ノ末期ニ於ケル全血液中人型結核菌ノ増殖ハ健康成人ノ全血液中ニ於ケル人型結核菌ノ増殖ト大體相似スルモ時ニハ健常成人ノ菌増殖ヨリ尙旺盛ナル時アリ。

擱筆スルニ臨ミ、今村教授ノ懇篤ナル御指導ト御校閲ノ勞ヲ衷心ヨリ感謝ス。

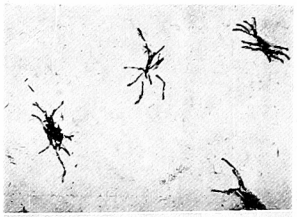
主要文獻

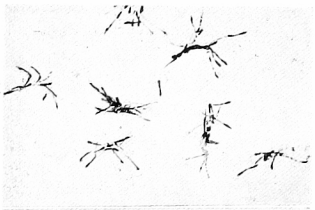
1) **Foder, G.,** Dtsch. med. Wochenschr. Bd. S. 745. 1887. 2) **Nuttal, G.,** Ztschr. f. Hyg. Bd. 4. S. 353 1888. 3) **Buchner, H.** und **Orthenberger, M.,** Arch. f. Hyg. Bd. 10. 1890. 4) **Buchner, H.** und **Sittman. G.,** ebenda S. 121. 5) **Buchner, H.,** und **Voit, Fr.,** ebenda. S. 101. 6) **Pfeiffer, R.** und **Issaeff,** Ztschr. f. Hyg. Bd. 16. 1894. 7) **Schottmüller, H.** und **Barfurth. W.,** Beitr, z. Klin. d Infektionskrankheit, usw. Bd. 3. 1914. 8) **Schottmüller, H.,** Münch. med. Wochenschr. 1924. 9) **Ruge, C.,** Zentralbl. f. Gyn. Bd. 47. 1923. 10) **Philipp, E.,** Klin. Wochenschr. 1923. 11) **Lehmann, W.,** Klin. Wochenschr. 1924. 12) **Heist, G. D., Solis-Cohen, S.** und **Sachs, G.,** Klin, Wochenschr. Bd. 3. 1924. 13) **Wright, Sir Almroth, E.,** Technique of the teat and Capillary Glass Tube, 2. edit. London 1921. Eine übersetzung der 1. auflage ist 1914 erschienen, Technik von Gummisaug Kappe und Glass Kapillare, jena. 14) **Wright,, Colebrook, L.** und **Storer, E.J.,** Lancet, Vol. 24. 1923. 15) **Wright, A. E.,** Lancet, Vol. 1. 1924. 16) **Eastwood, A.,** Journ. of Hyg. Vol. 26. 1924. 17) **Solis-Cohn, M.,** Brit. Journ. of Exp. Pathol. Vol. 8. 1927. 18) **Matsunami, T.** and **Kolmer, J. A.,** Journ. of Immunol 1918. Vol. III. No. 3. 19) **Matsunami, T.,** Journ. of Immunol 1920. Vol. V. No. 1. 20) **Bull, C. G.** and **Bartual, L.,** Journ. of Exp. Med. 1920. Vol. 31. No. 3. 21) **Smiley, H. E.,** Journ. of Infect. Diseases. 1923 Vol. 33. No. 1. 22) **Fry, R. M.,** Brit. Journ. of Exp. Pathol, Vol. 7. 1926. 23) **Bannerman, R. G.,** Brit. Journ. of Exp. Pathol, Vol. 8. 1927. 24) **Hess** und **Meissner, G.,** Zentbl. f. Bakt. orig. Bd. 110. 1929. 25) **Meissner, G,** Zentbl, f. Bakt. Abt. I. orig. Bd. 106. 1928. 26) **Sonak, M.,** Zentbl. f. Bakt. orig. I. Bd. 115. 1929. 27) **Cornet,** Die Tuberkulose, wien 1907. II. Aufl., 28) **Bandelier** und **Roepke,** Klinikder Tuberkulose würzburg 1911. 29)

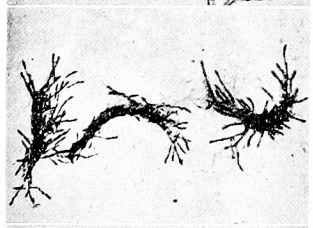
澁川論文附圖

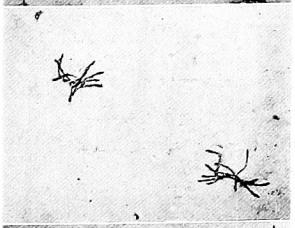
（其ノ一）

1

2


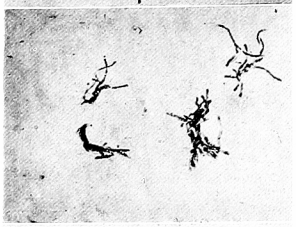
3


4


5


6

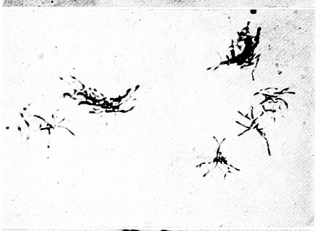
7

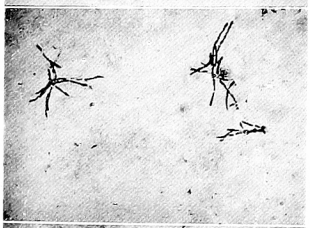
8


9

10

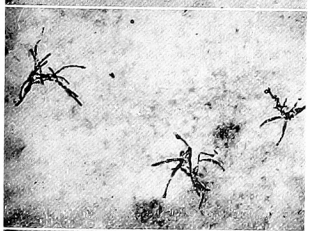
11

12


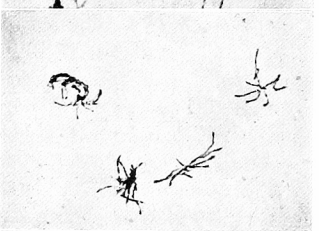
13


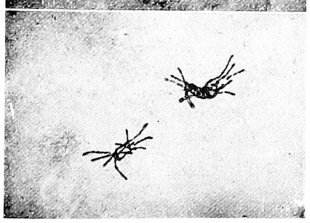
14

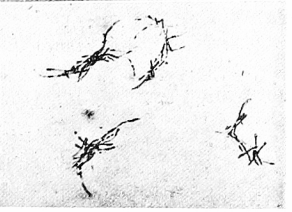
15

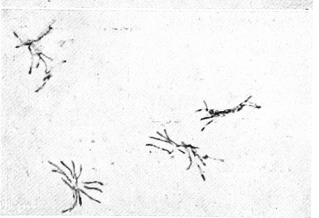
16


17

18


19


20


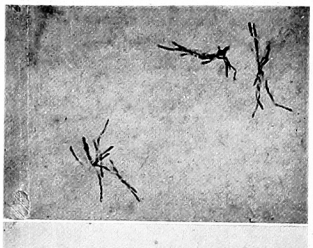
21


澁川論文附圖

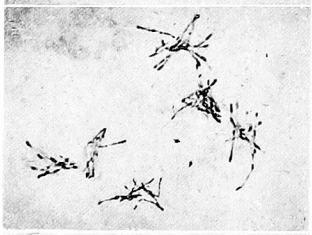
（其ノ二）

22

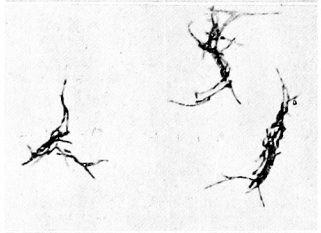
23

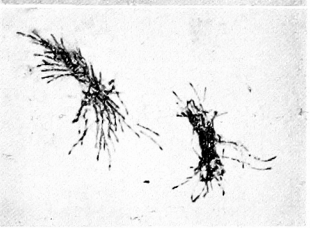
24


25

26


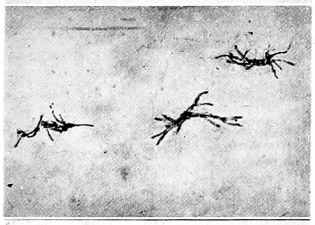
27

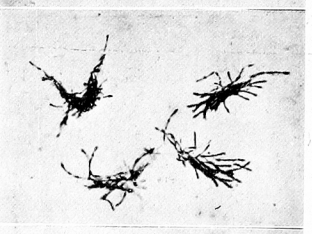
28


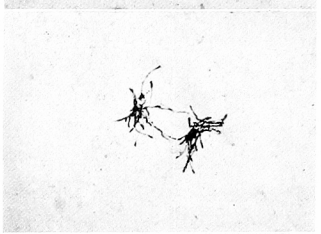
29


30

31

32


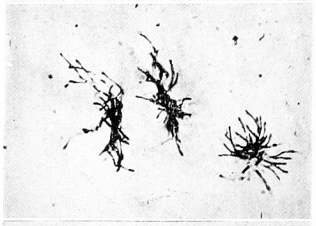
33


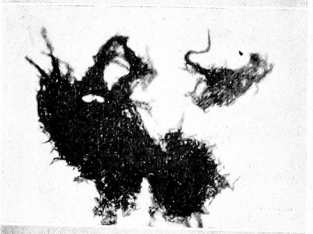
34


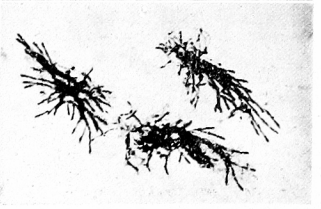
35

36

37

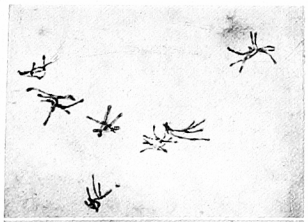
38


39


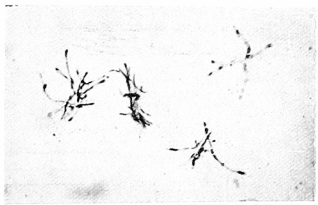
40


41

42

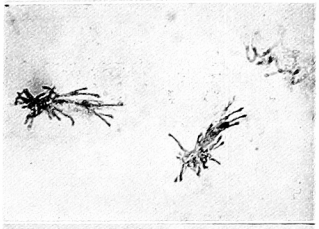

43

44


45

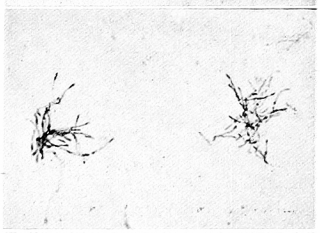
46

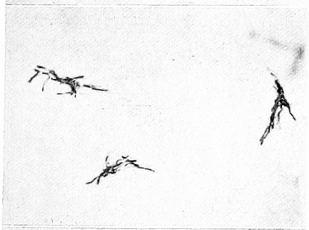
47

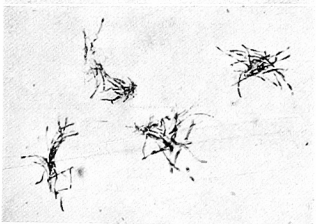

48

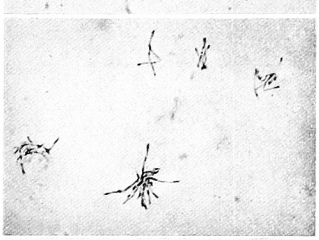
49

50

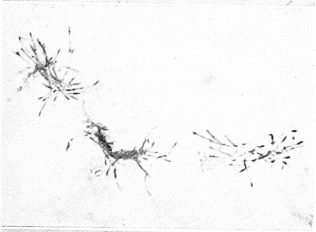

51

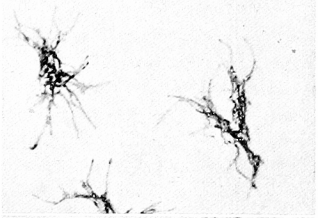

52

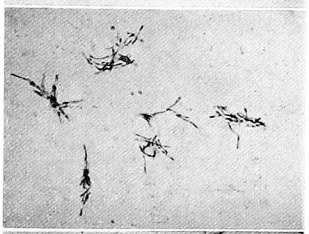

53

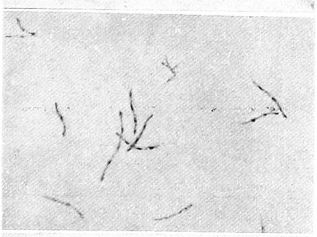

54

55

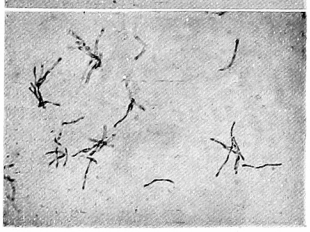

56

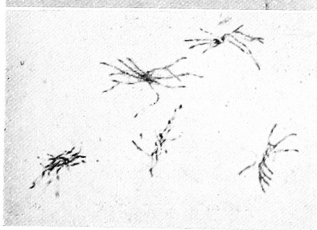

57

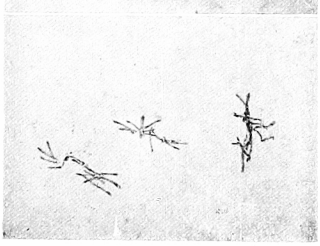

58


59

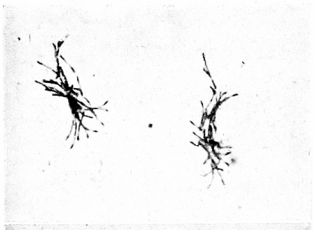
60

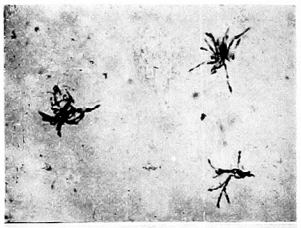

61

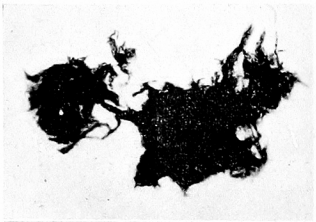

62


63

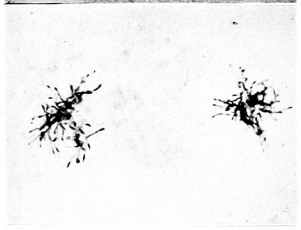
澁川論文附圖（其ノ四）

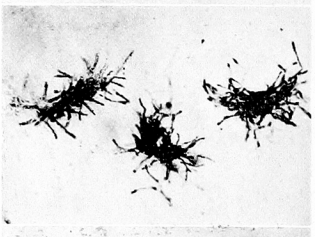
64


65


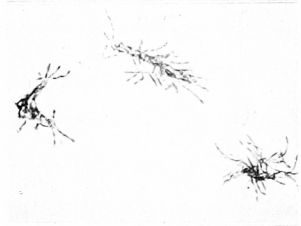
66


67

68


69


70

71


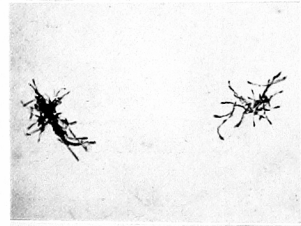
72

73

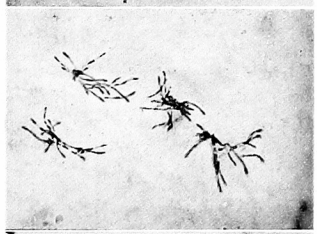
74

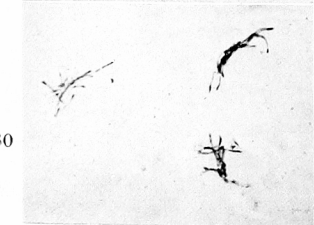
75

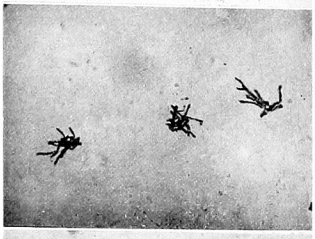
76

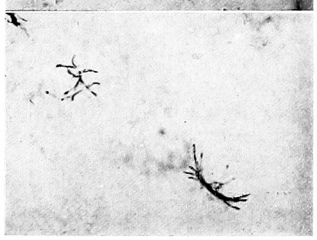
77


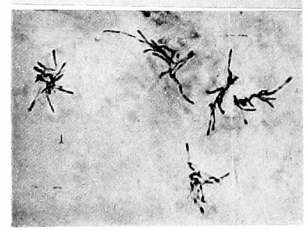
78

79


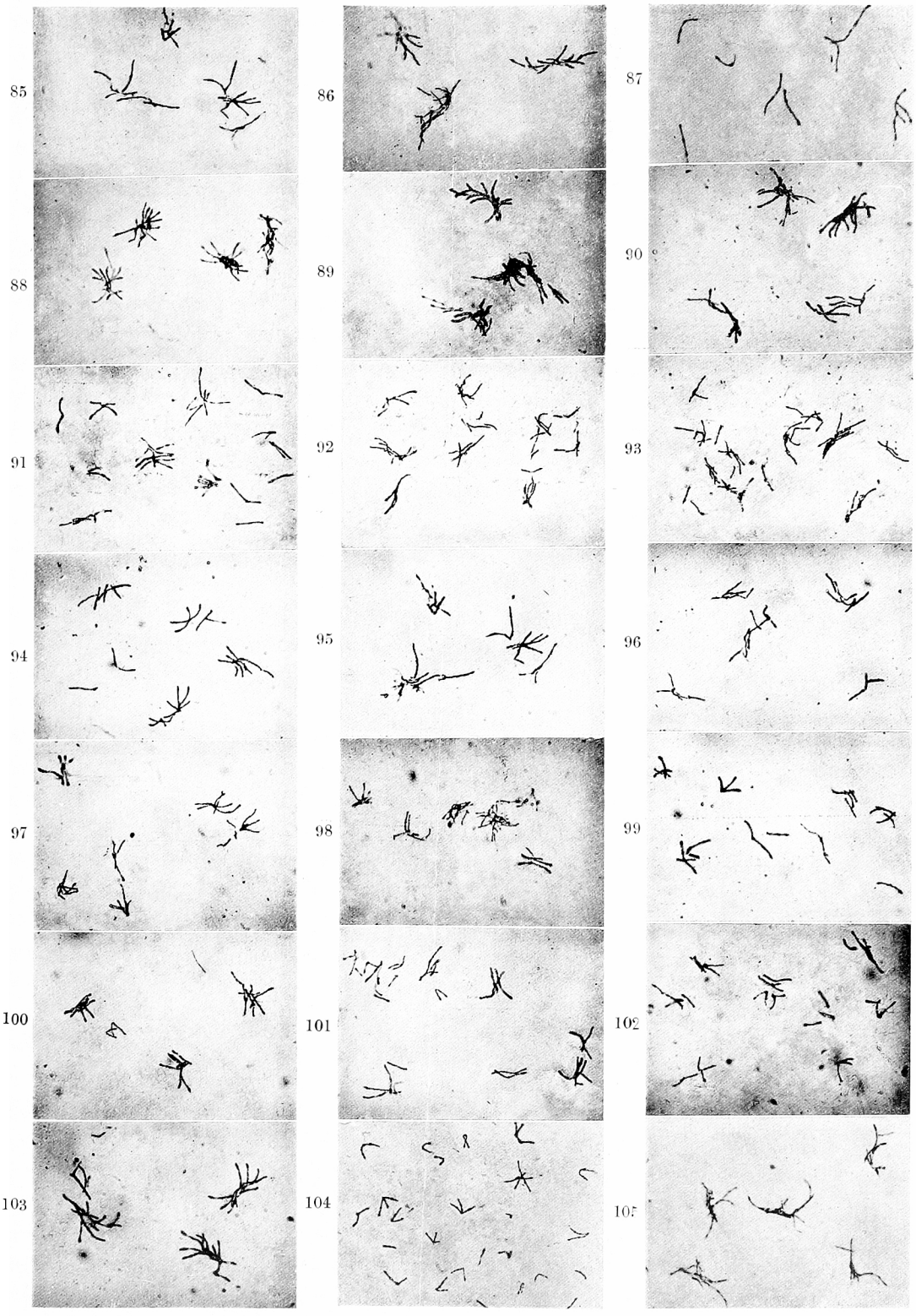
80


81


82


83


84


85
86
87
88
89
90
91
92
93
94
95
96
97
98
99
100
101
102
103
104
105

Friedrich, Müller-München, in Merings Lehrb. d. inneren Med., Fischer, jena 1911. 30) **Baron Friedrich v. Koranyi,** Phthisis pulmonum in dem Handb. d. inneren Med. redig. von Korányi-Kéthy-Bokay, Bd. N. Budapest. 1897. 31) **Gabriel Arthaud,** Comptes rendus et Mèmoires du Congrés paur l'étude de la Tuberculose Paris 1893. redig. Par Petit; Paris G. Masson, 1894. 32) **Eichhorts,** Handbuch der Spez. pathol, u. Therapie. 1887. 33) **R. Leuchtenberger** u. **H. Lorenz,** Klin. Wochenschr. No. 15. 1931. 34) **Römer,** Dtschr. med. Wochenschr. 1909. No. 26. 35) **Alvarez, C.** u. **R. Barralt,** Zentbl. f. d. Gesamtetuberkulose-forsch. Bd. 25. 36) **Hayek,** Das Tuberkulose Problem 1923. 37) **Koch, R.,** Dtsch. med. Wochenschr. 1891. No. 3 38) **Bandelier, Roepuke,** Die Klinisch. d. Tub. 1920. 39) **Naegeli,** Blut-Krank. u. Blut-diagnostik 40) **Grawitz,** Dtsch. med. Wochenschr. 1893. No. 51. S. 1893. 41) **Appelbaum,** Berliner Klin. Wochenschr. 1902. No. 1. 42) **Kuthy** u. **Wolff-Eisner,** Die Prognostellung bei d. Lungen Tubekulose, 1914. 43) **Hewson,** Experimental inquiries in the properties of blood, London, 1771. 44) **Hunter,** Treatise on the blood, London, 1774. 45) **Fahracus, Biochem,** Ztschr. 1918. Bd. 89. H. 5-6. 46) **Plaut,** Much. med. Wochenschr. 1920. No. 10. 47) **Westergren,** Beitr. z. Klinisch. d. Tub. Bd. 46. 1921. 48) **Katz,** Zeitschr. f. Tub. Bd. 35. H. 6. 1922. 49) **Szaboky,** Zeitsch. f. Tub. 1911. 50) **佐藤理太郎,** 實驗醫學雜誌, 第10卷, 第8號, 1926. 51) **高橋三千彥,** 實驗醫學雜誌, 第11卷, 第3號, 1927. 52) **伊藤種次郎,** 結核, 第8卷, 第3號, 1930. 53) **伊藤, 飯田, 野尻, 澁川,** 大阪醫事新誌, 第1卷, 第5號, 1930. 54) **眞柄直正,** 實驗醫學雜誌, 第13卷, 第3號, 1929. 55) **大隅, 澁川,** 日本傳染病學雜誌, 第5卷, 第12號, 1931. 56) **今村荒男,** 大阪醫事新誌. 第2卷, 第2號, 1931. 57) **今村荒男,** 大阪醫事新誌, 第2卷, 第3號, 1931. 58) **高橋,芦村,** 結核, 第8卷, 第12號, 1930. 59) **澁川隆曹,** 大阪醫學會雜誌, 第31卷, 第4號, 1932. 60) **緒方準一,** 昭和五年, 結核病學會竝＝結核, 第10卷, 第3號, 1932. 61) **澁川隆曹,** 昭和五年, 六年結核病學會, 62) **緒方, 澁川,** 結核, 第9卷, 第1號, 1931. 63) **澁川, 天川,** 日本傳染病學雜誌, 第9卷, 第12號, 1932. 64) **貴島, 澁川,** 結核, 第8卷, 第12號, 1930. 65) **岩佐大治郎,** 結核, 第6卷, 第2號, 1928. 66) **Murphy, Jas, B. Ellis, A. W. M.,** Journ. Exp. Med., 1914, 29, 397. 67) **Murphy, Jas, B.** and **Sturm, E.,** Journ. Exp. Med., 1919, 29, 1. 68) **Murphy, Jas,** B. and **Sturm, E.,** Journ. Exp. Med., 1919, 29, 1. 69) **Murphy, Jas, B.,** An experimental stud, Monograph of the Rockefeller Institute for Mydical Research, No. 21 New Eork, 1926, 137. 70) **Cunningham, R. S.** and **Tompkins, E. H.,** Am. Rev. Tub., 1928, 17. 71) **Wiseman, B. M.,** Journ, Eex. Med., 1932, 56, 185. 72) **Sabin, F. R.,** Bull. Johns Hopkins Hosp., 1923, 34, 277. 73) **Doan, C. A.** and **Sabin, F. R.,** Journ. Exp. Med., 1927, 46, 315. 74) **Doan, C. A.** and **Sabin, F. R.,** Journ. Exp. Med., 1930, 52, suppl. 3, 113. 75) **Sabin, F. R., Doan, C. A.** and **Cunningham, R. S,.** Tr. Nat. Tub. Assn., 1926, 22 nd Annual Meeting. 76) **Kenneth C. Smithburn, M. D.,** Journ. Eex. Med. Vol. No. 2, 1932. 77) **Westergren,** Dtsch. Med. Wochenschr., Nr. 7, 1923. 78) **Pirquet, C.,** Feer's Lehrbuch d. Kinderheilkunde. 8. Aufl. 1922.

附 圖 說 明

重症肺結核患者105名ノ末期ニ於ケル全血液中人型結核菌ノ增殖標本ヲ顯微鏡寫眞機ニテ撮影セリ。